



平成21年度

# 琉球大学概要

University of the Ryukyus  
2009



# 琉球大学憲章

(平成19年5月22日制定)

## 前文

琉球大学は、1950年、沖縄戦により灰燼に帰した首里城の跡地に創設された。米国の統治下で、戦後復興と教育再興という住民の強い要望が米国軍政府を動かし、琉球列島初の大学が創設されたのであった。その後、1966年に琉球政府立となり、1972年の日本復帰と同時に国立大学となった。また、1977年に西原町・宜野湾市・中城村の3市町村の接点地域にある広大な新キャンパスへ移転し、2004年には国立大学法人となって、現在に至っている。その間、琉球大学は学問の自由や大学の自治への干渉等、幾多の歴史的試練を経ながらも、地域の人材養成と知の創造に大きく貢献してきた。

21世紀を迎え、大学を取り巻く環境は大きく変化している。経済・社会のグローバル化をはじめ、情報化、少子高齢化、社会的・地域的格差の拡大等の課題に対応して、教育研究機関の役割が多様化するとともに、革新的な取り組みが問われている。とくに国立大学は法人化後、厳しい財政改革を伴う競争と評価の時代を迎えている。琉球大学に対しては、広大な海域を含む島嶼地域における拠点大学として、豊かな自然環境を守り、地域社会の持続的発展に寄与することが求められている。琉球大学は、この憲章に掲げる理念に基づいて、本学の構成員である教職員・学生の協働により、将来の制度変革にも積極的に対応する。

琉球大学は、沖縄の歴史的教訓としての「<sup>命</sup>命どう宝（命こそ宝）」という生命および個人の尊厳の考え方を根本に置き、「再び戦争の惨禍が起こることのないように」とする戦後沖縄の教育原点を深く自覚する。琉球大学は、自然的・文化的・歴史的特性を有する琉球列島にあって、世界の平和と福祉の向上を目指す人間性豊かな責任ある人材養成に果敢に挑戦することを、今後とも変わることのない使命とする。

私たち琉球大学の教職員・学生は、「自由平等、寛容平和」の建学の精神を継承・発展させ、「地域特性と国際性を併せ持つ個性豊かな大学」を創り上げる決意を高らかに宣言し、自らが主体となって行動を起こす際の依るべき根本規範として、ここに琉球大学憲章を制定する。

## 第1章 教育

(教育の目的と理念)

1. 琉球大学は、学生が学習権の主体であることを踏まえ、教育を重視する大学として「自由平等、寛容平和」に満ちた社会の形成者を育成することを教育の目的とする。また、自主自立の精神に基づく教育活動を通して、社会全体の持続可能な発展に寄与することを教育の理念とする。

(教育における責務と社会的評価)

2. 琉球大学は、すべての人々に生涯を通じた教育の機会をひとしく提供し、高等教育機関にふさわしい教育活動を維持、強化、発展させることを責務とする。また、琉球大学は、教育活動において社会に対する責任を負っており、前項に掲げる教育の目的と理念に照らし合わせ、社会的評価を受けることを深く自覚する。

(多文化交流の推進)

3. 琉球大学は、琉球列島が多様な文化を育ててきた地域であること、また、多面的な文化交流によって心豊かな人間性が培われることに鑑み、人類が地球上に開花させてきたあらゆる文化を尊重し、交流を推進する。

## 第2章 研究

(研究の理念)

1. 琉球大学は、学問の自由を尊重し、基礎研究と応用研究は研究活動の両輪であることを踏まえ、知を継承・創造し、発展させることを研究の理念とする。

(地域特性)

2. 琉球大学は、基盤研究の重要性を認識した上で、特色ある自然・文化・歴史を有する琉球列島の地域特性を活かした研究を多様な視点から展開し、世界水準の個性的な研究拠点たることを目指す。

(研究交流の推進)

3. 琉球大学は、地域社会と情報を共有するとともに、国内の機関およびアジア・太平洋地域をはじめとした諸外国の機関との研究交流を推進し、世界に向けて成果を発信する。

(研究における責務と社会的評価)

4. 琉球大学は、知の継承・創造・発展という研究理念を実現する責務と社会から求められる役割との均衡をとりながら、健全な研究体制の維持・発展に努める。研究は、社会的倫理と規範を遵守しつつ、学術的批判および社会的評価を受けながら進められるべきである。

## 第3章 社会貢献

(開かれた大学と社会的使命)

1. 琉球大学は、社会に「開かれた大学」として、人と人とを結びつける大学を目指す。また、大学が社会を変え、社会が大学を変えるという相互関係を自覚し、琉球列島における最高学府として本学の社会的使命を果たすべく、不断の努力を行う。

(社会との協働)

2. 琉球大学は、学術的に確立した知識・技術を社会に還元するだけでなく、社会と共有する諸課題の解決に取り組む対等のパートナーとして、多様な個人・団体と協働する。

(地域社会の持続的発展への責任)

3. 琉球大学は、地域社会の再生に取り組むとともに、豊かな自然環境を守り、持続可能な地域社会の発展に寄与する責任を担う。

## 第4章 大学運営

(基本的人権の尊重)

1. 琉球大学は、基本的人権を尊重し、人種、信条、性別、国籍、障害等による差別をしない。また、自らの保有する情報を積極的に公開するとともに、個人情報の保護を図る。琉球大学は、すべての構成員がその個性と能力を発揮しうよう、教育・研究・労働環境の整備を図る。

(民主的な大学運営と効率的経営)

2. 琉球大学は、学問の自由と大学の自治を保障するため、民主的な大学運営と教育・研究を支援する効率的な経営を行う。また、法人化後の大学をとりまく環境に対応し、競争と評価に耐えうる財政基盤の確立と健全な経営に努める。

(自律と連帯)

3. 琉球大学は、教職員の自律と連帯に基づく知的共同体を形成し、教職員と学生が一体となって創造・発展する大学を目指す。本学の構成員は、全学的な視点に立ち、それぞれの役割と責任を主体的に果たし、社会の多様な意見を本学の運営に反映させるよう努める。

## 終章 平和への貢献

沖縄は、アジア諸国間の平和と友好の架け橋として「万国津梁」を担った歴史と沖縄戦において「鉄の暴風」と呼ばれる激戦地とされた歴史を有する。また、戦後の長い米軍統治を経て日本に復帰した現在も、沖縄には広大な米軍基地が存在する。このような沖縄の歴史と現状を踏まえ、琉球大学は、国際平和の構築に貢献する。

琉球大学は、倫理・人道を尊重し、この憲章に掲げる教育、研究、社会貢献、大学運営における目的、理念に基づき、平和に寄与する。

(憲章の改正)

この憲章の改正は、別に定める手続きにより行う。

## 附則

この憲章は、平成19年5月22日から施行する。



## 目次 Contents

学長あいさつ President Greeting	2
琉球大学の基本的目標 Educational Philosophy of the University of the Ryukyus	3
副学長あいさつ Vice President's Greeting	4
特色ある教育・研究活動 Education and research activities	8
法文学部 Faculty of Law and Letters	16
観光産業科学部 Faculty of Tourism Science and Industrial Management	17
教育学部 Faculty of Education	18
理学部 Faculty of Science	19
医学部 Faculty of Medicine	20
工学部 Faculty of Engineering	21
農学部 Faculty of Agriculture	22
大学院 Graduate Schools	23
専攻科 Special Programs	27
大学教育センター University Education Center	28
附属図書館 University Library	29
保健管理センター Health Administration Center	30
教育学部附属学校 Elementary and Junior High Schools	30
医学部附属病院 University Hospital	31
学部附属の教育研究施設等 Facilities for Education and Research	32
熱帯生物圏研究センター（全国共同利用施設） Tropical Biosphere Research Center	34
学内共同教育研究施設 Inter-Departmental Institutes for Education and Research	35
学内共同利用施設等 Joint-Use Inter-Departmental Institutes	37
資料 Data	41



## 学長あいさつ *President Greeting*

# 「地域特性と国際性」を持ち未来へ発展し続ける大学

学 長 岩政 輝男  
President IWAMASA TERUO

琉球大学は他の国立大学法人とは著しく異なる歴史を持ち、幾多の試練を経て今日に至っています。詳しい歴史は沿革の項に記してあります。

簡単に述べますと、1950年(昭和25年)、戦火で焼失した首里城跡地に米国軍政府の所管下に英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部、及び応用学芸学部の6学部の構成で設置されました。開学以来、米国のState Universityの一つで、Land Grant Universityであるミシガン州立大学の指導を受け、研究成果を地域に還元し普及(extension)させ地域に貢献する大学を目指しました。1966年(昭和41年)に琉球政府立となり、1972年(昭和47年)に沖縄の本土復帰とともに国立大学となりました。1979年(昭和54年)に教育学部、法文学部、理学部、工学部、農学部及び医学部よりなる総合大学となり、2004年(平成16年)に国立大学法人琉球大学となっています。その後、2004年に法科大学院、2008年に観光産業科学部が設置され、現在の7学部と法科大学院より構成される大学となりました。

開学以来地域へ貢献する大学であり、「地域特性と国際性」を持ち未来へ発展し続ける大学です。

本学は次のように特色ある教育・研究を行っています。

沖縄県は、琉球王国時代に世界と交易し発展した歴史と亜熱帯環境に基づく地域特性等を有し、沖縄を中心とし海を介し豊かなアジア太平洋地域に広がる独自の文化と思想を発展させてきました。琉球大学はそれらの継承と現代における発展進化を行い、特色ある様々な研究を行っています。現在のグローバルゼーションのもとで起こっている経済問題をはじめ色々な問題に対応する南の柔らかな個性ある学知を打ち立て教育研究を行い、広く世界に知の貢献をしています。

特色ある研究としては①サンゴ礁海域の生物に関する研究(COE)に採択され沖縄・アジア・太平洋域の自然を研究対象としています。今年より熱帯生物圏研究センターと分子生命科学センターが統合し、さらにこの分野の研究は発展します。②熱帯や亜熱帯農学の研究、バイオテクノロジー、③先端的医学による熱帯感染症や腫瘍、さらに老化や生活習慣病の研究、④地域特性を生かした工学や情報科学の研究、⑤理・工・農・さらに法文学部も加わり台風や地震などの自然災害に関する研究(昨年より島嶼防災研究センターを作り研究の進展を図っています。)があります。この他、大学の大きな特色となっている⑥沖縄を中心とするアジア太平洋文化圏の歴史や文化、民俗学の研究等はアメリカ研究センター、移民センター、アジア太平洋島嶼研究センターを統合し国際沖縄研究所としてさらに発展し成果が期待されています。⑦教育学部のGP(good practice)などをもとにした新しい取組みなど色々な分野で魅力ある研究教育があります。

さらに幅広い教養や基礎科学を修習することも重要です。現在、琉球大学は世界の61大学と交流協定を結び、学生の交流や研究教育の交流を行い欧米、アジアなど多くの言語が研究教育に活用されています。

大学院博士課程の教育も充実しています、人文社会科学、理工学、農学、医学、保健学の博士課程の他に、法科大学院や医学部の感染症に関する独立専攻科大学院博士課程があります。

本学は自然環境を大切に考え、エコアクション21の認証の為の審査が2007年から2009年にかけて行われているところです。

The University of the Ryukyus has a markedly different history from that of other national universities and through many ordeals, we stand here today. A detailed history of our university is presented in the History Outline pages of this brochure.

The University of the Ryukyus was established in 1950 with the support of the United States Military Government, on the site of the ancient Shuri Castle. At that time, it consisted of 6 faculties: English, Education, Social Sciences, Science, Agriculture, and Applied Liberal Arts. After its establishment, the university received guidance from Michigan State University, a land-grant university, with the aim of creating a university that contributed to the local community by extending academic results to the community. In 1966, administration of the University of the Ryukyus was transferred to the Government of the Ryukyu Islands. In 1972, when control of Okinawa reverted to Japan, the University of the Ryukyus fell under Japanese Government administration and became a national university. In 1979, the university became a comprehensive university with six faculties: Education, Law and Letters, Science, Engineering, Agriculture, and Medicine. In 2004, all national universities including the University of the Ryukyus were transformed into so-called National University Corporations. That same year, the Graduate School of Law was established, and the Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management was established in 2008. Now the university consists of seven faculties and the Graduate School of Law.

Since its foundation over 50 years ago, our university has contributed to the local community, and we will continue to make improvements as a university with both local and global features.

Okinawa's unique regional characteristics are rooted in a history developed through inter-regional trade throughout East and Southeast Asia during the Ryukyu Kingdom Era, and in being a small island group located in the subtropical zone. Okinawa has developed its distinctive culture and ideas, which have spread across the Asia-Pacific region through the oceans around Okinawa. At our university, various unique researches have been conducted based on the inheritance of such unique characteristics and developments in our modern society.

Thus, the University of the Ryukyus contributes to the collective global knowledge base utilizing the supple and flexible mind from the south to deal with critical issues, such as economic problems raised in the modern days of globalization.

The kind of research we conduct includes:

1. Biodiversity in Coral Reefs (selected as a COE program, focusing on the natural environment in Okinawa as well as the Asia-Pacific region.) In 2009, the Tropical Biosphere Research Center and the Center for Molecular Biosciences was integrated and researches in those fields are expected to be further developed.
2. Tropical and sub-tropical agriculture and biotechnologies
3. Advanced medicine for tropical infectious diseases, tumors, aging, and lifestyle-related diseases
4. Engineering and information technology that takes advantage of Okinawa's regional characteristics
5. Studies of disasters due to global warming, in collaboration with the Faculties of Science, Engineering, Agriculture, and Law and Letters (the Disaster Prevention Research Center for Island Regions was established in 2008 aiming to expand research on disaster prevention.)
6. Histories and cultures, as well as folklore studies in the Asia-Pacific region, centering on Okinawa. In 2009, the International Institute for Okinawan Studies was newly established by integrating the American Studies Center, the Center for Migration Studies and the Center for Asia-Pacific Island Studies, and more advanced research is expected.
7. GP (good practice) Program conducted by the Faculty of Education

Furthermore, it is vital to acquire education with broad perspectives and basic sciences. We currently have exchange agreements with 61 universities world-wide to promote exchanges in education and research. Such active exchanges with our partners also help us to enrich our language education, especially the European and Asian languages.

Doctoral programs offered through our Graduate Schools include those in Humanities and Social Sciences, Engineering and Science, Agriculture, Medicine, and Health Sciences, as well as the Graduate School of Law and the Medical Science of Infection Control Division.

The University of the Ryukyus places a very high level of importance on our natural environment. From 2007 to 2009, we are undergoing an assessment for EcoAction21 certification by the Institute for Global Environmental Strategies.

略 歴：昭和41年 熊本大学医学部卒  
平成12年 琉球大学医学部長  
〃 17年 琉球大学副学長・理事  
〃 19年 琉球大学学長

専門分野：病理学  
学位：医学博士  
学会：日本病理学会名誉会員  
その他：Editorial board: Acta Histochemistry et Cytochemistry, Pathology, Research and Practice など  
学術審議会専門委員(科学研究費第一段及び二段審査委員)  
沖縄奨励賞選考委員などを歴任

Biographical outline 1966 Graduated from the Faculty of Medicine, Kumamoto University  
: 2000 Dean, Faculty of Medicine, University of the Ryukyus  
2005 Vice President, University of the Ryukyus  
2007 President, University of the Ryukyus  
Pathology

Research field : Ph.D., Medicine

Degree : Honorary member, the Japanese Society of Pathology

Academic Society : Acta Histochemistry et Cytochemistry, Pathology, Research and Practice

Editorial board : Expert member for the first stage and second stage review of the Scientific Research Grant, Science Council

Others : Member of selection committee for the Okinawa Research Encouragement Prize

## 琉球大学の基本的目標 Educational Philosophy of the University of the Ryukyus

### ■基本理念

沖縄戦で尊い人命や多くのものが失われ、現在も広大な基地を抱えているところなどから、琉球大学は建学以来平和や自由を大切に考え「自由平等、寛容平和」を理念とし、真理の探究と地域や国際社会への貢献を目指してきました。

### ■大学像

21世紀を迎え、変化の激しい時代となってきました。地球温暖化も起こっています。先進国の利益に基づく開発という名の下での資源の浪費は資源の枯渇や紛争を招き、北の先進国の理屈ではなく、南の柔らかで豊かな琉球大学の学知や思想とエコロジーを推し進めることなどが現在の社会に必要なと考えます。

琉球大学は開学時のミシガン州立大学の指導の下に地域に貢献する大学の伝統があり、地域と共に歩み、国際交流を行い、先進国の理屈ではなく、アジアの国々と学術や教育を通じた知の環を広げています。世界に知的貢献をするために欧米の国々とも交流を行います。さらに、ジェンダーや国籍を超えて人材の育成を行っています。大学像は、具体的には次の様にまとめられます。

- ①教育研究を通じ、地域社会に貢献する。
- ②国際交流を通じ、アジアの国々と知の発展を進める。
- ③世界の知の拠点として優れた教育・研究を行う。

### ■人間像

琉球大学には、優れた教育研究を通じ有為な人材を社会に送り出す使命があります。次のような人材を育てます。

1. 地域や広く社会に貢献する人
2. 国内だけでなく世界でも活躍する人
3. 自らの夢を実現するために努力する人
4. 意欲と柔軟な考え方を持つ人
5. 沖縄の歴史や大学の基本理念を生かし役立てる人

### ■長期目標

建学以来の伝統と基本理念に基づき、琉球大学が地域や国際社会に貢献し、世界の知の拠点として発展するためには若者の育成がもっとも大切であり、地道な努力が必要です。大学は今日まで科学や芸術、さらに政治や経済など様々な領域で活躍する指導者を育ててきました。このことは将来も変わらないと考えられますが、大学を取り巻くこれからの社会の変化、特にグローバル化や人口の変化、新しい領域や学際性格を持つ学問の展開など様々な事柄に速やかに対応していく必要があります。そこで我々の目指すのは次のようなことです。

1. 卒業生の質の向上を目指す教育を行う
2. 若い研究者の可能性や新しい学問を発展させる環境をさらに整える
3. 基礎研究や沖縄の地域特性を生かした研究を推進する
4. 広く社会に知の貢献をする大学を目指し、学問の継承と自ら新しい学問の創造を行う

大学がさらに発展し、目標の達成を目指すためには、自由な発想が出来る優秀な教職員と意欲ある学生、そしてしっかりした財政基盤と柔軟な運営体制が必要です。意欲ある学生の皆さんに期待しています。

### Guiding Principles

Okinawa was the site of the final battle of the Pacific War, which resulted in the loss of a great number of lives as well as heavy destruction to its nature and cultural heritage. To this day, vast US bases still remain in Okinawa. For these reasons, the University of the Ryukyus has followed its guiding principles of "Freedom and Equality, Tolerance and Peace" since its founding. The quest for truth, and the desire to make a meaningful contribution to both our immediate region and to global society more broadly continue to be our primary objectives.

### Our University's Vision

The world continues to change dramatically in the 21st Century. Global warming has become a serious threat. The wasteful use of resources for development primarily benefiting advanced countries has and continues to lead to the depletion of natural resources and regional conflicts.

As such, it becomes important for our modern societies to put an emphasis on our abundant wisdom and nice, flexible mind of the south, as alternatives to the theories that benefit the advanced countries in the north, and we must pay particular attention to the vital importance of ecological and environmental issues.

The University of the Ryukyus, established under the guidance of Michigan State University, has developed its own traditions of contributing to and advancing along with the local community, of conducting international exchange, of broadening our knowledge base through academic and educational activities, particularly on a regional level with other Asian countries with whom we share many commonalities, but also to make a global intellectual contribution in exchange with Europe and America. Furthermore, we enhance development of human resources, regardless of gender and nationality. Our university vision can be summed as follows:

1. Contribute to society both locally and globally through education and research.
2. Promote the advancement of knowledge with other Asian countries through international exchange.
3. Conduct high-quality education and research as a global knowledge hub.

### Human Resources

The mission of the University of the Ryukyus is to send promising individuals out into society with a high-quality education. We aim to cultivate individuals with the following qualities:

1. Those who can make contributions at the local level as well as on a larger societal scale
2. Those who can take an active role both nationally and globally
3. Those who will strive to accomplish their dreams
4. Those who possess drive and are open-minded
5. Those who can learn from Okinawan history and the university's guiding principles and take advantage of them

### Long-term Goals

Our university strives to make contributions to both local and global society based on our founding traditions and principles. In order to develop our university as a knowledge hub to the world, it is necessary to have dedication and nurturing young individuals is of vital importance.

We have played our role over the years in developing leaders who are active in areas such as science, fine arts, as well as politics and economics. Although we will continue to develop high quality individuals in these areas, our university must also respond to emerging trends that will have both a local and global impact, such as social change as a result of globalization and population shifts. We need to look at academic development in new areas, as well as in fields of an interdisciplinary nature. With these matters in mind, we have established the following goals:

1. Conduct education which focuses on continual improvement in the quality of graduates
2. Improve the environment in which the potential of young researchers and new academic fields is developed
3. Promote basic research and research utilizing Okinawa's regional characteristics
4. Strive to be a university which makes intellectual contributions to society at large, which passes on learning and generates new learning.

In order for the University of the Ryukyus to aim towards future expansion and the achievement of its goals, it is necessary to have high-caliber faculty and students with drive, along with a sound financial basis and flexible management. We have high hopes for and expectations of our strongly-motivated students.

Promotion of scientific research and international exchange

琉球大学における学術研究と国際交流の推進



副学長(研究・国際交流担当) 平 啓介

Vice President (Research and International Affairs) TAIRA Keisuke

琉球大学では841人の教員と修士課程620人、博士課程384人の大学院生が日夜研究に励んでおります。そして約1800人の4年生が卒業研究に携わります。亜熱帯の島嶼にありますが、本学の研究は世界につながっています。情報通信技術 (ICT) が大きな役割を果たし、文献図書は電子図書館で利用します。文系では図書資料が、理系では実験機器が、そして学会参加や調査旅費も必要です。国立大学のころは国が全面的に支えていましたが、法人化後は競争的資金の獲得が重要になりました。研究の直接経費だけでなく間接経費は全学的な研究基盤の整備に欠かせないものです。民間を含む外部資金の獲得のために琉球大学の研究情報を社会に発信する研究者総覧などのデータベースの充実が課題です。研究支援や事務を担当する大学職員とのチームワークが大切です。

琉球大学は61大学と国際交流協定を結んでいます。学生交流のための新しい制度の確立や奨学金の獲得、そして外国語運用能力を高めたいと思います。本学には45か国から約300人の留学生が学んでいます。日本人学生職員との交流、宿舍の充実、就職など留学生支援を充実します。また、科学研究費や寄付金の拡充により学術交流を盛んにしたいと願っています。

At the University of the Ryukyus, 841 faculty members, 620 master's students and 384 doctoral students are devoted to scientific research. About 1800 forth-year students in undergraduate programs are also engaged in research work for their graduation assignments. The university is located in a subtropical island, however various researches carried out on our campus links us to the rest of the world. Information and Communication Technology (ICT) plays an important role not only for networking world-wide, but also for electronic library references. Research requires various source books and experimental apparatuses, as well as travel funds for field studies and conferences, which in the past, were supported mainly by the national university system. Since the incorporation of all national universities in 2004, each university has had to obtain competitive funds on its own, not only for research costs but also for overhead expenses for facilities and management. In order to acquire external support, including funds from private enterprises, it is essential to disseminate information about our research activities to society and to raise public awareness by enhancing our research databases and websites. It is also important to strengthen cooperation with the technical and administrative staff providing support for research activities.

The university has international exchange agreements with 61 universities overseas. To promote active student exchange, provide opportunities for students to study abroad, and improve communicative competence of foreign languages, our university makes efforts to enhance learning environments by offering scholarships and establishing new programs such as a sandwich program and a double degree program.

At present, approximately 300 overseas students from 45 countries are studying at our university. We plan to enhance our support for international students by promoting cultural exchanges with Japanese students and staff, expanding housing, and providing assistance for job placement in Japan. Academic exchange with institutions overseas will also be promoted by securing various research funds and donations.

Challenge Stereotypes  
固定観念への挑戦



副学長(企画・経営戦略担当) 大城 肇

Vice President (Planning and Management Strategy) OSHIRO Hajime

琉球大学は、アジア・太平洋地域の中心に位置する島嶼県・沖縄に立地しています。歴史的にも、本学は、ミシガン州立大学など米国大学の影響を受け、特異の発展を遂げてきました。その学風は、自由で寛容であり、キャンパス内にはリベラルな気風が漂っています。

南の輝く太陽の下で過ごす学生生活は、のんびりしていませんが、ものごとを多面的、俯瞰的に見る視座を培ってくれます。

ICTの発達などによって、今日、地球上で起こっている金融危機、環境問題、地域紛争などは、瞬時に世界を駆けめぐり、人びとの生活にさまざまな影響を与えています。沖縄から日本、アジア、世界を見通す確かな眼をもつことが大切です。

本学では、これまでの固定観念に挑戦し、自ら問題に取り組み、自ら解決していく能力と社会で生き抜く能力、沖縄の言葉でいうジンブン (=人間力) を身につける教育を行っています。ものの見方や考え方が変わると、自分が変わり、人生が変わります。

私たちは、皆さんが自分の可能性を探り、豊かな人生の礎(いしずえ)を築いて夢を実現することをお手伝いいたします。

The University of the Ryukyus is located on the island of Okinawa, which is the geographical center of the Asia Pacific region. Historically, our university has shown unique progress under the influence of American institutions, such as Michigan State University.

Our academic tradition is characterized by freedom and tolerance, which in turn creates a campus with a liberal atmosphere. Students enjoy a relaxed campus-life under the southern sunshine while cultivating a diverse and panoramic view of life.

With the development of information and communication technology (ICT), issues that we face today such as financial crisis, environmental problems, regional conflicts, etc., spread around the world instantly, and such current affairs affect various aspects of human life. It is significantly important for us to look at Japan, Asia and the rest of the world from an Okinawan perspective, and to gain clear insights into various situations.

Our university has provided education which encourages students to challenge stereotypical ideas, deal with issues on their own, and develop their human capacities solve problems and survive in the society, called "jinbun" in Okinawa dialect.

If you change the way you think and see things, you can change yourself, as well as your life. We will help you explore your possibilities, build a foundation for a fruitful life, and accomplish your dreams.

## A new approach to education –we will make you a “global citizen”– 社会で役立ち自己を磨く「学士力」を育成します！



副学長(教育・学生・評価担当) **新里 里春**  
Vice President (Education, Student Affairs and Evaluation) SHINZATO Rishun

琉球大学における教育の特質を端的に述べると「リベラルアーツ型」教育です。それは大学の開学当初からの遺産です。

大学は今、その伝統をさらに追及することを再確認しました。その理由は、大学への全入時代を迎えるに当たって、学生の入学後の資を保証するより良い方法だと考えたからです。すなわち、琉大生の「人間力」「学士力」を高める教育方法がリベラルアーツ型教育です。それによって学生が授業において予習・復習した内容をグループ・ディスカッションやプレゼンテーションすることでコミュニケーション力、プレゼンテーション力、協調性、等の大学卒業生の資質・リーダーシップが育成されます。その過程において学生は、真理の探究へのモチベーションの向上等、自己実現の原動力を形成します。

琉球大学では講義のみならずサークル活動、ボランティア活動等を通してこれらの「力」が形成されることも推奨し支援します。

The University of the Ryukyus' education has been characterized as a “liberal arts type education,” since its foundation. However, today is a new era with a Japanese college population whose academic efficacy is worsening, which implies that universities should reform their educational methods.

In order to maintain or increase the academic efficacy of the previous era, the University of the Ryukyus will emphasize the educational methods of a “liberal arts type education.”

These methods will emphasize group discussion and presentations to improve communication skills, reading, thinking, cooperativeness, and leadership, motivated by students' willingness to learn and study the truth, and to self-actualize.

The University of the Ryukyus encourages students to acquire these efficacies not only through academic activities, but through club activities and/or volunteer activities as well.

## Financial report of the university 大学の財務報告書



副学長(財務・施設・医療担当) **親川 兼勇**  
Vice President ((Financial, Facilities and Hospital Management) OYAKAWA Kenyu

琉球大学は、大学の基本理念や特性を踏まえ、5つの区分ごとに定められた6年間の中期目標を定め、それを達成するための中期計画・年度計画に基づいて大学運営を行っています。区分は、①教育研究の質の向上、②業務運営の改善と効率化、③財務内容の改善、④自己点検・評価および情報提供、⑤その他業務運営に関する重要事項、となっています。

この中で、財務運営にかかるPDCAサイクルは、目標・計画(Plan)(中期目標・中期計画、年度計画)、予算執行・決算(Do)(月次決算、年次決算)、監査(Check)(監事・会計監査人監査、会計検査院検査、内部監査)、評価・反映(Action)(文部科学大臣、国立大学法人評価委員会、大学評価・学位授与機構(教育・研究のみ))となっています。

大学運営には、本来の目的である教育・研究の遂行に関連して、業務の流れと財務の流れの二つの流れがあります。財務の流れは貸借対照表、比較貸借対照表、損益計算書、比較損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などの会計処理の諸表で表します。

これらの諸表によって運営費交付金、授業料などの収入や、教育費、研究費、人件費などの支出状況がわかります。また琉球大学の活動を、財務の流れという裏面から眺めることができます。なお、本学では、毎年財務報告書を作成して広く関係の皆さんに配布するとともに、ホームページを通じての公表、マスコミへの記者発表も行っています。

Basing on the guiding principles and characteristics of the university, the University of the Ryukyus decided midterm goals through six years in 2004, for five specific divisions provided. The university management is executed, according to the midterm and every business year plans for accomplishing the midterm goals. The provided divisions are ①improvement of quality for education and research activities, ②enhancement of business matter's efficiency, ③improvement for financial affairs, ④self-examination and evaluation and information provision, and ⑤other important business matters.

PDCA cycle in financial operation consists of Midterm goals and Plans(Plan), Budget execution and Settlement of accounts(Do), both External and Internal audits by inspectors general and auditors(Check) and Evaluation by National University Corporation Evaluation Committee and Reflection to the university(Action).

University management has two flows related to education and research works. One is business flow and the other is financial flow. The financial flow appears in financial statements as balance sheet, comparative balance sheet, profit-and-loss statement, and cash flow statement etc.

Through these statements, one can see income of University of the Ryukyus, such as the management expenses grant given from government, tuition and so on, and outgo of the university, as education, research and personnel expenses, etc. Also, university's usual behavior is able to be viewed by these statements from financial side. Financial report is published every year and is uploaded to Home Page, as well as the press release.

## Contribution to Society through Returning Research Results 地域に貢献する大学



副学長(社会連携担当) 宜保 清一  
Vice President(University Society Relations) GIBO Seiichi

琉球大学は、教育と研究を強力に推し進めるとともに、地域に根ざした大学として社会経済および文化の発展に貢献しています。産業面の社会貢献では、産学官連携を通じて、大学の保有する研究リソース(人材、知的財産、技術、ノウハウ、情報、施設、設備など)を積極的に社会に還元し、地域産業の振興発展に貢献すべく積極的に推進しております。

このため、沖縄県と産業面での連携協定を締結し、沖縄振興開発金融公庫と産学連携推進に関する覚書を締結して連携を深め、戦略的に振興すべき重点産業を支援しています。平成20年4月には「琉球大学産学官連携推進機構」を設置し、沖縄県の産学官連携活動の中核機関として、また、本学と産業界や行政等を結ぶ窓口として、次のような活動を積極的に実施しています。①研究シーズや企業ニーズ調査、技術相談マッチング支援 ②共同研究、委託研究等のプロジェクト提案支援 ③知的財産の創出・保護・活用 ④大学発ベンチャーの創出支援 ⑤沖縄におけるイノベーション創出の仕組み構築支援

また、琉球大学を中心に、沖縄県、沖縄県工業連合会、OKINAWA型産業振興プロジェクトの4者により提案している「産学官連携拠点形成事業」では、バイオ関連産業や健康ビジネス産業など新産業創出の核となる有望な研究シーズ創出や具体的な事業化を促進し、沖縄が日本・アジアの健康長寿に資する「健康バイオ産業」の拠点構築を目指しております。

The University of the Ryukyus has been effectively contributing to Society through Returning Research Results as well as education and research activities.

As for the contribution to local industry, in order to promote local economic development, we are promoting the advancement of research resources, such as researchers, intellectual properties, research outcome, research information and research facilities through university industry collaboration.

Moreover, the University of the Ryukyus provides strategic support to, especially the priority industries in Okinawa, through the economic partnership agreement with the Okinawa Prefecture as well as the Okinawa Development Finance Corporation (A Government-Affiliated Financial Corporation).

In April 2008, the Organization for University – Industry Collaboration was set up at the University of the Ryukyus, which promotes the following activities in order to better serve Society through Returning Research Results; ①Initiation of New Research Activities, ②Promotion of collaborative research, entrusted research and other forms of collaborative research partnerships with private companies, ③Practical Application of the Cycle of Intellectual Property Creation, ④Supports and helps promote start-up businesses especially university spin-off ⑤ Advancement of formulation of innovation creation.

## Title: University to celebrate its 60th Anniversary 琉球大学は60周年を迎えます



副学長(IT戦略・財団・同窓会・60周年記念事業担当) 宮城 隼夫  
Vice President(IT Strategy, University Foundation, Alumni Association, 60th Anniversary) MIYAGI Hayao

琉球大学は、2010年5月に創立60周年を迎えます。60周年に際し、同窓会、後援財団と連携して次のような事業を行うことにしています。

- (1) 記念誌の発行: 本学には沖縄の政治的特殊事情とともに歩んできた歴史があります。事実として残された原資料と当事者の記憶に基づいた記念誌を発行して、過去の歴史を見つめ、新しい琉球大学のアイデンティティにつなげます。
- (2) 教育・研究・国際交流推進事業: 琉球大学後援財団が琉球大学に行っている教育・研究奨励事業、国際交流推進事業を、60周年を機にさらに充実させて、安定的に支援を行っていきます。
- (3) 千原花の杜造園事業: キャンパスが緑に包まれ、四季折々の花が咲く、潤いと憩いに満ちた教育研究の環境を、同窓生の協力を得ながら造っていきます。
- (4) 江戸立探検隊: 琉球国の使節団が行った「江戸立」の道中を琉球大学の学生が追体験し、主要地点でのシンポジウムなどを通して、訪問地との交流の歴史、意義、また沖縄の将来像について考えます。さらに、各訪問地では、「南の学知」の拠点として発展する琉球大学もアピールしていきます。

The University of the Ryukyus will celebrate the 60th anniversary of its foundation, on May 22nd, 2010. In celebration of our 60th anniversary, we are planning four major projects, in cooperation with the University of the Ryukyus Alumni Association and the University of the Ryukyus Foundation.

(1) Issuing a Commemorative Publication:

The University of the Ryukyus has a unique history that has followed the same path as the political circumstances of Okinawa. We are planning to issue a commemorative publication based on remaining source documents and human recollections as historical facts, which will help us look back at our history, and lead the way to a new identity for the University of the Ryukyus.

(2) Education, Research and International Exchange Promotion Projects:

Many projects have been carried out by The University of the Ryukyus Foundation to promote education, research and international exchange at our university. To mark our 60th anniversary, the Foundation will enhance those projects in order to provide stable support for education and research as well as international exchange.

(3) Senbaru Flower Landscape Project:

In cooperation with our alumni, we will create a campus that is surrounded by greenery, seasonal trees and flowers, providing a relaxed atmosphere and maintaining a comfortable environment for education and research.

(4) "Edodachi" Expedition:

The "Edodachi Envoy" was dispatched by the Ryukyu Kingdom on a congratulatory mission to the shogun during the Edo period. As a commemorative event for our 60th anniversary, students are planning to follow the same path to Tokyo, formerly known as "Edo". On their way to Tokyo, symposia are planned at several cities and participants will learn the history and meaning of exchange between each city and Okinawa, and discuss the future vision of our university. Moreover, at each city, we are planning to promote the University of the Ryukyus as the center of wisdom of the south.



## Promotion of work efficiency 業務の効率化等の推進



副学長(総務担当) 井手 孝行  
Vice President (General Affairs) IDE Takayuki

平成20年10月1日付けで琉球大学総務担当理事を拝命し、本学の運営管理に参画させて頂くことになりました。

琉球大学は、沖縄固有の自然や文化、歴史的背景の中でその特性を踏まえながら「人間性豊かな人材育成」に果敢に挑戦していくことを将来的にも変わる事のない使命に掲げ、「地域特性と国際性」を持ち未来へ発展し続ける大学として積極的な取組みを行っているところであります。

私としても、微力ながらこうした大学の取組みに少しでもお役に立ちたいと思っている次第です。

国立大学が法人化され6年目を迎えていますが、この間、国から措置される運営費交付金の減額など大学を取り巻く環境には非常に厳しいものがあります。

琉球大学でも、これまで大学を上げて業務の効率化や省力化といった大学運営を行う上での数多くの改善策を講じてきたところでありますが、この先、総務担当として次期中期計画を見据えながら、今一度原点に立ち返り事務組織の役割・在り方や業務の在り方等について見つめ直してみたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

On the October 1 2008, I was appointed Vice President of the University of the Ryukyus in charge of General Affairs to participate in administration management of this university.

The University of the Ryukyus is taking positive action as a university which continues developing into the future with "both local and global features" while standing on the characteristics in nature, culture and historic background specific to Okinawa and also accomplish the mission to cultivate individuals to become well-rounded human beings.

I want to help these university's actions as much as I am able to.

It's been six years since national universities transformed into so-called National University Corporations and during this period, the financial environment of the university has become very severe, such as the reduction of the management expenses grant received from the government.

We have taken many remedies such as promotion of work efficiency and labor savings so far but as the Vice President of General Affairs, I want to reflect a role or the ideal method of office organization while overseeing the next midterm plan. Thank you.



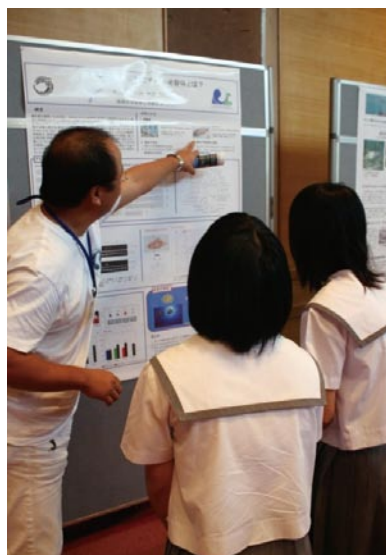
## 「アジア太平洋域におけるサンゴ礁島嶼学教育拠点形成」 “Center for coral reef and island studies in Asia and Pacific regions”

文部科学省は平成14年度から国際競争力を有する世界最高水準の大学づくりを推進するための21世紀COEプログラムを進めてきました。本学が提案した「サンゴ礁島嶼系における生物多様性の総合解析」に関するプログラムは平成16年度に採択され、5年間にわたり世界的な研究教育拠点形成を目指して活発に活動し、大きな成果をあげました。今後は大学独自のプログラムとしてアジア太平洋域の諸大学との国際的な連携を一層充実させた取組みを展開します。

琉球列島の生物相は、大陸と陸続きになる、あるいは分断されるという島々の地史的過程の中で形成されてきました。黒潮やモンスーンがもたらす温暖湿潤な気候の影響を受けていることも大きな特徴で、世界的に見ても重要かつ魅力的な多様性研究の材料があふれています。本学では、サンゴ礁島嶼系を大きなシステムとしてとらえ、琉球列島における生物多様性の進化、維持機構に関し、分子生物学から生態学まで多様な学問分野の手法を駆使して、微生物から脊椎動物まで、また陸上から海洋までを対象として、多くの分野の研究者が連携を保ちながら研究教育し、若手研究者を育成します。

The 21st Century COE Program has been promoted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology since 2002 in order to create internationally competitive universities of the highest quality in the world. During 2004-2008FY, the COE Program of our university aimed to provide comprehensive analyses of biodiversity in coral reef and island ecosystems and establish an international center for research and education. This project will further progress as one of the university's programs with an emphasis on international relationships with institutions in Asia-Pacific region in the future too.

The attractive flora and fauna of the Ryukyu Archipelago have been formed through the geological processes of a land bridge formation and its subsequent fragmentation. They have also been influenced by a mild and moist climate caused by the Kuroshio Current and monsoons. We regard the coastal and terrestrial environment of subtropical islands as a single, large ecosystem. From molecular biology to ecology, researchers from multiple fields are collaborating in research methodologies and education regarding the evolution and mechanisms of biodiversity retention in the Ryukyu Archipelago.



## 「人の移動と21世紀のグローバル社会」 “Human Migration and the 21st Century Global Society”

琉球大学には、琉球弧をめぐる一連の歴史研究、中琉関係・琉朝関係の研究、20世紀以降の沖縄からの日本・ハワイ・アメリカ大陸・南洋などへの移住・移民の研究、戦後の米琉関係をめぐる研究、琉球・沖縄地域の文化の研究、民俗・地域社会の研究などの人文・社会科学系の分野に優れた研究実績があります。

人文社会科学研究科比較地域文化専攻（博士課程後期：平成18年度設置）と国際沖縄研究所（平成21年度設置）は、人文・社会領域における研究実績をさらに発展させ、沖縄を中心としたアジア・太平洋地域の比較地域文化研究の拠点を形成することを目指して、韓国、中国、台湾、タイ、米国の大学等と連携し、「人の移動と21世紀のグローバル社会」をテーマに研究プロジェクト（期間：2008～2012年度）を実施しています。近年ますます顕著となっている世界規模での人の越境・拡散・還流を視野に入れ、人の移動にともなって生起する文化混雑や社会変容などの諸現象に関する普遍的なメカニズムとプロセスを解明することも本プロジェクトの主要な目的のひとつです。また、博士後期課程の学生を中心とした若手研究者の育成もおおきな目的です。

The Department of Comparative Culture and Area Studies of the Graduate School of Humanities and Social Sciences and the International Institute for Okinawan Studies have been conducted a five-year project titled "Human Migration and the 21st Century Global Society." Based on a rich base of research in the fields of humanities and social sciences--for example research in the Sino-Ryukyuan relation, post WWII relation between Okinawa and the U.S., and Okinawan migrations to Japan and the Americas--the project is aimed at making the University of the Ryukyus a center of comparative culture and area studies in the Asia-Pacific region. Universities and research institutes in China, Taiwan, Korea, Thailand, and the U.S. take part in this project as partners in collaborative research. One of the research purposes is to unravel universal mechanism and processes of cultural hybridization and socialization that have been created as results of human migration. The project is also aimed at training graduate students at the department by giving them opportunities to take part in collaborative research.



琉球大学シンポジウム



福建省梅花調査



ハワイ大学シンポジウム



アルゼンチン移民100周年



韓国珍島調査

## 「地域資源を活用した持続可能な発展に関する観光資源教育・人材育成プログラム—実践的島嶼地域モデルの開発—」

### “Project of Human development program and tourism resource education for sustainable community development by using local resources: Developing a practical model of islands”

沖縄島北部（やんばる）地域における自然および文化の資源調査とその持続的な利活用の方法を検討することを目的とし、資源を守り持続的な観光利用としていくための管理体制（リソースマネジメント）やルールづくりの実践的なモデルを地域の現場（行政、NPO、学外の専門家）や他学部（農学部及び理学部）との協働で創り上げていくという地域に根ざした取り組みです。



モデル地域となるやんばるの森で農学部と観光産業科学部の教員と学生が取り組む森林調査

Forest research for DTS and the faculty of Agriculture in the Yambaru case study.

The Project of Human Development is a development and tourism education program aimed at developing sustainable communities using local resources. This project examines natural cultural resources in Yambaru and explores sustainable usage strategies that addresses the three pillars of sustainable development. It is a community based project to create a practical model to sustainably manage resources. It is a cross disciplinary project involving faculties such as Agriculture and Science as well as NPO.



国頭村比地の地元の方々ガイドによる地域の生活文化を伝える散策ツアー（総合地球環境学研究所と学部共催による地域セミナー「やんばるに生きる - 自然・文化・景観のゆたかさを育む地域と観光 - 」：平成21年2月13～14日）

A community-based tour giving insight into the living culture conducted by local people in Hiji community, Kunigami village. (Area seminar cooperated with Research Institute for Humanity and Nature and Faculty of tourism sciences and Industrial management on 13th – 14th Feb 2009)

## 「産官学および医療機関との連携モデルによる地域密着型ヘルスツーリズムの推進」

### “Promotion of community-based health tourism based on a model of cooperation with industry, government, university, and medical institutions”

超高齢社会が到来し健康志向が高まる時代要請に対し、地域資源を健康資源の視点から再構成して「旅行型ヘルスプロモーション」という新しい健康アプローチを提唱し、地域資源を活かした健康保養プログラムの開発に取り組んでおり、フィールド演習に学生が参加しています。日本におけるヘルスツーリズムの類型とモデル開発として、地域および旅行者の健康増進や関連産業の振興に寄与するものとして期待されている分野です。

In response to the demands of this era of the advent of the elderly dominated society and increasing health-consciousness, we propose that regional resources be reorganized from the perspective of health resources and that a new health approach be adopted “tourism health promotion.” We are striving to develop health and recreation programs that take advantage of regional resources, and our students are taking part in planning fieldwork. As classification and model development of health tourism in Japan, this field is anticipated to contribute to enhancement of regional and tourist health and to promotion of related industries.



健康志向型スキルアップダイビング・プログラム検証の補助にあたる学生

Health and skill-up diving program

## 「21世紀の子どもたちのために」 “For the children living in 21 century”

高等教育の活性化支援プログラムである「質の高い大学教育推進プログラム」(通称「教育GP」)に、本学部の「模擬学校による教育実践力向上モデルの開発」が採択されました。このプログラムでは、学生が既成の概念にとらわれずに、チームを組んで自ら理想とする学校をデザインし、そのための場所を探し、生徒を集め、教育計画をたてて教育実践を行います。その目的は、大学と地域の垣根を超えた体験を通して、学生の課題発見力、創造力、思考力、コミュニケーション能力、対外交渉力を磨くことにあります。このプロジェクトにもとづいて、本学部では、将来の教育人材の実践的・総合的力量を高めるカリキュラムを整備しつつあります。また、平成21年度からは、沖縄の教育課題に学部全体が取り組むための「21世紀おきなわ子ども教育フォーラム」が開始しました。このフォーラムでは、学生・院生、学部教員、学校教員たちが多様なテーマでチームを組んで、地域の教育力向上のための研究活動と教育実践を行います。

北海道教育大学釧路校との交換留学制度も特徴のひとつです。対照的な自然環境と、僻地校を多く持つ琉球大学教育学部と北海道教育大学釧路校は、教員養成系学生の資質向上を目的にこの制度を実現しました。派遣人数は10名以内ですが、本学部の学生は、半年間、氷点下の「白の光景」に包まれて北海道教育大学釧路校での学生生活を送ることができます。

The Faculty of Education recently won a grant aimed at improving the quality of higher education in this country. The newly acquired fund is expected to allow both the faculty and students to develop a unique educational environment in which they organize a group of simulated “practice schools” where students tend to all the practical aspects of what actual schools are involved with.

The teachings of a practice school are focused toward educating students from elementary and middle schools around the university area while developing a method of education that has rarely if not never been used. The idea of practice schools arose to motivate our students to innovate, as well as renovate, pedagogical methodologies that encouraged enhanced communication, higher levels of creativity, negotiative skills, and problem-discovery as well as problem-solution skills. The new attempt is to be fully incorporated into the curriculum now being put together by the Faculty of Education intended to produce teachers well-equipped with the skills to meet the various challenges modern-day schools grapple with.

Concurrently with the practice schools project, a highly innovative program, entitled “21st Century Okinawa Children’s Educational Forum,” has just been inaugurated to address the various issues Okinawan school-age children face today. This program, conceived as an across-the-board Faculty project, enables the faculty, both graduate and undergraduate students, and school teachers to form groups, who then jointly pursue research and conduct teaching practices pertinent to, and conducive to the solution of, the issues confronting the local communities in Okinawa.

Our unique exchange agreement with the Kushiro branch of Hokkaido University of Education, which is located far from the metropolitan center of Tokyo like our university, also adds interest to the academic programs offered by the Faculty of Education.



## 「サイエンス in ちゅら島」 “Science in Chura-Shima”

**海洋環境地学**：海洋を含む広大な地球環境が研究フィールドです。私たちは音波探査、地質調査、自然放射線計測、天然放射能分析を行うことによって海底と島弧の形成過程、亜熱帯土壌の起源、鍾乳洞内の自然放射線環境、古代遺跡の消長と環境変動との関係といったテーマに挑んでいます。



**サンゴ礁化学**：沖縄の島々は海洋生物の殻が堆積してできています。この殻は主に炭酸カルシウムでできており、海洋で炭酸カルシウムを作る代表格はサンゴです。私たちはサンゴ礁における物質循環と地球環境について研究しています。大気や海洋に二酸化炭素が増え続けるとサンゴ礁はこれからどうなるのでしょうか？炭酸塩を中心とした化学的な



視点と手法を用いてこれからのサンゴ礁や地球の環境について考えています。

**動物生態学**：琉球列島は、島々に独特の生態系と固有の生物相を有する生物多様性の宝庫です。私たちは亜熱帯森林に棲む動物たちの生態を研究しています。イリオモテヤマネコやクビワオオコウモリなど世界でもここだけにしかない動物たちが、それぞれが棲んでいる環境をどのようにうまく使って、お互いにどのような関係をもって暮らしているのかを、実際のフィールドで調べています。



### Marine Environmental Geosciences :

The study field is a vast reach of the global environment. By means of geological, geophysical and geochemical research, we are approaching to the problems on the formation of seabed and island arc, the origin of subtropical soils, the natural radiation environment in limestone caves, the relationship between the past environment change and the rise and fall of ancient remains, etc.

### Chemistry of Coral Reefs :

Coral reefs including Okinawa Is. are composed of live corals, foraminifer, sea grasses, fishes, and so on. These creatures are living on the carbonate rocks which are accumulating every day by the calcification processes such as coral growth and foraminiferal shell formation. We study about the relationships between coral reefs and global environmental changes from the aspect of chemical substances circulating on the earth, especially carbonate and carbon dioxide. What would be coral reefs in the future, if we were to release carbon dioxide continuously from fossil fuel? We are thinking about subtropical marine environment from the past to future for the sake of preventing a degradation of endangered coral reefs.

### Animal Ecology :

Biological Diversity is a noticeable and attractive characteristic of the Ryukyu Archipelago. Each island has a unique ecosystem and a lot of endemic species. We study on the ecology of terrestrial animals such as the Iriomote cat and the Ryukyu flying fox inhabiting subtropical forests. How do they adapt and live in each subtropical insular habitat? How do they relate with each other? Many ecological issues are to be solved.

## 「臨床研究専門医と上級CRC養成プログラム」

“A special education program for physicians and research coordinators for clinical research”

医学部では、平成19年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」として選定された「臨床研究専門医と上級CRC（臨床研究コーディネーター）養成プログラム」を推進しています。これは、本邦において不足している臨床研究専門医と、共同研究者として臨床研究のマネジメントを行い、支援できる人材を育成することを目的とするプログラムです。本来、臨床研究は診療現場で生じる臨床的疑問に基づくべきものでありますが、臨床的疑問を研究仮説として立ち上げ、実際に研究をデザインし、実施し、解析することは容易なことではなく、これらを教えられる人材がいませんでした。本プログラムでは適切な臨床研究計画を作成するために必要な方法論を習得し、研究実施体制を構築し、研究支援スタッフと研究を実施することにより、「臨床研究を実施できる医師」「臨床研究を教えられる医師」を育成します。また、臨床研究を医師とともに支援し、推進できる人材も併せて育成します。実際には、琉球大学での慈恵医大や京都大学と連携した臨床研究に関するワークショップ、専門家を招聘しての臨床研究に関するセミナーの開催、修士課程、博士課程の大学院生に対するプログラムに基づいた講義、演習、臨床研究の実施、沖縄県基幹病院での臨床研究に関する講義と演習、臨床研究実施の指導を行っています。

Our post-graduate educational grant awarded from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology to Professor Shinichiro Ueda, Department of Clinical Pharmacology & Therapeutics is aimed to develop clinical research training program for physicians. Clinical research should be based on clinical questions. Most trained physicians, wherever they practice, have important unsolved clinical questions but they are unable to appropriately address them because of lack of proper training program for clinical research. Our program may help keen physicians develop of clinical research protocol and carry their own research project through based on sensible clinical questions, valid biostatistics, understanding clinical pharmacology, epidemiology and ethical issue. In addition our program is also aimed to train nurses and pharmacists as research nurses and pharmacists, who may collaborate with physicians for successful clinical research. The expected outcome of our program is establishment of infrastructure of clinical research in Okinawa through the education and training of physicians, nurses and pharmacists as clinical scientists at University of the Ryukyus.



臨床研究ワークショップにおいて、ファシリテーターの指導のもと、研究計画の作成に取り組む参加者の様子

## 「コンテンツチャンプルプロジェクト」 “Contents Chample Project”

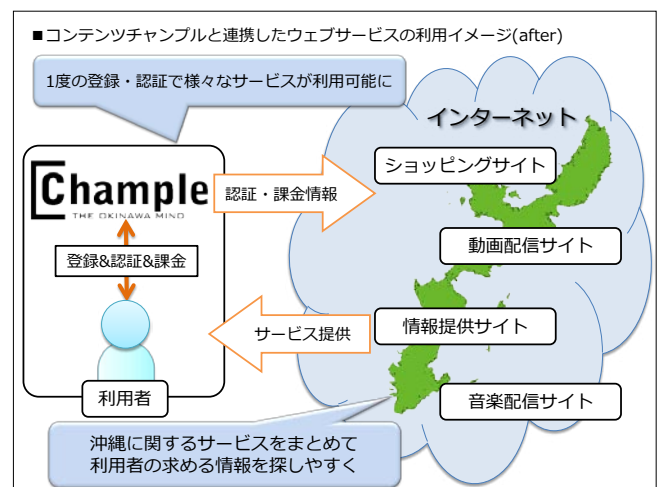
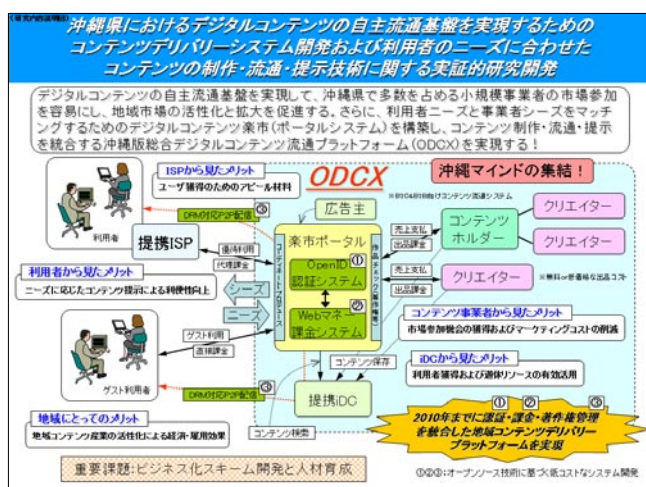
情報工学科長田研究室では、総務省の戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)採択事業(2年間)として、「コンテンツチャンプルプロジェクト」に2008年から取り組んでいます。このプロジェクトでは、ウェブサービスにおける共通認証・共通課金システムおよびそれを支える高信頼性サーバーシステムを開発しています。利用者はこれらのシステムによって運用されるポータルサービスを利用することによって、一度の利用者登録だけで認証や課金が必要な様々なウェブサービスを利用可能になり、ポータルサービスに参加するEコマースサイトを始めとする沖縄に関するウェブコンテンツを手軽に利用できるようになります。また、既存のショッピングサイトのように事業者を完全に囲い込むことをしないため、事業者にとっては、事業者ごとのビジネススタイルや個性を失わずに事業を展開することができるとともに、ネット上に緩やかに形成される「沖縄情報」集合によって、集客面などで相乗効果を楽しむことができます。秋ごろには利用者と事業者双方による実証実験を予定しています。今後、実際の運営に向けたビジネスモデルの開発など、コンテンツ関連業者からの意見を取り入れていく予定です。

At the Nagata Laboratory of the Information Engineering Department, we have conducted the "Contents Chample Project" since 2008 as a SCOPE project (for two years). In this project, we have developed a highly reliable server system supporting the common authentication and fee collection functions as web services. By using the portal service, a user can easily use the web contents about Okinawan culture, nature, and histories and access to the e-commerce sites registered into the portal service.

Moreover, since entrepreneurs are not completely enclosed in the service, they can deploy business without losing their business style and individuality.

Furthermore, a synergistic effect for increasing customers is expected by forming gently group "Okinawa Information" on a network.

Around autumn, we are planning the actual proof experiment by both of users and an entrepreneur. We are inclined to take in the opinion from contents related contractors, such as business model development towards actual management.





## 「環境保全型防除技術による熱帯・亜熱帯性植物病害の防除に関する研究」

“Studies on the control of tropical and subtropical plant diseases by environmentally acceptable control methods”

我々人類が生存していくためには安定した食料生産が重要である。しかし全世界で栽培される農作物は病害虫の発生によってその3分の1が失われていると試算され、良品質かつ安定した農作物の栽培を行うためには、これら病害虫の予防ならびに防除が重要であると考えられる。一般的に作物に発生する病害は化学合成農薬による防除が行われているが、卓越した防除効果を示す一方で、土壌生態系の攪乱や薬剤耐性菌の発生を引き起こすことが危惧されている。また近年では、「食の安全・安心」の観点から、できる限り農薬のみに依存しない地域特異的な病害防除体系の構築が望まれている。このことから、植物病理学研究室では、植物寄生性線虫を含めた熱帯・亜熱帯性の病原体によって引き起こされる植物病害を研究対象とし、マンゴー、ピタヤおよびニガウリなどの熱帯作物に発生する新規病害の原因解明を行うとともに、沖縄在来の拮抗微生物や内生菌、未利用植物由来の天然成分および有機廃棄物を利用した生物学的および耕種的防除技術の開発を行っている。

Stable food production is important for the survival of human beings. However, around one third of the agricultural products cultivated around the world are ruined on account of diseases and pests. In order to cultivate high quality and stabilized agricultural products, the prevention and control of diseases and pests are thought to be important. Chemicals are usually used for effective control of diseases and pests, and help increase plant production. However, continuous chemical application hazards soil ecosystems and increases chemical resistance in plant pathogens. In recent years, the development of regional-specific disease control systems, as far as possible without chemical application, has been desired so as to ensure the “safety of meals”. In order to study the plant diseases in the tropical and subtropical zones caused by the pathogens like plant-parasitic nematodes, the Plant Pathology Laboratory elucidates the causes of new diseases in crops such as mango, pitaya, and balsam pear. We are also developing biological and cultural control methods of pathogen by using nomic antagonistic and endotrophic microorganisms, natural constituents derived from unutilized plants distributed in Okinawa, and organic wastes.



Hansfordia sp. (ニガウリ内生菌).  
Hansfordia sp. which is endotrophic fungus of balsam pear.



Hansfordia sp. と病原菌の対峙培養 .  
Dual culture of Hansfordia sp. and plant pathogens.



植物寄生性線虫類に抗線虫活性を示すアワユキセンダングサ  
(*Bidens pilosa* L. var. *radiata* Scherf.).  
*B. pilosa* var. *radiata* which has antinematodal activity to plant-parasitic nematodes.



抽出液中の死亡したサツマイモネコブセンチュウ .  
A nematode which was killed in the aqueous extracts of *B. pilosa*.

# 法文学部

広い視野と専門的な知識、国際的感覚と  
バランスをもった人間性豊かな人材を育成する



法文学部長 上里 賢一  
Dean UEZATO Kenichi

## [本学部の特徴]

法文学部は、広い視野と専門的な知識、国際的感覚とバランス感覚をもった人間性豊かな人材を育成することを目的とし、総合社会システム学科、人間科学科、国際言語文化学科の3学科で構成されています。

総合社会システム学科、人間科学科、国際言語文化学科はそれぞれ3つの専攻課程からなり、その各分野から多彩で多くの科目を提供しています。

法文学部は、いわゆる法学、政治学、経済学、社会学、哲学、心理学、歴史学、地理学、人類学、考古学、言語学、文学など社会科学・人文科学の分野の科目を提供しながら、これらの学問の枠組みを超えるような総合的・学際的な教育体制も整えています。それは基盤的な教養を基礎としつつ、急速に発展する社会的変化に柔軟に対応できる人材を育成するための取り組みです。

また、昼夜開講制を採用し、昼間主、夜間主いずれのコースに所属しても他方の講義を受けやすくするなど教育機会の拡大に積極的に取り組んでいます。

2008年度から5年計画で、連携融合プロジェクト「人の移動と21世紀グローバル社会」が進行中です。このプロジェクトは、法文学部が中心となって、アメリカ、ハワイ、南米、中国、台湾、韓国、タイ、太平洋島嶼等の国や地域の研究機関と連携して共同研究を行う国際的なプロジェクトです。

この研究には、博士課程の院生を中心にした若手研究者の育成と、琉球大学が琉球沖縄研究の国際的ネットワークのセンターとなるという大きな目標があります。2009年4月に発足した琉球大学国際沖縄研究所と一体となって取り組んでいくこととなります。

The aims of the Faculty of Law and Letters are to help students to gain a broad perspective, to obtain specialized knowledge, to have a positive international outlook, and to develop a sound and well-balanced personality.

Our faculty is comprised of three departments: Comprehensive Social Systems Studies, Human Sciences, and Languages and Cultures.

The Department of Comprehensive Social Systems Studies offers three majors: Law, Economics, and Political Science and International Relations. The department offers a wide range of courses in each specific area of study.

The Department of Human Sciences is comprised of three majors: Human Behavior, Sociology, and Regional Sciences. The department offers a variety of courses in Psychology, Philosophy and Ethics, Sociology, Social Welfare, Mass Communications, Social Anthropology, Ethnology, Human Geography, Geographical Information Science, and Physical Geography.

The Department of Languages and Cultures provides three majors: Ryukyuan and Asian studies, English Language and Culture and European Culture and Literature. The department offers both traditional courses as well as interdisciplinary classes, in which disciplines such as linguistics, literature, history, and cultures of the West and Asia are integrated systematically and organically. Also, in English Language and Culture, there is a major entitled Japan and International Affairs, which is intended for international students.

Furthermore, the Department of Comprehensive Social Systems Studies and the Department of Languages and Cultures offer classes for adult and working students in evening programs as well.

A five-year collaborative research project, titled "Human Migration and 21st Century Global Society," is under way. In addition to the University of the Ryukyus, universities and research institutions in the U.S., South America, China, Taiwan, Korea, Thailand, and the Pacific Islands participate in this international project, of which the Faculty of Law and Letters is the core.

This project is partially aimed at training students of the doctor program and constructing a foundation for the University of the Ryukyus to become one of the centers of the international network of Ryukyuan/Okinawan studies. This project also collaborates with the International Institute of Okinawan Studies established at the University of the Ryukyus in April, 2009.



# 観光産業科学部

持続的発展に資する理論と実践の追求と  
国際的に通用する実践型人材を育成する



観光産業科学部長 平敷 徹男  
Dean HESHIKI Tetsuo

## [本学部の特徴]

観光産業科学部は、観光科学科（入学定員60名）と産業経営学科（入学定員：夜間主コース20名を含め80名）の2学科から構成されています。本学部は琉球大学が目指す「地域特性と国際性を併せ持つ大学」の一組織として、そして特にアジア太平洋地域に開かれた学びの拠点として、持続的発展に資する観光科学・経営学の理論と実践の追求と国際的に通用する実践型人材の育成を目指すことを基本目的としています。国の『観光立国行動計画』の基本構想にも示されるように、観光産業は21世紀における国の重要な政策の柱としても位置づけられており、沖縄県においてもリーディング産業としてさらなる成長が期待されております。このような観光産業を担う人材養成の必要性が従来から指摘されており、本学部は産業経営学科の経営戦略的発想を活かすと同時に、さらなる特徴としては総合大学に設置された強みを発揮し地域産業振興に求められる「高度な専門職業人の養成」と「幅広い職業人の養成」を教育理念としております。

具体的取り組みとしては、社会科学、人文科学、自然科学を組み合わせたいわゆる「文理融合型の学際的アプローチ」による教育・研究システムを構築し、健康・保養観光、エコツーリズム、産業観光、文化観光等のニューツーリズムを学ぶ機会の提供など、総合的かつ応用的な学術的成果の社会への還元を図ります。さらに国内及び海外の交流協定大学との連携を強化し、教育・研究の質的向上に向けた相互補完体制を確立していきます。また、本学部は産学官連携も視野に入れ、地域に根ざし地域とともに発展する学部として、あらゆる産業に対してその学術的成果を還元し沖縄経済社会の健全なる発展に寄与することを目指しています。



The Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management is comprised of two departments: Tourism Sciences (60 students) and Industrial Management (80 students).

The faculty endeavors to contribute to society both locally and globally through education and research particularly focused on the Asia-Pacific region.

The aim of the faculty is to prepare students to acquire theoretical and practical backgrounds to meet current and future social needs, and to play active and leading roles on a global basis. As shown in the Visit Japan Campaign, the growth of the tourism industry is one of the most important items on the national agenda, and tourism is considered to be a leading industry in Okinawa. The faculty is expected to prepare students to both support and lead this important industry.

Applying a strategic managerial approach, the faculty takes advantage of the diverse faculties of the University to train students to be “highly advanced and versatile professionals.” In order to attain the above goals, the faculty has established an education and research system with a fusion of both the humanities and the sciences to provide society with professionals equipped with interdisciplinary and practical academic achievements.

The faculty also promotes collaboration between industry, government, and the university to expedite the sustainable development of local industries.



# 教育学部

## 理論と実践力を備えた教育の専門家を養成する



教育学部長 中村 透  
Dean NAKAMURA Toru

### [本学部の特徴]

本学部には、学校教育教員養成課程と生涯教育課程があります。学校教育教員養成課程では小学校と中学校及び特別支援学校の教員を養成します。この課程の修了者は小学校一種の教員免許状か中学校一種、または特別支援学校一種免許を取得します。

本学部では地域を大事にする教育を展開し、地域の教材研究に基づいた教科の指導にも力を注いでいます。また、理論と実践の融合及び実践力の向上を目的に教育現場でのボランティア活動を推奨しています。これらの取り組みにより卒業と同時に教科教育と生徒指導が可能な教員を養成しています。

今年度からは新たに離島・僻地の教育と沖縄の子どもの学力向上の課題に取り組みます。

卒業後は沖縄県をはじめ出身地の教育界で活躍しています。近年、関東地区の教員採用試験にもチャレンジしています。

生涯教育課程では生涯学習・共生社会の創造に寄与できる専門家を養成します。また、生涯教育課程では教員免許状の取得を義務付けていませんが、本人の希望で教員免許状を取得することが可能であり、多くの学生が取得して、小・中・高校の教員選考試験にチャレンジしています。近年は、海外の日本人子弟を教育する日本人学校の教員に採用され、外国で教員になるケースもできてきました。それ以外に、卒業生の多くは、学校以外の教育関連企業等多様な職種にも就職しています。

Our Faculty of Education curriculum provides future elementary and junior high school teachers with a solid command of pedagogical theories and methods as well as practical teaching skills.

The Faculty of Education consists of two specializations: the School Teacher Training Program and the Lifelong Education Specialist Program. Most graduates of the School Teacher Training Program become elementary or junior high school teachers. Many graduates of the Lifelong Education Program go on to be employed as local government education administrators. In the current year, we would like to focus on the subject of education on isolated islands and in remote rural areas of Okinawa, and also try to improve the educational achievement of Okinawan children.



# 理学部

社会の発展に寄与できる正確な知識と  
科学的思考力に富む人材を育成する



理学部長 土屋 誠  
Dean TSUCHIYA Makoto

## [本学部の特徴]

本学部には、数理科学科、物質地球科学科、海洋自然科学科の3学科があります。教育研究分野は自然科学の全基礎分野をカバーしており、物質地球科学科は物理系と地学系、海洋自然科学科は化学系と生物系で構成されています。理学は宇宙を含めた自然界の深遠な真理の探究を目指して発展し、今日までの人類の知的財産の基礎を築いてきました。理学はこれまで、社会の発展に即した新しい学問や高度の技術の誕生に基礎を与えてきましたが、今後も、現代社会が抱える多くの問題を解決するための基礎知識を蓄積し、「品格ある社会の発展」に貢献する学問です。正確な知識と思考力、想像力を重視する理学が21世紀の持続可能な社会の発展のために果たす役割はますます重要になっていきます。

大学生活が充実したものになるような取り組みの一つとしてカリキュラムには幾つかの工夫が施されています。全教員が担当する1年生を対象とした少人数制（5人程度）のクラスで、教員と学生が対話しながら進められる基礎ゼミや、分野間の壁を取り外し、幅広い理学の基礎教養を身につけやすいように工夫した理学部共通科目の設置などはその特徴です。亜熱帯島嶼の特性を生かした特色ある教育研究の多様な取り組みを楽しんでください。自然界の様々な現象について、「なぜ？」と疑問を持ち、その解決のために教員と共に積極的に好奇心を持って課題に挑戦しようとする、行動力あふれる人材の誕生を期待します。

The Faculty of Science at the University of the Ryukyus consists of three departments: Mathematical Sciences, Physics and Earth Sciences, and Chemistry, Biology and Marine Sciences. The education we provide covers the entire scope of the natural sciences through five main fields: Mathematics, Physics, Earth Sciences, Chemistry, and Biology. While the Faculty of Science recruits students in each of these fields, our aim is to create a flexible educational system that ensures that our students receive a solid and broad foundation in science. One feature of this system involves providing classes with several freshmen and one lecturer in a seminar-type format, this promoting fruitful interaction. Another is the establishment of general education subject requirements that serve to break down barriers between departments.

Through science, humanity strives to understand the mechanisms of space and nature. By tracing back to our origins, scientific investigations have constructed the foundations of human intellectual properties. So far, the application of science has contributed to the advancement of both society and technology. Studies conducted in conjunction with social development have helped us preserve and better understand our world. In addition, science continues to help solve the problems of modern society. It will remain indispensable as we aim towards the sound development of society in the future. Thus, the role of science, which requires accurate knowledge, clear thinking, and imagination, has become increasingly important.

The Faculty of Science aims to contribute to sound, sustainable social development in the 21st century. Our objective is to develop individuals capable of answering questions related to the wonders of nature like “Why?” or “How come?” as well as individuals who desire to know, to consider issues, to solve problems, and to willingly take up challenges.



# 医学部

医学の進歩に柔軟に対応しつつさらに高いレベルを目指す  
研究者、医師、保健・医療技術者を養成する



医学部長 佐藤 良也  
Dean SATO Yoshiya

## [本学部の特徴]

本学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、医の倫理を身につけ、医学の進歩に柔軟に対応しうる医師、研究者、保健・医療技術者を養成することを目的とします。また、沖縄のおかれた自然的、地理的並びに歴史的特性をふまえ、島嶼環境などに由来する困難な地域医療の充実に努めます。以って、地域住民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、南に開かれた国際性豊かな医学部として東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力を寄与します。

このため、教育においては普遍的で質の高い医師、医療従事者の教育・養成を行うとともに、特に国際医療や離島医療を含む地域医療の場でリーダーシップを発揮できる医師、医療従事者の育成に力を入れています。研究面では、沖縄の地域特性に根差した医学、医療の課題解決に向けた研究に重点を置いており、感染症研究、長寿医学、遺伝性疾患、健康食品科学などの特色ある研究を進めています。また、附属病院は「都道府県がん診療連携拠点病院」指定や臨床研究専門医と上級CRC 養成プログラムを通じて、沖縄における高度医療、臨床研究を担う医療機関として機能しています。



The aims of the Faculty of Medicine are to cultivate physicians, researchers and health science specialists who not only have knowledge and technical skills in the medical and health sciences but also acquire medical ethics, and who can flexibly cope with advances in medical science. Taking into consideration the natural environmental conditions, geographical location and histological background of Okinawa, our Faculty is particularly interested in the kinds of regional medicine associated with island environments. Thus, the Faculty strives to contribute to advances in medical treatments and the improvement of health and welfare, and to develop as an academic institution with a good international outlook. Additionally, our Faculty is always endeavoring to engage in academic exchange and medical and health cooperation with foreign countries in Asia and beyond.

To achieve the above purposes, we are responsible for education to foster eminent medical doctors, researchers and practitioners with intellectual curiosity, humanity and creativity. Especially for the benefit of the local and international communities, we are making an effort to foster medical staff which can play a readership in the fields of medical care in regional-island community and international medicine. As research activities, we are promoting specialized researches to prevent infectious diseases, longevity, genetic diseases, and health food sciences to resolve medical problems originated from characteristic location of Okinawa. Our university hospital is functioned as an advanced hospital to provide specialized and superior quality medical care in the community. The hospital is specified as a strongpoint hospital for cancer therapy in Okinawa and promoting a special education program for physicians and research coordinators for clinical research.

# 工学部

幅広い教養、高度な専門知識、豊かな創造力と総合的な判断力を兼ね備えた人材を育成する



工学部長 山川 哲雄  
Dean YAMAKAWA Tetsuo

## [本学部の特徴]

「工学」は学問的に裏づけされた技術の総称です。人類の知恵が道具の使用に現れていることを考えれば、工学は人間の知恵の総結集だと言ってもいいでしょう。科学で得られた知識・知見を人類の生活や福祉に応用し、実際に役立たせるのが工学なのです。このような工学の技術を学生に修得させ、新しい技術開発を行う所が工学部です。

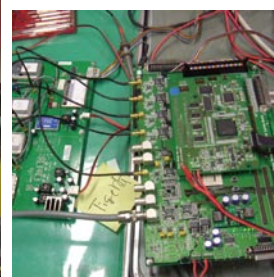
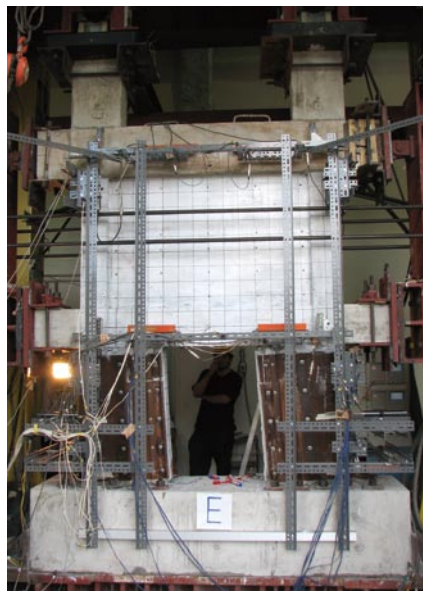
本学部は、機械システム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科、情報工学科の4学科から成ります。近年の科学技術の高度化、先端化に伴い、技術者および研究者には高い知性と鋭い洞察力が要求されています。これらの要請に応えるため、幅広い教養を備え、高度な専門知識、豊かな創造力と総合的な判断力を兼ね備えた人材を養成します。

本学部では、教育の質を保証し向上させるための持続的な教育改善に取り組んでいます。その結果、JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けた学科も4学科中3学科にのぼり、全学科の認定を目標に引き続き努力を傾けています。さらに、3年次特別編入学定員も10名から、平成21年度には20名に増員しました。一方、学問の性格上産業界との連携も強く、企業と連携したインターンシップ制度や、自主的に考え問題解決ができるような自立的人材の育成に力を入れています。合わせて、工学部後援会の組織強化、講演会、広報活動にも努力しています。工学部内では技術職員を各学科から切り離し、組織を一元化し、技術部を平成20年4月から新規に立ち上げ、教育・研究の支援強化をはかりました。工学部は大学の原点である教育と研究のより活性化を目指して、様々な観点からさらなる努力を続けていきます。

The function of engineering is to apply knowledge and information derived from pure science to human life and welfare, and by doing so to further the advancement of human society. Engineering is a general term for technology, which is backed by scholarly research. Given that one of the first ways that human intelligence manifested itself was through the use of tools to accomplish tasks, engineering is regarded as the concentration of human intelligence for the purpose of advancing human welfare.

The Faculty of Engineering consists of four departments: Mechanical Systems Engineering, Civil Engineering and Architecture, Electrical and Electronics Engineering, and Information Engineering. Given the recent advances and the wide areas of specialization in science and technology, engineers and researchers are required to possess a high level of intelligence and a keen power of observation. With this in mind, our goal is to train students with an advanced level of academic expertise, strong creative instincts, and the ability to practically apply their engineering judgments.

Our faculty is continually striving to improve the quality of our teaching and our curricula. One of our aims is educational recognition based on the JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) quality system. In 2009, the entrance capacity of students transferring from other technical colleges or universities in their junior year has been increased from ten to twenty. Another feature of the education system is to manage the internship system. We make an effort to organize sponsors, offer seminars, and provide public information on behalf of the Faculty of Engineering. A common office for the technical staff of all departments in the Faculty of Engineering was set up to support education and research in April, 2008. Our faculty continues in our efforts to provide worthwhile activities for education and research which are the basic foundations of the university.



# 農学部

## 亜熱帯地域の条件を生かした バイオサイエンスのフロンティアをめざして



農学部長 仲地 宗俊  
Dean NAKACHI Soushun

### 【本学部の特徴】

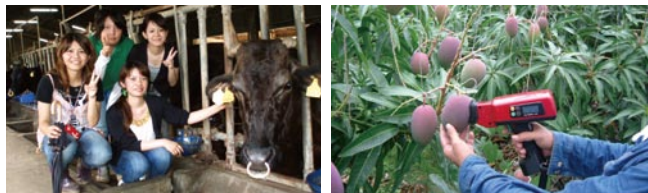
農学部は、わが国で唯一、亜熱帯地域に立地している地理的条件を生かして、食糧問題や環境問題など地球規模の課題及び地域農業の発展にかかわる課題の解決を目指す特色ある学部づくりに取り組んでいます。2009年4月、時代及び地域のニーズにさらに応えるために、新しい4学科「亜熱帯地域農学科」「亜熱帯農林環境科学科」「地域農業工学科」「亜熱帯生物資源科学科」に生まれ変わりました。

亜熱帯地域農学科は、亜熱帯地域における自然と農との調和に配慮した持続的農業の構築を目標とし、農林畜産物の開発・生産、及び地域資源の合理的な利用・循環に関連したフィールド活用型の総合的農学教育研究を行います。亜熱帯農林環境科学科は、亜熱帯農林業を取り巻く生物の諸特性解明と制御並びに流域生態系の環境保全・管理と制御を通じて人間と自然環境との調和を目指す教育研究を行います。地域農業工学科は、亜熱帯の島嶼環境と調和した自然循環型農業や田園空間の創造、並びにバイオマス地域循環システムの構築によって、「緑・土・水」と人間との環境創出を目指す教育研究を行います。亜熱帯生物資源科学科は、亜熱帯地域の生物資源、食資源に加え、伝統食品や発酵食品の特性や機能性の生化学的な解析を通じて健康・長寿の機構を解明すると共に、機能性食品、健康補助食品等に利用可能な成分の開発を通じて人類の健康生活の向上に貢献する教育研究を行います。

また、大学院農学研究科修士課程には、生物生産学、生産環境学、生物資源科学の3つの専攻が設置され、高度な専門技術者を養成する教育研究を行っています。さらに、専門の研究者を目指す学生には、琉球大学、鹿児島大学および佐賀大学で構成される博士課程（鹿児島大学大学院連合農学研究科）もあります。

教育では、学生による授業評価の結果を利用し、各教員が授業改善に取り組み、授業に参加する学生の学習意欲の向上に努めています。講義、演習、実験、セミナーや卒業論文研究がバランスよく組み合わせられたカリキュラムが開講され、学生の学業の成果が向上していると第三者評価機関より高い評価を受けています。また、キャリア教育を充実し、全国の国立大学法人大学の農学部としてはじめて健康食品管理士の指定教育機関に認定されました。

研究では、熱帯・亜熱帯農学の研究拠点となり、社会の発展のために貢献することを目指し、琉球在来豚の凍結精子保存技術の確立、亜熱帯産材の有効利用技術の開発及び赤外線を利用したマンゴー糖度センサーの開発など熱帯・亜熱帯地域の農林業分野で地域社会に貢献しています。また、ヤマトシロアリの生殖と環境への対応に関する研究成果が米国科学誌*Science*に掲載されるなど熱帯・亜熱帯島嶼地域の生物多様性に関する研究、バイオマス利用の新エネルギー開発など環境保全分野で学術的に高く評価されています。産学官連携による泡盛に関する研究と人材育成の取組、JICA（国際協力機構）とのバイオマス有効利用の海外技術者育成などの社会貢献活動もを行っています。



The Faculty of Agriculture is the only academic institution in Japan's subtropical zone. The Faculty provides excellent education opportunities and conducts research on global issues like the food and environment problems and local agricultural development. In April 2009, we reconstructed four departments to meet the recent demands and needs of the local community: the Department of Subtropical Agro-Production Sciences, the Department of Subtropical Agro-Environmental Sciences, the Department of Regional Agricultural Engineering, and the Department of Subtropical Biochemistry and Biotechnology.

The Department of Subtropical Agro-Production Sciences provides comprehensive education and conducts research in the fields of agricultural development and production, livestock products, and reasonable usage and circulation of local biological resources in order to establish sustainable agriculture and harmonize nature with agricultural development. The Department of Subtropical Agro-Environmental Sciences provides education and conducts research on the explication and functional control of living organisms related to agriculture and forestry, and environmental preservation and control of the ecosystem in subtropical areas in order to achieve harmony between human beings and the natural environment. The Department of Regional Agricultural Engineering deals with education and research in the field of sustainable recycle-oriented agriculture, which works in harmony with the subtropical island environment, and develops rural space and regional biomass-recycling systems so as to create a symbiosis environment of soil, water, plants, and human beings. The Department of Subtropical Biochemistry and Biotechnology provides education and conducts research in the fields of biochemical properties and functions of traditional and fermented food and bioresources of the subtropical area, and the development of components that can be used for functional foods and supplements to improve human health.

The graduate School of Agricultural Sciences offers Masters' degrees in the disciplines of Bioproduction, Environmental Sciences and Technology, and Biosciences and Biotechnology. We also offer academic courses for developing professional experts. In addition, a doctoral program at the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, is open to exceptional students who aim to be professional researchers in advanced agricultural technologies.

In the field of education, academic staff members rely on the results of student evaluation systems to revise and strengthen their teaching designs, methods, and implementation of the curriculum, and to increase students' motivation for learning. The curriculums comprise well-balanced lectures, experiments, seminars, and thesis research aimed at developing professional skills in students; this is highly appreciated by outside organizations. Moreover, we offer high quality career-oriented education, including an accredited program for functional food consultant.

In the field of research, the focus is mainly on the development of agricultural sciences for tropical and subtropical regions. We have significantly contributed to local agriculture and forestry through the development of a sperm preservation technique for the Ryukyu wild pig, an effective application technique for subtropical woody plants, a sugar measurement system for mangos, etc. The results of our research on termites have been published in the famous journal "Science," and our other research achievements on biodiversity in tropical and subtropical islands and biomass as an alternative energy-source are highly appreciated both nationally and internationally. In the area of social contribution, we have established a new approach for conducting human resource development program related to the Awamori (an alcoholic beverage indigenous to and unique to Okinawa) industry through a collaborative research project among the industry, university and government. Moreover, we are continuing our cooperation with JICA (the Japan International Cooperation Agency) in training program for foreign researchers in the field of effective biomass utilization.



### 人文社会科学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)

人文社会科学研究科では、社会人大学院生も受け入れ、そのニーズに対応するために夜間及び土曜日にも授業を行っています。

博士前期課程では、学生の能力や研究課題に応じて専攻や研究科を超えて広範な科目履修が可能で、より高度の学術的・総合的な人文社会科学を体系的に展開させる教育体制を構成し、これによって変動する現代社会の問題及び課題に柔軟に対応できる高度な分析能力と実践的判断力を持つ専門職業人を育成することを目的としています。

博士後期課程は、沖縄の持つ地理的・歴史的・文化的諸条件を生かした新たな学問体系の構築と学術の創造を目指します。世界の中の琉球・沖縄という観点から、地域の課題を多角的な視点から解明していく高度専門職業人と研究者の養成を目的とします。

The Master's program in the Graduate School of Humanities and Social Sciences offers highly academic and integrated courses in the humanities and social sciences so as to develop students with a professional level of analytical competence who are academically flexible, and able to exercise practical judgment in coping with a wide range of problems and issues that confront us in our ever-changing world.

The doctoral program aims at creating new research fields and approaches that take advantage of Okinawa's geographic, historic, and cultural backgrounds. By placing Okinawa/the Ryukyus in a global context, the program aims to train professionals and researchers capable of analyzing local and regional issues from multiple points of view.

### 観光科学研究科(修士課程)

観光科学研究科は2009年度に新たにスタートした1専攻(観光科学専攻)の研究科です。本研究科では、観光科学の立場から観光事象を捉え、これに基づく教育研究により、沖縄県、わが国だけでなく、国際的にも「持続可能な観光振興・観光開発」をリードできるリーダーシップと専門性を兼備した観光に関する高度な専門職業人の養成と研究の追求を目的としています。

本研究科の教育研究対象となる観光事象は、地域特性(島嶼性、脆弱性、亜熱帯性等)を反映して、地域における人の交流、まちづくり、ビジネス、生態系、文化、健康等に関連がある多面的・複合的側面を持ち、ダイナミックに変容する特性を持っており、観光事象を適確に分析できる観光科学に関する専門知識を身につけた高度専門職業人の育成は、観光立国あるいは観光立県を目指す地域社会の要請に適うものであり、本研究科では、サステナビリティ(持続可能性)の考えを身につけ、経営学、経済学、自然環境の3分野に関する基礎的専門知識や数量分析手法を兼備した人材育成のための教育プログラムを提供しています。

The Graduate School of Tourism Sciences is a single major (Major in Tourism Sciences) graduate school newly-established in 2009. Embracing the phenomenon of tourism from the perspective of tourism sciences, and in accordance with educational research based on this, the aim of our graduate school is the pursuit of research and the training of top quality professionals in the area of tourism who possess both expertise and leadership skills and who can be at the forefront of sustainable tourism promotion and tourism development, not just for Okinawa Prefecture and Japan, but within an international context.

The phenomenon of tourism, which is the subject of educational research at our graduate school, transforms dynamically and embraces multifaceted and interdisciplinary aspects related to health, culture, ecology, business, community development and the exchange of people in the regions, reflecting regional characteristics (small islandness, vulnerability, subtropicality, etc). In terms of nurturing top quality professionals possessing specialized knowledge related to tourism sciences who can accurately analyze the phenomenon of tourism, at our graduate school we offer an educational program to develop human resources that have both the quantitative analytical means and fundamental specialized knowledge related to the three academic fields of nature and the environment, management and economics, which is consistent with the needs of regional societies which aim at being tourism-centered prefectures or countries.

## 教育学研究科(修士課程)

教育学研究科は、学校教育専攻、特別支援教育専攻、臨床心理学専攻及び教科教育専攻の4専攻からなります。本研究科では教員としての資質の上に、より高度な教育の理論的基盤と実践力を培い、学校教育と地域社会の多様な教育の場で、専門的力量とリーダーシップを発揮できる教育人材の養成を目的としています。

具体的には 1) 人文・社会・自然・芸術・健康に関する広い視野に裏打ちされた学識と実践能力の修得、2) さまざまな今日教育課題に柔軟に対応できる見識の修得、3) 教育者としての不断の自己研鑽を支える研究能力と専門性の修得、4) 沖縄の文化や教育的環境に関する深い理解の修得をめざした教育課程を提供しており、今後はさらにその内容を充実させます。

近年は、昼夜開講制による授業実施と長期履修制度を制度化し、現職教員や社会人の学習・研究の機会拡大をはかっています。

The Graduate School of Education offers Master's programs in School Education, Special Support Education, Counseling Psychology, and other educational disciplines. These programs aim to cultivate specialized knowledge and develop skills deemed essential for competent educators who will eventually become active members and mentors of society, contributing and cooperating with adults and children, both educationally and otherwise, wherever they happen to be located.

The programs we provide at our Graduate School focus on education and the cultivation of practical knowledge underpinned by deep understanding of the humanities, natural sciences, arts, social sciences, health sciences, and the theories thereof. They emphasize flexibility on the part of future educators, preparing them to be able to cope with the difficult issues facing schools and affecting the broader educational milieu of the region. Our programs are also designed to encourage self-improvement and the constant quest for acquiring new knowledge in the student's specialized field through research and scholarship. All programs are premised upon the need for deep and sure understanding of the culture and educational environment of Okinawa.

It should be noted that we recently began offering evening courses to accommodate the various needs of the local community and to provide wider opportunities for those who work and yet seek further education. Some local school educators take advantage of the paid educational sabbatical leave system we have established with the district school board. We are constantly endeavoring to increase opportunities for those who are interested in advancing their education.

## 医学研究科(修士課程)(博士課程)

医学研究科博士課程は、医科学専攻並びに感染制御医科学専攻の2専攻から成り、医学の分野全般において自立して研究を行い、課題解決能力を備えた基礎・臨床研究者を育成すること、また感染症制御に特化した特色ある研究を通して専門的な学識を備え、社会的ニーズに対応した指導的人材の育成を目的としています。また、修士課程(医科学専攻)は、医学を取り巻く周辺領域の人材を幅広く受け入れ、生命科学としての医学、また高度医療を支えるチーム医療において指導的役割を担う人材を育成することを目的とします。

このような目的を達成するために、大学院への入学資格要件を大幅に拡大し、大学を卒業した者以外の多様な人材を資格審査によって受入れる制度を整備したほか、社会人大学院生の受入れを積極的に行っています。研究面では、沖縄の地域特性をふまえた感染症予防研究のために独立した専攻科を設け、感染症研究を積極的に推進しているほか、沖縄の長寿復活に向けた研究、特徴的な遺伝性疾患の原因遺伝子の特定・遺伝子診断・遺伝子治療に向けた研究、亜熱帯生物資源の健康応用、などの特色ある研究を推進しています。

The Graduate School of Medicine (doctoral course) consists of two sections: the Medical Science division and the division of Medical Science for Infection Control. The purpose of the Doctoral course is to cultivate specialists who are highly self-motivated and who possess the ability to find medical problems and resolve it in general medical fields and in specified field of infectious disease control. The Master's course (the Medical Science division) is to cultivate human resource who are able to take up positions in professional practice, or take on leadership roles in the research field of human biosciences and co-medical field.

As an aim for the above purposes, we relaxed entrance requirements for admission to the graduated school, by which students who did not graduate university can enter the graduate school after an examination of the applicants' qualification. Our graduate school is opened to accept a full-fledged member of society. For promotion of characteristic researches based on natural and geographical features of Okinawa, specialized research course for prevention of infectious disease is established in 2003, and researches for infectious diseases are actively promoted. Additionally, the characteristic researches, such as restoration of health longevity, genetic diseases due to closed island environment, health food sciences based on the diversity of subtropical plants and animals and so on, are actively promoted in our graduate school.

## 保健学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)

保健学研究科(博士前期課程、博士後期課程)は、人間健康開発学と国際島嶼保健学の2教育研究領域からなり、沖縄の長寿と健康要因、健康資源の開発や先進的な保健医療技術の開発に関するユニークな教育研究を行い、新時代の保健医療を推進する保健分野の指導者・研究者および高度専門職業人を養成しており、博士前期課程を修了した者は専門看護師(がん看護)や養護教諭(専修免許)などの高度専門職業人として、博士後期課程を修了した者は、大学や病院、研究所や国際機関などにおける指導者・研究者としての活躍が期待されます。

本研究科は、アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体(APACPH)の加盟校と協同で国際会議やフォーラムを開催し、講義の相互提供や単位互換などを行い、大学院教育の国際化を促進している。平成21年度からJICAの集団研修留学生も受け入れており、保健医療に関する技術移転によりアジア・太平洋地域だけでなく世界規模での保健医療活動および教育研究の交流拠点を目指している。

The Graduate School of Health Sciences (Master's and Doctoral Program) consists of two educational research fields, Human Health Development and International Island Health which conduct unique educational research concerning the longevity on Okinawa and its health related factors, and the development of health resources and advanced healthcare technology. These programs have cultivated leading researchers in the field of Health Sciences who promote healthcare in this new era. Those who complete the Master's course are expected to work as highly specialized professionals such as specialized nurse and school nurses (specialized certificate). Those who complete the Doctoral course are expected to work as researchers and leaders in universities, hospitals, laboratories and international organizations. The Graduate School of Health Sciences holds the international conferences and forums, provides lectures has mutually acceptable credits and promotes the globalization of the graduate education in co-operation with the member schools of Asia Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH). From 2009 we accept a group of foreign students from JICA and transfer healthcare technology, aiming to become the hub of healthcare activities and educational research not only in the Asia Pacific region but on a global scale as well.

## 理工学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)

理工学研究科では高度な専門知識を有し、幅広い視野と国際感覚を兼ね備えた創造力豊かな研究者、および高度な専門性と実践力を併せ持つ科学技術者の養成を目指しています。理工学研究科には博士前期課程と後期課程があり、前期課程は工学系が4専攻、理学系が3専攻、後期課程は理工学系合わせて3専攻から構成されています。工学系では2008年4月に学内処置で設立された島嶼防災研究センターと連携協力して、島嶼の自然災害に対する防災技術や、環境問題としての自然エネルギーに関する技術開発などが総合的に取り組まれています。

The Graduate School of Engineering and Science aims to educate and produce creative researchers, practical engineers and scientists; each with a broad background, international outlook, and a high degree of specialization. The Graduate School of Engineering and Science offers Master's programs in seven majors and Doctoral programs in three majors. In the Engineering course, activities to develop disaster prevention technologies and solve environmental problems with natural clean energy are proceeding in collaboration with the Disaster Prevention Research Center for Island Regions, which was established in April, 2008 at the University of the Ryukyus.



## 外国人留学生特別プログラム(博士前期課程・後期課程)

大学院理工学研究科では2007年度から主としてアジア太平洋島嶼国からの国費および私費留学生を対象にした特別プログラムを提供しています。外国人留学生の受入れを配慮し、学年暦の開始を10月、終了を9月に設定し、授業はすべて英語で行っています。下記のように、工学系と理学系は独自のプログラムを開設しています。

### ◆【工学系】〈アジア太平洋工学デザインプログラム〉

本プログラムは、主としてアジア太平洋地域の途上国から受入れた大学院生を対象として、機械システム工学、環境建設工学、電気電子工学、情報工学および生産エネルギー工学、総合知能工学の教育研究を推進することによって、彼ら自身の国が抱える実際の問題を彼ら自身で考え、地域の実状に合わせて解決できるような工学技術者に育てることを目的としています。

### ◆【理学系】〈亜熱帯海洋科学国際プログラム〉

本プログラムでは、亜熱帯海洋科学を中心とする生物学、環境科学、物質科学・数理科学の専門分野における国際的に魅力ある教育研究を行なうことによって、アジア太平洋域における教育研究拠点として機能し、若手研究者及び指導者の育成と学術研究の発展、環境問題の解決及び我が国の国際競争力の向上に寄与することを目的としています。

In 2007 the Graduate School of Engineering and Science initiated a special graduate program for scholarship and non-scholarship international students, predominantly from Asia-Pacific Island countries. With international students in mind, this program starts in October and ends in September. All lectures are conducted in English. The engineering and science courses have their own programs as follows:

### ◆ Engineering Course

#### <Asia-Pacific Engineering Design Program>

This program is aimed at graduate students who come mainly from developing countries in the Asia-Pacific region. The purpose is to foster practical engineers who can think through and solve actual problems in their own countries and under their own unique conditions by promoting a high quality education through four specialized courses in the Master's program and two specialized courses in the Doctoral program.

### ◆ Science Course

#### <Okinawa International Marine Science Program>

The Okinawa International Marine Science Program is dedicated to the promotion of high quality education in subtropical marine sciences, such as biological, environmental, physical, chemical and mathematical sciences. This program aims to become a CEO (center of excellence) in the Asia-Pacific region in educational research. It is our hope to contribute to the pool of world-leading scientists.

## 農学研究科(修士課程)

農学研究科は、21世紀という地球化の時代を迎えて、変容する社会に対応でき、かつ、広く社会に貢献する人材を養成します。学部教育の幅広い基礎学力を基盤とし、環境と調和した生物資源の安定的生産や持続的利用に取り組む、優れた研究開発能力をもつ研究者を養成し、高度な専門的知識・能力を持つ技術者を養成するため生物生産学専攻、生産環境学専攻及び生物資源科学専攻の3専攻で構成されています。

カリキュラムは柔軟な思考力と深い洞察力を備えるための高度な素養を涵養する基礎教育科目、高度な専門職業人として知識を応用する能力を身につける専門教育科目、高度な知識・能力により自立して学術研究や産業・経済等の活動を行う能力を修得する展開教育科目で構成されます。研究能力および高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うための、幅広く深い学習ができる教育プログラムを提供しています。

The Graduate School of Agriculture focuses on nurturing people to adapt to a changing environment and be versatile enough to play a key role in different societies. The program is designed to build professional skills in students for the development of high quality researchers and engineers capable of researching the stable production of bioresources and the uses of biomaterial. In this regard, the graduate school covers three major areas: Bioproduction, Environmental Sciences and Technology, and Bioscience and Biotechnology.

The curriculum consists of a core education subject, a specialized education subject and an expansive education subject. The core education subject promotes the advanced knowledge necessary for flexible thinking and deep insight. The specialized education subject nurtures the ability to apply knowledge as advanced professionals. The expansive education subject equips an independent person with sufficient knowledge to work in scientific research, industries, and businesses. We offer an education program that helps students do extensive research, and thus, develop the ability to work efficiently in scientific research and development.

## 法務研究科(専門職学位課程)

法務研究科では、「地域にこだわりつつ、世界を見る法曹人」の養成を基本理念としています。すなわち、沖縄の地理的・文化的・政治的特殊性を法曹教育の面で活かし、沖縄の抱える多様な法律問題に柔軟に対応できるように、法学基礎知識だけでなく、豊かな人間性や感受性を涵養するとともに、日本社会の多様化に対応できる鋭い人権感覚と国際的視野を持った法曹人を養成することを目的としています。

専門的法律知識と法的思考力を養成するための法律基本科目はすべて必修で、法曹としての責任感・倫理観を養い、基礎的な実務技能を修得するための実務基礎科目は、主として実務家教員が担当します。そして、選択科目には、基礎法学・隣接科目として法哲学や島嶼経済学があり、展開・先端科目としてはホーム・ロイヤーを目指すためのローカル科目（自治体法学、社会保障法、倒産法など）と、インターナショナル・ロイヤーを目指すためのグローバル科目（アメリカ法調査、法律英語、米軍基地法など）があります。

The fundamental aim of the Graduate School of Law is to develop attorneys who can serve the local community, but who also have an international perspective. That is, making the most of the geographical, cultural, and political characteristics of Okinawa in our legal education. We educate our students to be attorneys who can deal with the many diverse issues in Japanese society today with a keen sense of humanity and a cosmopolitan outlook. We concentrate not just on providing our students with a comprehensive command of the law, but also instilling in their sensitivity a solid sense of humanity. We believe this to be essential for attorneys in terms of the wide variety of legal issues they will face.

The basic legal subjects for training in technical legal knowledge are compulsory. The professional basic subjects for training in lawyer's responsibilities, ethics, and basic legal skills, will be taught by attorneys. We also offer fundamental-adjacent subjects such as legal philosophy, island economics etc., and developing pioneering subjects such as a hometown lawyer course covering local government law, social security law, bankruptcy law, etc., and an international lawyer course, American legal research, English legal terms, U.S. military base law, and related topics.

## 鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)

鹿児島大学大学院連合農学研究科は、日本の食料生産基地である九州・沖縄において、農林水産業のさらなる発展を目指し、環境と調和した安定的な食料生産及び技術革新を担う指導者の養成を目的に、琉球大学、佐賀大学と鹿児島大学が連合し、多彩な教員組織を構築して、研究施設及び設備も連合しながら教育研究体制を作り、社会・世界に貢献する博士を輩出する博士課程大学院です。温帯から熱帯資源の生産・利用を中心に地域・国際農水産学、環境農水産学及び先端生命科学に関する高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた研究者を養成し、斯学の進歩と農水産業及び地域の発展に寄与することを目的とします。また、社会人並びに外国人留学生、特に中国及び東南アジア等の諸国から農水産学系の留学生希望者を積極的に受け入れ、東アジアにおける農学の教育研究の中核となることを目的とします。

The United Graduate School of Agricultural Sciences, established through the cooperation of teaching staff and research faculty members of the University of the Ryukyus, Saga University and Kagoshima University, is an independent institution offering a doctoral program in agricultural, forestry and fisheries development and training for environmentally sound food production and technical innovation. This institution aims to produce highly competent researchers mainly in the production and use of resources from temperate to tropical zones, and also in international agricultural and fishery science, environmental agricultural and fishery sciences, and advance bioscience. With a view to developing a core institution for agricultural education and research in East Asia, we have established a program that accepts working people and foreign students.

## 特別支援教育特別専攻科(専攻科)

この専攻科は、知的障害児教育の充実に資するために、昭和53(1978)年に設置されました。大学卒業者で、小学校・中学校・高等学校教諭又は幼稚園教諭免許状を有する者を対象とし、特別支援教育に関する専門教育を一年間履修することにより、特別支援学校教諭一種免許状を取得することができます。

特別支援教育に関する理論と指導法に関する授業科目を基礎としながら、教育学的、心理学的あるいは生理学的なアプローチ等から、幅広く学ぶことができるカリキュラムを用意しています。また特別支援学校における教育実習の他に、特別支援教育に関する卒業論文も必修科目とすることで、実践的な指導法と基礎的な理論の双方を身につけることを目指しています。

This course was established in 1978 to improve the educational situation of special-needs children. The course is targeted at those who have graduated from university and have acquired a general teaching certificate for kindergarten, elementary, junior high, or high school. Students on this course can earn a first class teaching certificate for a special support school by taking several specialized subjects in one year.

This course has a practical and theoretical curriculum for special support education. By way of example, this curriculum includes courses on education, psychology, and physiology for special support education. Also, students are required to do both research and practice teaching in a special support school.

## ●設置の目的

### 各学部に共通する教育の企画、調整と実施

幅広く深い教養及び総合的な判断力を養い豊かな人間性を育むことを目的としています。琉球大学の共通教育の特色としては、次の7つがあげられます。

#### 1. 総合大学としての琉球大学の特徴を生かし、多くの魅力ある講義を提供しています。

授業科目は約270もあり、この中から、学生は専門との関係、自分の関心や必要に応じて科目を選択することができます。「亜熱帯一西表の自然」、「大学間合宿共同授業」、「国連大学グローバルセミナー、沖縄セッション」のように宿泊をして集中的に行われるものもあります。又、学生の職業・就職観等を深める科目として「職業と人生」、「キャリア概論」、「キャンパス・エコ・ライフ」及び「大学と産業の振興」を開設しています。

#### 2. 琉大特色科目を設けています。

沖縄の特異な歴史的文化的風土と自然環境、そしてそこで生まれ育った琉球大学の建学の理念に焦点をあてた授業科目を編成しています。「ウチナーグチ入門」、「琉球の自然」、「三線と島唄」等の沖縄という地域を学ぶ科目、琉球大学の建学の理念である自由と平等・平和と寛容を考える科目、自然と文化を含み亜熱帯を考察する科目等です。

#### 3. 少人数教育を設けています。

琉球大学の共通教育は、語学では40人以下、通常の講義は平均70人程度で授業を行っています。

#### 4. 豊富なアジア言語科目です。

中国語はもとより、朝鮮語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語の五つのアジア系言語の科目を開講しています。

#### 5. 原則として四年間いつでも共通教育を学ぶことができます。

共通教育と、専門教育は相互に補完的な関係にあり、学士課程教育を構成する両輪です。専門科目と平行して、あるいは専門科目を学んだ後、その知識を生かしながら共通科目を学ぶことができます。

また、高学年の学生専用の共通教育科目もあります。

#### 6. 多様な学生に応じたきめ細かいカリキュラムです。

高校で物理、化学、数学を学ばなかった学生、あるいは基礎学力が不足している学生には、高校から大学への学習の補完を図るための転換科目・専門基礎科目を設けています。英語も基礎力を充実するクラスを設けています。他方、力のある学生にはTOEFL・TOEICの対策や英検一級合格を目指すクラスがあります。

#### 7. 情報教育が充実しています。

情報処理教育は全学生が履修できる数のクラスを準備しています。

#### 大学教育センターの主な業務

- ・共通教育等科目の実施・運営
- ・大学教育の実施・運営のための調査研究
- ・学生による授業評価アンケートおよびその結果による「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」教員表彰
- ・全学的なファカルティ・ディベロップメントの実施（公開研究授業・授業技法ワークショップなど）
- ・高大連携事業（出前講義、公開授業、大学訪問の受け入れなど）



平成8年4月に設置された大学教育センターは、多くの共通科目を開設して幅広く深い教養を身に付けるためのカリキュラムを提供しています。

### 大学教育の充実向上のための調査研究

琉球大学は、入学したすべての学生に十分な実力をつけて社会に送り出すことを目指します。これまでは、とすれば学生の評価が入試の難易度に基づいてなされてきたくらいがあります。しかし、社会がグローバル化し、他方において青年の気質が変化する中で、企業や社会においても、大学の卒業生に対して、単にどの大学を出たかではなく、課題探求能力を持ち、その上に専門的能力や技能を身につけた人間性豊かな人材が求められるようになってきました。琉球大学は、そのような人材を社会に送り出します。そのための不断の教育改善を担っているのが大学教育センターです。

The University Education Center has two responsibilities. The first is to make an overall plan for general education courses that every student is expected to take and to provide these courses. General education courses at the university cover various fields, such as humanities, social sciences, natural sciences, and foreign languages. In addition, interdisciplinary courses are offered in two subject groups. One of them, Ryudai Special Courses is the group of courses in which students learn about the founding principles of the university by studying history, society, culture, language, and the natural environment of Okinawa, as well as courses on peace, gender, and cross-cultural communication. The other group is Sogo-Kamoku in which students learn about culture, society, the environment, information, technology and science. The second responsibility that the Center has is to conduct research on how to improve education at the university and to disseminate these findings. The Center strives to offer general education that is best suited for the mental, social, and academic development of students so that they can make a significant contribution contribute to society after graduation.



## ● 総合大学だからこそその豊富な蔵書

附属図書館では、図書や学術雑誌、文献データベース、1万タイトル以上の電子ジャーナルを収集し、本学学生や研究者、教員に提供しています。資料は当館Webサイトで検索が可能です。

The University Library houses a wide collection of books, databases, and journals, and offers access to 10,000 electronic journals. Our holdings are searchable on-site or via our website. Our constant aim is to provide for the needs of both students and researchers.

<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>



### 特色あるコレクション Special Collections

伊波普猷文庫 (おもろさうし仲吉本、屋嘉比工工四等 161 冊)  
Iha Fuyu Collection (161 vols.)

島袋源七文庫 (浦添家本伊勢物語等 115 冊)  
Shimabukuro Genshichi Collection (115 vols.)

宮殿殿内文庫 (八重山行政関係資料約 350 点)  
Miyara Donchi Collection (350 vols.)

仲原善忠文庫 (約 3,300 冊)  
Nakahara Zenchu Collection (3,300 vols.)

仲宗根政善文庫 (329 点)  
Nakasone Seizen Collection (329 vols.)

Bull 文庫 (560 点)  
Bull Collection (560 vols.)

他8文庫 (計 14 文庫)  
8 additional Collections (Total 14 Collections)

### 国際資料 International Documents

UN (国連) 資料 (2,580 冊)  
UN Publications (2,580 vols.)

EU (欧州連合) 資料 (5,720 冊)  
EU Publications (5,720 vols.)

OECD 資料 (3,240 冊)  
OECD Publications (3,240 vols.)

UNESCO 資料 (1,320 冊)  
UNESCO Publications (1,320 vols.)

WHO 資料 (320 種)  
WHO Publications (320 vols.)

電子ジャーナル (約 12,000 タイトル)  
Electronic Journals (12,000 titles)

海外衛星放送 (5 サテライト - Korea sat, Palapa, Asiansat2, Thaicom, Asia Sat3S - の受信及び有料放送)  
Overseas Satellite Broadcasting System (5satellites -Korea sat, Palapa, Asiansat2, Thaicom, Asia Sat3S, and pay channels)

## ● 蔵書数 Library Holdings

平成21年3月31日現在 (As of March 31, 2009)

区分	和洋別 Japanese/Foreign	本館 Main Library	医学部分館 Medical Library	計 Total
図書(冊) Book (vols.)	和漢書 Japanese	606,282	61,057	667,339
	洋書 Foreign	250,555	62,664	313,219
	計 Total	856,837	123,721	980,558
雑誌(種) Journals (titles)	和 Japanese	12,314 (2,875)	2,031 (518)	14,345 (3,393)
	洋 Foreign	6,013 (720)	1,513 (77)	7,526 (797)
	計 Total	18,327 (3,595)	3,544 (595)	21,871 (4,190)

(注)雑誌はタイトルを示す。なお、( )内は現在の受入タイトル数で内数。

(Note) The number of journals indicates the number of titles. The number in parenthesis indicates subscribed journals.

## ● 利用状況 Library Statistics

平成20年度(2008)

区分	本館 Main Library	医学部分館 Medical Library	計 Total
入館者数 Library users (persons)	467,642	193,536	661,178
貸出冊数(内 学生) Books lent (vols)	86,738 (77,343)	13,689 (12,145)	100,427 (89,488)

# 保健管理センター

## Health Administration Center

保健管理センターは、学生及び教職員の健康の保持・増進等の保健管理に関する専門的業務を行う施設として、1979年に設置された。主たる業務は、学生健康診断や健康相談、カウンセリング及び精神衛生相談、簡単な投薬治療並びにケガなどの応急的処置である。

現在の取組は、毎年4月に実施する定期健康診断や、学校医による健康相談を実施して学生の健康管理を支援しているほか、学生の教育実習・臨床実習等に伴う感染対策を実施している。

また、カウンセリングルームでは、女性利用者の増加に伴い平成21年度から女性カウンセラーを増やすなど、カウンセリング体制の充実を図っている。



The Health Administration Center was established in 1979 with the aims of providing and promoting health services for all students, and faculty and administrative staff. The Center is equipped to offer the campus community various health services, such as routine medical examinations, health consultations, counseling, basic medical treatment and medication, as well as first-aid treatment including injuries.

Currently, we offer annual medical examinations carried out in April of each year, health consultations by school doctors for the health maintenance of students, as well as measures for infection control for students going to have teaching or clinical training.

In addition, since 2009, we added a female counselor in the counseling room to deal with the increasing number of female visitors and to improve the overall quality of our counseling services.

# 教育学部附属学校

## Elementary and Junior High Schools

### ●教育学部附属小学校 Elementary School

教育目標に「一人一人が夢をもち、未来を生きる力のある子」を掲げている。

21世紀は個性を大事にする時代であることをもとに、一人一人が将来の目標となる大きな夢をもち、自らの未来を、自分の力で生きることができるとの育成を目指している。基本的な教育理念のもとに、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成を行っている。

This school aims to educate children who will create a bright future for themselves and strive for developing an innovating way of life.

To achieve this aim, they are expected to cherish wisdom, to be considerate of others with a sound mind, to do things tenaciously, and to be strong in body throughout their days in this school.

総定員 Total Fixed Number	学級数 Classes
720人	18クラス

### ●教育学部附属中学校 Junior High School

「よく考え、豊かに感じ、自発的に行動する生徒の人間性を形成する。」を教育目標とし、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意ある教育活動を展開する中で、物事をよく考え、自ら進んで課題解決に粘り強く取り組む生徒の育成に努めている。また、学部教員と共同研究を推進し、大学生に実習の機会を提供している。

The objectives of the Junior High School attached to the Faculty of Education are to provide faculty members with a sound environment for theoretical and practical research and to offer opportunities for students in the Faculty of Education to be trained as competent teachers.

総定員 Total Fixed Number	学級数 Classes
480人	12クラス

教育研究 Education Research	大学との連携を蜜にしながらか教育理論と教育実践に関する研究および実証を行う。 Conduct Educational Research on a educational theory and practice through cooperating with the university
教育実習 Teaching Practice	大学が計画する教育実習に協力し、学生に対して教育者としての資質をみがき、教育実践者として徹底した指導を行う。 Cooperate with the university for teaching practice.
地域への協力 Cooperation with Others	研究発表会の開催や教育研究の実践を行い、地域の教育界と交流を図り、現職教育に協力する。 Present Reserch in cooperation with other schools.



教育学部附属小学校 Elementary School



教育学部附属中学校 Junior High School



# 医学部附属病院 University Hospital

琉球大学医学部附属病院は、「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。」という理念を掲げ、生命の尊厳を重んじた温かい医療の実践、地域における保健・医療・福祉の向上、地域医療への貢献、先端医療技術の開発・応用・評価などを大学病院の基本方針としています。県内唯一の特定機能病院として、高度医療や先進的医療を担い、その使命と役割を果たしてきています。

附属病院は、平成19年3月に、エイズ診療拠点病院に、平成20年2月には、都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受け、沖縄県における高度医療および地域医療を担う医療機関として機能するとともに、感染症など東南アジア地域における医療への貢献も期待されてきている。

At the University Hospital we aim to develop international-minded medical staff while providing the kind of high-quality healthcare that our patients require. We also aim to provide the designated optimal medical care with profound compassion, and to improve the community healthcare and welfare of the community. As the only specialized general hospital in Okinawa, we have demonstrated a firm commitment to providing provide innovative and advanced medical care.

Appointed as the community AIDS Clinical Center in March 2007 and as a stronghold Hospital for cancer therapy in February 2008, the University Hospital functions as the focal point of advanced medical care in Okinawa, and is expected to contribute to community healthcare and medical treatment against infectious diseases in Southeast Asia.



## ● 病床数 Number of beds 平成21年4月1日現在 (As of April 1, 2009)

診療科目 Clinical		病床数 Number of beds
放射線科 Radiology	1階	20
ICU・産婦人科 Obstetrics/Gynecology	4階	66
精神科神経科 Neuropsychiatry	5階	40
整形外科 Orthopedic Surgery・小児科 Pediatrics	6階	89
外科 Surgery・麻酔科 Anesthesiology	7階	97
脳神経外科 Neurosurgery	8階	99
耳鼻咽喉科 Otorhinolaryngology		
眼科 Ophthalmology		
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery		
内科 Internal Medicine	9階	101
内科(結核) Internal Medicine (Including Tuberculosis)	10階	92
皮膚科 Dermatology		
泌尿器科 Urology		
合計 Total		604

## ● 入院及び外来患者数 平成21年4月1日現在 (As of April 1, 2009)

事項 Classification	年度 Fiscal Year							
	平成14年度 2002	平成15年度 2003	平成16年度 2004	平成17年度 2005	平成18年度 2006	平成19年度 2007	平成20年度 2008	平成21年度 2009
入院 Inpatients	病床数 Number of Beds	600	604	604	604	604	604	604
	入院患者延数 Total Patients by Year	192,698	191,536	192,389	190,160	189,246	182,881	184,546
	1日平均入院患者数 Average Number of Patients per Day	528	523	527	521	519	450	506
	平均在院日数 Average Number of Days in Hospital	27.2	26.7	25.2	22.4	22.2	20.4	20.2
	病床稼働率 Rate of Bed Utilization	88.0	86.6	87.3	86.3	85.8	82.7	83.7
	外来 Outpatients	外来患者延数 Total Patients by year	215,181	225,365	230,275	241,885	245,389	249,462
1日平均外来患者数 Average Number of Patients per Day		878	916	952	991	1002	1018	1057
平均通院日数 Average Number of Days Patients Visited Clinics		16.0	15.2	15.8	16.1	16.8	16.8	17.5

## ●【教育学部】教育実践総合センター

Center for Educational Research and Development

教育実践総合センターの設置目的は、学校及び地域社会の教育課題の解決に的確に対応できる人材の養成に向け、学部及び関係諸機関との連携を図り、教育実践並びに教員養成に関する理論的・実践的・臨床的研究及び指導等を総合的、体系的に推進することです。

右記のA, B のフィールドを備え、1～7までの事業や研究会を実施しています。

The Center for Educational Research and Development was established for the purpose of improving schools and local community educational processes. With the cultivation of human resources in mind, the department and other institutions cooperate in order to design theoretical and practical methods for teachers, and to systematically drive the educational system forward.

In the list right, A and B show the field of work available, and points 1 to 7 describe the projects and seminars currently being implemented.

- A. 【教育実践研究開発部門】  
Educational Training Field
- B. 【学校教育相談実践研究開発部門】  
Educational Counseling Field
- 1. 【教育実践ボランティア派遣事業】  
Educational Training Volunteer Project
- 2. 【教育相談事業】  
Educational Counseling Project
- 3. 【マルチメディア活用推進事業】  
Multimedia Use Implementation Project
- 4. 【講演会等の開催事業】  
Lecture Organization Project
- 5. 【学校教育相談研究会】  
School Educational Counseling Seminar
- 6. 【教育実践研究会】  
Educational Training Seminar
- 7. 【マルチメディア研究会】  
Multimedia Seminar

## ●【教育学部】発達支援教育実践センター

Development support educational practice center

平成21年4月から、教育学部附属『発達支援教育実践センター』に名称が変わりました。子どもたちの発達支援に関する研究や教育方法の開発を行うと共に、教育相談や研修活動を通じて地域社会に貢献することを目的としています。現在、センター長1名(兼任)、専任教員1名で運営されています。

平成18年より月二回、地域の子どもたちのために「トータル支援教室」を開いています。子どもたちの発達支援、保護者の子育て支援、学校及び関連機関との連携による現職教員の実践支援、学校現場で活躍できる学生を育てる教育支援がその目的です。

また、創立以来10年にわたって、宮古島、石垣島、与那国島などへ巡回教育相談に訪れています。

From April, 2009, a name turned into "the development support educational practice center" attached to the Department of Education. We develop a study about the development support of children and the education method and aim for contributing to the community through education consultation and training activity.

For children who need special support, "the total support classroom" has been started in October 2006.

## ●【工学部】工作工場

Manufacturing Laboratory

工作工場は機械システム工学科のものづくり教育の拠点です。ものを作るには正確に速く効率良く安全に作る事が要求されますが、それを学ぶ場所が工作工場です。作るための知識は講義で学びますが、それを体で直に経験するのが材料加工学実習です。実習は、一貫してものづくりができる高度技術者養成の立場から、テーマは幅広い内容とし、かつ小人数の班分けによる実習を実践し、総合的デザイン能力や問題解決能力の養成を目的としています。そのため、工作工場内には種々の工作機械や鋳造、鍛造、溶接等の設備が有り、また進化する加工技術に対応する形でマシニングセンタやCNC工作機械も設置し、それらを制御するプログラミング教育も重点的に行っています。さらに、工学実験や卒業研究および大学院の研究に関わる多種多様な機器や装置の製作を通して教育研究の支援を行っています。

The Manufacturing Laboratory is the foundation of mono-zukuri education in the Department of Mechanical Systems Engineering. Accuracy, efficiency, and safety in the manufacturing process in mono-zukuri are required, and students can obtain these skills through training courses in this Laboratory. Knowledge of material processing and manufacturing can be learned from lectures, and first-hand experience of how to make products. In order to develop highly skilled engineers who can design products systematically, the themes in the training course are chosen from diverse fields of processing and Students work on their projects in small groups. The purpose of training is to foster abilities in engineering design and problem-solving. Therefore, a number of tool machines, casings, forgings, welding equipment, machining centers and CNC machines are installed in the Manufacturing Laboratory. Furthermore, experiment apparatus and test pieces are produced to support education and research in undergraduate and graduate programs.

## ●【医学部】動物実験施設

The Institute for Animal Experiments

医学部及び関連領域の教育・研究に資するため、実験用動物の飼育管理、動物実験、代替実験及び実験用動物に関する教育、開発、研究等を行なっています。

Related to biomedical sciences, Education and research on the following subjects are carried out: care and management of laboratory animals, animal research, alternatives to animal research, and laboratory animal sciences.

## ●【医学部】実験実習機器センター

Research Laboratory Center

医学の教育研究のために、医学部の共同利用施設として、その施設、設備等を管理し、効率的な運用を行うことにより、医学の教育及び研究に資するを目的としています。

The Research Laboratory Center offers the use of apparatus and facilities for education and research into medical science. The Center is open to all staff and students from the Faculty of Medicine and aims to contribute to education and research related to medical science.

## ●【農学部】亜熱帯フィールド科学教育研究センター

Subtropical Field Science Center

フィールド科学センターは、島嶼農林科学部門と農林教育情報部門の2部門で構成されています。島嶼農林科学部門は、農山間域農業分野、森林・沿岸資源分野、都市域農業・緑地分野の3分野から構成されています。また当センターは、農学部構内に所在する千原フィールドと沖縄本島北部に所在する与那フィールドの2つのフィールドを有しています。

フィールド科学センターでは、森林から周辺沿岸までを含めたフィールドにおける総合的な教育研究活動を行っています。千原フィールドでは、主に栽培作物、施設園芸および家畜生産を中心に活動しています。また、与那フィールドでは、主に森林および周辺沿岸のフィールドを中心に活動しています。

The Subtropical Field Science Center is composed of the Division of Island Agricultural and Forest Science (IAFS), and the Division of Educational Information in Agricultural and Forestry. The IAFS consists of the Rural Agricultural Section, Forest and Seashore Resource Section, and Urban Agriculture and Greenland Management Section. The Field Science Center has two campuses: Senbaru Field in Nishihara and Yona Field in the northern part of Okinawa.

The Field Science Center provides practical education facilities and conducts research on agriculture and forest management in tropical and subtropical zones. The Senbaru Field provides practical education facilities and conducts research on mainly crop, vegetable and animal production. The Yona Field provides practical education facilities and conducts research on forest and coastal resources.



熱帯生物圏研究センターは全国共同利用施設で、熱帯・亜熱帯における生物の多様性やその背景にある様々な生命現象に関する研究を行っている。西原キャンパスに本部と多様性生物学の研究室があり、同じキャンパス内の分子生命科学施設に遺伝子機能解析学、遺伝資源応用学分野、環境生命情報学、感染免疫制御学、分子感染防御学の研究室がある。瀬底島の瀬底研究施設にサンゴ礁生物生態学とサンゴ礁生物機能学の研究室、西表島の西表研究施設に植物機能開発学、森林環境資源学、生物資源機能学の研究室がある。各研究室は国内外の研究者との共同研究を行うほか、外部研究者にも施設を提供している。また、大学院・学部学生に対する教育も行っている。

熱帯生物圏研究センターは20年度、おもにサンゴ礁生態系の形成や機能の解明に関する研究、サンゴ礁魚類の生殖周期や性構成、そしてそれらの影響因子や調節メカニズムに関する研究、亜熱帯島嶼環境下における生物多様性の現状や形成過程に関する研究、生物資源の検出、有効利用、効率的な生物生産の確立に関する研究、などを行なった。さらに様々な人為的要因や地球規模での環境変動によってダメージを受けたサンゴ礁、マングローブの回復を目指した研究にも着手した。平成21年度に分子生命科学センターと統合を果たし、遺伝子・分子レベル、感染生物学の研究も含む総合研究センターとして新たなスタートを切ることになった。

This Center aims to carry out research on aspects of biodiversity, coral reef ecology, the functional physiology of animals in coral reefs, applied plant science, the functional physiology of bioresources, and forest resource science. The Center consists of the Nishihara Station, Sesoko Station, and Iriomote Station. The Center has 12 professional members, two foreign visiting research fellows and five domestic visiting research fellows. Visiting scientists and students are also welcome.

In the fiscal year of 2008, the Center staff conducted researches on structure and function of coral reef ecosystems and rules underlying them; reproductive cycles, sexual compositions, and factors and mechanisms governing these properties in reef fishes; current status and formation process of biodiversity, and effective methods to detect, utilize and reproduce bioresources under the subtropical insular environment. Also, the Center began new projects to explore effective methods for recovery of coral reefs and mangroves that were damaged from local human activities, as well as from global climatic changes. In 2009, this Center has been combined with Center of Molecular Biosciences (COMB), and the research area has been extended to include functional genomics, molecular biotechnology, bioremediation, immunobiology and molecular microbiology with increase in the number of staff members.

## ● 西原本部 Nishihara Station

西原本部（多様性生物学研究領域）は熱帯生物圏研究センターの発足時に沖縄本島中部に位置する琉球大学西原キャンパスの理学部ビル内に設置されたが、2000年4月に新築された理系複合棟に移転した。熱帯・亜熱帯島嶼環境下における、爬虫類・両生類をはじめとする陸生動物の多様化・系統進化などの解明に取り組んでいる。移転後の西原本部では、人工気象装置や動物の飼育、標本の観察・ストックのための設備が整備・充実され、多様性生物学の実験、研究が広範に進められている。西原本部では、大学院、学部の講義、実習も担当している。

The Nishihara Station was established in the Nishihara Campus, University of the Ryukyus, when the Tropical Biosphere Research Center was founded in 1994. It accommodates the Section of Biodiversity and is devoted to the study of the diversification and natural history of insular fauna. The Station is also expected to play an integrating role for the center. In 2000, the Nishihara Station moved to the Collaboration Building from the former facility in the Faculty of Science. This considerably increased the space, and equipment available for visiting researchers and students.



西原本部 Nishihara Station

## ● 瀬底研究施設 Sesoko Station

瀬底研究施設は内外の多くの研究者、学生等に広く利用されており、海洋生物の生態学や生殖・生理学的な研究のための基礎的な設備・備品が設置されている。これらの設備・備品は来訪者にも利用されている。施設では、琉球大学のカリキュラムの一環としての大学院、学部の講義、実習、研究集会等も開かれている。

The Sesoko Station owns modern large-scale fish tanks, and it is well equipped with instruments for marine science. Many foreign and domestic researchers and students visit this Station to conduct ecological and physiological studies of marine organisms. Training courses for students by the University of the Ryukyus and various other organizations are also frequently operated in this Station.



瀬底研究施設 Sesoko Station

## ● 西表研究施設 Iriomote Station

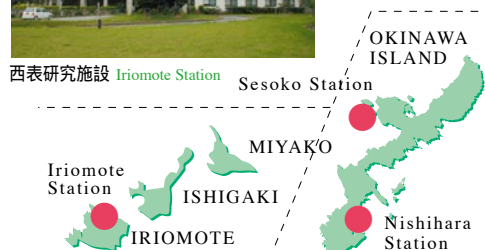
わが国最大の亜熱帯照葉樹林・マングローブ林を有する西表島に設置されている西表研究施設には、植物機能開発学・森林環境資源学・生物資源機能学研究室があり、日本のマングローブ研究の中心としての重要な役割を担っている。

施設は来訪する国内外の研究者や学生に利用されており、大学院・学部の講義・実習を開講している。また、国際協力事業団（JICA）等の研修員も受け入れている。

The Iriomote Station, located on Iriomote Island, is surrounded by a broad-leaf evergreen forest and mangrove forest. This Station includes three research sections: Applied Plant Sciences, Forest Resource Science and Section of Functional Physiology of Bioresources. This station has been playing a central role as a research base or station for the study of mangrove ecosystems. The facilities of this Station, including the dormitory, are available to foreign and domestic researchers and students. The Iriomote Station conducts intensive courses for undergraduate and graduate students. The Station is also involved in various training courses organized by Japan International Cooperation Agency, the Association for International Cooperation of Agriculture and Forestry, etc.



西表研究施設 Iriomote Station



## ● 分子生命科学研究所

Center of Molecular Biosciences (COMB)

教育研究施設として、細胞及び分子レベルにおける高度な学際的トポカルバイオサイエンスの教育研究を推進する。遺伝子機能解析学、遺伝資源応用学分野、環境生命情報学、感染免疫制御学、分子感染防御学の5つの研究室があり、学内での共同研究を進めるとともに全国の研究者とも共同プロジェクトを進めている。センターにおいては、センターの設置目的を達成するために、教員・学生が一丸となって研究に取り組んでいる。20年度は大型の研究プロジェクト文部科学省特別研究経費「新興・再興感染症に対する粘膜ワクチンの開発」を始めとする21件のプロジェクトが実施された。さらに21年度から大型の研究推進プロジェクトとして「運び屋」による「動く遺伝子」ゲノム侵入機構の解明と汎用型遺伝子導入ベクターの開発がスタートした。



The Center of Molecular Biosciences (COMB) is dedicated to higher education and the promotion of the research fields of biosciences at cellular and molecular levels. All instruments and facilities are, in principle, available for use by students and faculty members from every school and department on campus and also outside research community. To achieve educational and research excellence, our faculty members and students have been enthusiastically collaborating. In 2007, faculty members were involved in the total of 33 research project including “Mucosal vaccine development research against newly and re-emerging infectious disease” funded by The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. In 2009, a new research project “analysis for genomic invasion mechanism of movable elements and development of general standard vector using transporter” has been launched.

# 学内共同教育研究施設

# Inter-Departmental Institutes for Education and Research

## ● 産学官連携推進機構

Integrated Innovation Center for Community (IICC)

本学では、従来からの使命である「教育」と「研究」に加え、「社会貢献」を第3の使命として明確に位置づけ、大学を中心とした地域産業の振興発展の仕組みを構築し、着実に推進してきた。このような活動を充実・強化すべく、平成20年4月より「地域共同研究センター」と「知的財産本部」を統合するとともに、新たに起業化を支援する機能を付加し、琉球大学の産学官連携活動を担う組織として「産学官連携推進機構」を設置した。

本機構は「研究開発推進部門」「知的財産部門」「起業支援部門」の3部門からなっており、研究成果からの知財の創出・保護・活用の各段階を一貫して支援する。本機構棟には(株)沖縄TLO、(株)沖縄ヒューマンキャピタルも入居し、産学官連携を推進支援する機能が集積しているとともに、その他10企業が入居し、共同研究に取り組んでいる。

また、平成18年度より、先進・実践結合型IT人材養成事業を開始し、社会人向け教育を実施している。



Alongside our fundamental objectives of “education” and “research”, our university has positioned “contribution to society” as a third objective. We have established a structure for the development of local industries and have also promoted the advancement of those industries.

In order to enhance and strengthen our activities, the Organization for Promotion of Industry-University-Government Collaboration was established in April 2008, by integrating the Center for Cooperative Regional Research and the Intellectual Property Office, with a new function to encourage new enterprises and provide support.

The Organization consists of the “Promotion for Research Development Division”, “Intellectual Property Division” and “Support for Enterprise Division”, and aims to provide various supports at each stage, including the creation of intellectual properties through research at our university, and the protection and application of those properties. Okinawa TLO Ltd. and Okinawa Human Capital Ltd. are also located in the same building on campus as the Organization, and we have been developing the capability to promote and support industry-university-government collaboration. Ten other business enterprises have also moved into the building and have been engaged in joint research projects.

Furthermore, since 2006, programs for nurturing human resources combining advanced and practical IT have been initiated, and adult education program or many; has also been implemented.

## ● 機器分析支援センター Instrumental Research Center

2007年度に三つの施設（機器分析センター、環境安全施設、RI施設）を統合し、機器分析支援センターとして新しくスタートしました。また、新しい分析装置の導入もすすみ、多くの利用者に提供しています。さらに学外からの依頼分析に対する「受託試験」についても分析範囲を広げつつあります。今年度も新機種の導入に努めるとともに、各種セミナー等を実施し利用者のニーズに応える予定です。

Instrumental Research Center is a university-affiliated institute for education and research. The Center was established in 2007 by reorganizing the 3 Laboratories. Introduction of new instruments have been steadily advanced and workshops on the instruments were widely provided to users. And external requests for an analysis are extensively accepted.



## ● 生涯学習教育研究センター Education and Research Center for Lifelong Learning

生涯学習に関する教育及び研究を行うとともに、本学の学習資源を開放し、生涯学習体系構築に資する。本センターの取組は公開講座のページをご覧ください。

The aim of the Center is to promote education research, and foster the creation of a organization for lifelong learning in Okinawa by providing learning resources at the University of the Ryukyus.



## ● 総合情報処理センター Computing and Networking Center

学内コンピュータネットワーク設備を管理運営し、学内の情報処理教育環境と研究環境の充実を図り、電子メールやWWWなどのICT活用のための教育基盤を提供する。さらに、情報処理に関する研究ならびに次世代学内コンピュータネットワーク構築のための研究開発を行う。

特に最近では、高帯域ネットワークおよび無線LANの管理、e-ラーニング等主要なインターネットアプリケーションとネットワークサービスに取り組み、様々な情報サービスを提供している。

また、学内の学生と教員および職員に対して、ICT活用のための様々な技術的な支援を行っている。

The center aims to promote computer education and to offer information services such as E-mail and WWW to all students, faculty members and staff by administering the campus computer network faculty members. In addition, the center researches and develops information processing systems and next campus computer network system for the new generation.

Recently the center is focusing the High bandwidth Internet connection and the wireless LAN services. In addition, the center provides advanced network applications such as e-learning system. The Center provide, not only the infrastructure and network application services but also consultation and seminar services to all student, teacher, and staff.



## ● 留学生センター International Student Center

外国人留学生に対する日本語・日本事情の教育、留学生の修学・生活上の諸問題に関する相談・指導、学生の国際交流を行う教育施設である。

平成20年度においては、学生交流を推進する目的で香港中文大学学生を招き琉球大学（香港中文大学）サマープログラムを実施したり、留学生と日本人学生・地域の人々との相互理解を深める目的で留学生まつりを実施するなど各種事業を開催した。さらに、経済産業省と文部科学省の共催事業である「アジア人財資金構想・高度実践留学生育成事業」を実施し、留学生の日系企業への就職支援に取り組んでいる。

The center aims to provide Japanese language education to international students, to offer counseling services of both academic and non academic nature, and to promote international student exchanges.

In the year 2008, the center carried out a summer program, inviting students of the Chinese University of Hong Kong. With the goal of promoting student exchange, the center implemented exchange programs and language programs. Various activities such as the International Student Festival were also carried out to deepen mutual understanding among Japanese and international students, as well as local people. In addition to the above programs, the "Career Development Program for Foreign Students from Asia - Project for Advanced Foreign Student Training" co-sponsored by the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) and Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), has been carried out striving to support international students searching for jobs in Japanese enterprises.



# 学内共同利用施設等 Joint-Use Inter-Departmental Institutes

## ● 外国語センター Foreign Language Center

本学の学生及び職員の語学学習の利用に供する。

The Foreign Language Center is open to all students, faculty members, and other University personnel, as well as local inhabitants for the purpose of providing language learning opportunities.

### 外国語センターの主な事業

- ・ネイティブスピーカーによる公開講座の提供
- ・イングリッシュ・ラウンジの開設
- ・スペイン語スピーチコンテスト
- ・海外異文化研修(2007年度：ハワイ)
- ・琉球大学でのインターネット版 TOEFL (TOEFL-IBT) 実施
- ・e-learning システム「ALC NetAcademy2」の運用・管理



## ● 極低温センター Low Temperature Center

極低温センターでは二種類の寒剤(液体窒素:  $-196^{\circ}\text{C}$ 、液体ヘリウム:  $-269^{\circ}\text{C}$ )を製造し、全学に供給しています。これらの寒剤は幅広く様々な実験に用いられています。ヘリウムは希少資源でリサイクルが望まれるため、極低温センター内にはヘリウムガスを回収できる実験室も備えています。ヘリウム液化・回収施設のある大学は全国でも数少なく、九州・沖縄地区では九州大学、熊本大学、琉球大学の3か所だけです。

寒剤には酸欠、爆発、凍傷などの危険性があるため、極低温センターでは利用者の保安教育に力を入れています。また極低温分野の教育と研究も支援、推進しており、装置の開発や低温物性の研究が活発に行なわれています。施設公開で行う低温実験や、小・中・高校の理科教育、科学教室への協力など、地域貢献も好評を得ています。

平成3年(1991年)に設立されて以来の老朽化してきた液化設備も、昨年度までに更新され、今後も両寒剤の全学への供給を円滑に進めることができるようになりました。

Liquid helium ( $-269^{\circ}\text{C}$ ) and liquid nitrogen ( $-196^{\circ}\text{C}$ ) are manufactured in the Low Temperature Center and are supplied to all over the University. As helium gas is a sparse resource, collecting and recycling lines for helium gas from experimental rooms are set completely in the Center. Only a few selected universities have Helium liquefiers in Japan, such as Kyushu University, Kumamoto University and our university in Kyushu and Okinawa area.

Since there are many cases that the cryogen cause accidental situations such as oxygen deficiency, explosion and frostbite for users, safety education is provided for them. Also the Center supports and promotes education and research in the field of low temperature. Device development and research in low temperature regions is actively performed. In addition, science education held in local schools is popular among students.

The nitrogen and helium liquefiers were renewed up to last year. Both liquids can be sufficiently supplied to all over the University.

## ● 資料館(風樹館) Academic Museum (Fujukan)

琉球大学資料館(風樹館)には、学内の研究者が教育や研究活動の一環として、主に琉球列島で収集した約4万点あまりの標本や資料が収蔵されています。一階にある常設展示室では、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどの希少生物の標本をはじめ、首里城関連の考古資料、伝統工芸資料、農具などの民俗資料が展示されています。また、当館には自然学習の場として「学校ビオトープ見本園」が併設されており、様々な動植物が観察できます。

琉球大学では「地域へ開かれた大学」という方針のもとに、大学が生産する様々な学術情報を学外へも広く提供しています。当資料館では、広く学外の方々にも収蔵資料を活用していただけるよう、ホームページ上に標本データベースを開発し、標本情報等の発信を行っています。また、地域への貢献活動として、小学校などへの出前授業や教職員の研修会なども実施しています。

The University of the Ryukyus Museum, Fujukan, houses over 40,000 specimens and various exhibits collected from all over the Ryukyu Islands, as part of university's educational and academic research activities. The specimens of endangered animals and birds such as the Iriomote Cat and Okinawa rail as well as archeological materials from Shuri-jo-Castle and folklore material including traditional crafts and farming tools of Okinawa are exhibited in a room on the first floor. There is a "biotope" where various animals and plants are available for field study by school students.

A variety of scholarly information produced within the university has been made available to the public. Various information on the museum specimen is available to viewers on the Fujukan Online Collections Database. As a contribution to the community, the museum offers classes to local elementary schools and conducts faculty development workshops.



# 学内共同利用施設等 Joint-Use Inter-Departmental Institutes

## ● 大学評価センター

University Evaluation Center

大学評価センターは、本学における自己点検・評価に関する企画及び調査研究を行い、自己点検・評価の充実を図ると共に、第三者評価等への対応を企画、立案し本学における教育研究等の改善・改革に資することを目的に、学内共同利用施設として設置されている。評価センターは、センター長を始め、副センター長、評価企画員(8名)及び事務職員(2名)で構成されており、本学の自己点検・評価活動とその改善努力等の推進に取り組んでいる。

近年の主な活動としては、国立大学法人評価委員会へ提出する法人評価の各種報告書作成へのサポートの他、教員業績評価の実施、本学の評価活動を向上させるための支援を行っている。また、外部有識者との懇談会等も開催し、得られた有益な情報を本学のより良い改善・改革のために活用できるように努めている。

The University Evaluation Center was established as one of the Joint-Use Inter-Departmental Institutes in our University. The purposes of the Center are as follows: research and planning for the self-assessment and evaluation of higher education, arrangement of external evaluations, and improvement of our education and research. The Center is composed of 10 faculty members and 2 staff members.

Recently, the Center has been working on publication of our self-assessment reports, implementation of the trial of faculty performance measurement, and building evaluation culture in our university. We have held meetings seeking expert opinions to utilize them for our university reform.

## ● 就職センター

Placement Center

就職センターは、①学生の職業意識の啓発、②学生の就職相談、③就職支援のための調査・分析、④全学的就職支援事業の実施、⑤関係機関との連携など、全学的な立場から学生の就職活動を支援し推進しています。

就職センターで行っている主な支援プログラムは以下のとおりです。

1年次2年次の学生には、学生に働くことの大切さを知ってもらうためのキャリア科目を提供しています。講義以外には、就職活動を始めるための各種ガイダンスやセミナーをはじめ、面接・履歴書添削などの指導・助言など個別指導も行っています。

また、広く会社を知ってもらうため、学内合同企業説明会や個別企業説明会も開催しています。

その他、就職に関する情報はメール配信によりタイムリーに学生に届くようになっていきます。

The Placement Center aims at broadening an awareness of career possibilities, providing students with career consultation, conducting research and analysis in support of employment searching, supporting university-wide student recruitment activities, and coordinating with related organizations.

As support activities, the Center offers career subjects for 1st and 2nd-year students which are designed to enhance awareness of the importance of working. In addition, career guidance and seminars, as well as advice for job interviews and resume reviews, are also offered to help students start their employment search.

To make students aware of these opportunities, the Center also carries out joint job fairs on campus as well as sessions for individual companies. Moreover, useful information regarding recruit activities is distributed to students via email.



沖縄県キャリアセンター  
琉大ランチ



就職センター



就職センター（就職相談）



## ● 島嶼防災研究センター

Disaster Prevention Research Center for Island Regions

地球温暖化が進む今日において、巨大台風への備えや海面上昇への戦略的な対応が求められている。また、複雑化した社会システムにおいて、巨大地震への備えは緊急の課題とされている。

防災センターは、沖縄における防災研究の拠点として、

- 1) 地震防災
- 2) 台風防災
- 3) 沿岸河岸域防災
- 4) 地盤防災
- 5) 災害数値予測

などの研究を推進している。



Recent global warming induced increase of destructive tropical storms and rapid sea level changes in the world, especially in tropical-subtropical areas. Measures against these natural hazards are in demand. Preparedness against possible devastating earthquakes is also a matter of great urgency in the recent complicated societies/structures of the world. Disaster Prevention Research Center for Island Regions has been established considering above facts and provides the stronghold of researches of natural disasters in Okinawa Prefecture. The center promotes the multi-disciplinary studies on earthquake disaster prevention, flood control along the coastline and riverbank, reduction of ground disasters such as rainfall-induced landslides, and prediction of these disasters based on numerical modeling.



自然災害の予測と防災技術開発

## ● 国際沖縄研究所

International Institute for Okinawan Studies (IIOS)

国際沖縄研究所は、沖縄と沖縄に関連する地域と研究分野の個別的、学際的研究及びプロジェクトを推進し、国際的な研究拠点として、研究の進展と相互理解に貢献することを目的とする。

研究所は、以下の特徴を持つ共同研究拠点である。

- (1) 総合的・学際的な共同研究の推進
- (2) 理系とのコラボレーションによる文理融合型研究の推進
- (3) 国内外の研究機関・研究者の連携・交流を促進するネットワーク型の拠点形成
- (4) 沖縄から発信する「南の学と思想」の形成をめざす。

国際沖縄研究所は、以下のような研究分野に対し、国内外の研究機関・研究者の連携のもとに、学際的・融合的に共同研究を推進する。

- (1) 琉球／沖縄研究
- (2) 現代沖縄研究
- (3) 太平洋島嶼研究
- (4) アメリカ研究
- (5) アジア研究

このように、本研究所は、沖縄と沖縄に関連する地域と研究分野に関する国際的な共同研究の中核拠点を形成し、アジア・太平洋地域における「知の架け橋」としての役割を果たすことを目的とする。



The International Institute for Okinawan Studies aims to do research on Okinawa and areas that have a close relationship with Okinawa. To accomplish this aim, the institute will carry out interdisciplinary research and projects in addition to research conducted by individual researchers at the institute. The institute hopes to be an international center for such research and contribute to mutual understanding and promotion of research.

The institute may also be defined in these terms:

- (1) It is an institute that aims to carry out comprehensive, interdisciplinary scholarly collaborations.
- (2) It emphasizes collaborations with natural scientists.
- (3) It attempts to construct an international network in which humanists and social and natural scientists collaborate and cooperate.
- (4) It will also aim to create new scholarly approaches based on cultural, historical, and geographical features of the Ryukyus.

The institute has the following research areas:

- (1) Ryukyuan / Okinawan Studies
- (2) Contemporary Okinawan Studies
- (3) Island Studies
- (4) American Studies
- (5) Asian Studies

Thus, the International Institute for Okinawan Studies aims to be a bridge for scholarly activities in the Asia-Pacific region and serve as a center for such activities.

## ● 研究推進戦略室

Strategic Research Promotion Unit (SRPU)

研究推進戦略室は、本学の研究の個性化と高度化を図るために、平成15年度に設置されました。戦略的企画の立案、調整、研究支援、情報収集などを全学的な立場で統括・推進しています。目的達成のために、以下に掲げる項目について、戦略的企画立案と推進体制の確立を図っています。

- (1) 科学研究費等の獲得に向けた支援および指導
- (2) 研究プロジェクト支援事業の企画、審査、評価等
- (3) GCOE プログラム、特別教育研究経費等の大型研究プログラムの企画、支援および調整
- (4) 若手研究者、女性研究者および外国人研究者の支援

琉球大学における科学研究費採択率の向上を目的として、平成19年度に「科研費相談窓口」を設置しました。平成20年度には、千原キャンパスと上原キャンパスにおいて「科学研究費説明会」を開催するなど啓発・支援活動を行っています。平成19年度は、新たに公募型研究補助金「若手研究者支援経費」を設け、若手研究者による自発的な研究活動を奨励しています。また、亜熱帯島嶼科学の学際研究領域の推進と若手研究者育成を目的として、文部科学省科学技術振興調整費「亜熱帯島嶼科学を担う若手研究者育成プログラム（ライジングスタープログラム）」の企画立案を行いました。

Strategic Research Promotion Unit (SRPU) is a core advisory committee for the University President. Its mission includes the strategic promotion of new research in interdisciplinary areas that are dedicated to study multiple issues on Okinawa or subtropical environment.

The major activities of SRPU in 2008 were the promotion of integrated research and the establishment of a new research grant funded by the University of the Ryukyus. SRPU organized workshops and symposiums for faculty development on how to get research funding. The research grant “Young Investigator Research” was established by SRPU to support the research programs that were planned and conducted by young faculty members in the University. SRPU also planned and organized “Rising Star Program for Subtropical Island Sciences”, a new program for the University of the Ryukyus funded by the MEXT.



## ● 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構

Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies (TRO-SIS)

亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構（超域機構）は、文理融合型学際領域研究の推進を目的として、平成17年に設置された学部横断型組織です。21世紀の諸問題解決には、知識の融合と学際・複合領域研究者の育成が必要であります。超域機構では、「海洋」「島嶼」「亜熱帯」の3つのキーワードを柱に、サンゴ礁、マングローブ域、琉球の人・文化・国、有用資源生物、環境共存型産業を対象としたタスクテーマを設定し、沖縄特化型の学際研究のインキュベーション活動を行っています。

平成20年度には、文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的環境整備促進プログラム」の採択を受け、新たに「亜熱帯島嶼科学を担う若手研究者育成プログラム（ライジングスタープログラム）」を開始しました。「亜熱帯島嶼健康科学分野」、「亜熱帯島嶼生物科学分野」、「亜熱帯環境科学技術分野」の三分野において、学際新領域開拓に意欲的な若手研究者10名を国際公募により採用し、亜熱帯島嶼科学の研究拠点化構想を進めています。

Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies (TRO-SIS) is a research organization that promotes research activities in inter- or multi-disciplinary sciences. Encouraging three major subjects (subtropical sciences, marine sciences and island-social sciences), TRO-SIS has supported research task teams that explore corals, mangroves, Ryukyu culture, biodiversity, bio-resources, and sustainable agriculture and industry. In 2008 the organization has lunched “Rising Star Program for Subtropical Island Sciences”, a new program funded by the MEXT. In order to establish new academic fields for “Subtropical Island Sciences,” a new system is necessary to invite excellent researchers actively engaged in interdisciplinary research. Therefore, the University of the Ryukyus decided to adopt the Japanese version of the tenure-track system, which is different from the conventional system within each faculty and department, and has recruited young and energetic researchers from both Japan and abroad. TRO-SIS is in charge of this new challenge and now functions as a strategic research institute for ten Rising Star researchers.



# 資料 Data

役員・歴代学長	42
Administrative Staff, Current and Former Presidents	
運営機構図	44
Administrative Structure Chart	
キャンパスマップ	46
Campus Map	
各学部情報（学科名、入学定員、講座・分野等）	48
Detail of Each Faculties	
各大学院、専攻科等情報（専攻、入学定員、分野等）	50
Detail of Each Division	
社会貢献活動	53
Social Action Activities	
国際交流	57
International Exchange	
土地・建物	61
Land and Buildings	
平成21年度収入・支出予算	61
2009 Fiscal Year Budget	
科学研究費補助金等	62
Grant-in-Aid for Scientific Research	
建物等の竣工状況	63
Chronology of University Building Construction	
職員数・学生数	64
Staff and Student Number	
入学状況・卒業後の状況	66
Enrollments, Graduates	
年度別卒業生（修了者）数	67
Number of Graduates by Year	
沿革略図	68
History Chart	
沿革概要	69
History Outline	
キャンパスライフ	72
Campus Life	
学術刊行物	73
Academic Publications	
モニュメント	73
Monuments	
琉球大学へのアクセス	74
Access Guide	
施設等電話番号・所在地	75
Telephone Numbers and Addresses	

# 役員

## Administrative Staff

### President, Vice President, Auditor

#### 学長・副学長・監事

学長 President	岩政輝男 IWAMASA Teruo
副学長(研究・国際交流担当) Vice President (Research and International Affairs)	平啓介 TAIRA Keisuke
副学長(企画・経営戦略担当) Vice President (Planning and Management Strategy)	大城肇 OSHIRO Hajime
副学長(教育・学生・評価担当) Vice President (Education, Student Affairs and Evaluation)	新里里春 SHINZATO Rishun
副学長(財務・施設・医療担当) Vice President (Financial, Facilities and Hospital Management)	親川兼勇 OYAKAWA Kenyu
副学長(社会連携担当) Vice President (University Society Relations)	宜保清一 GIBO Seiichi
副学長(IT戦略・創設・同窓会60周年記念事業担当) Vice President (IT Strategy, University Foundation, Alumni Association, 60th Anniversary)	宮城隼夫 MIYAGI Hayao
副学長(総務担当) Vice President (General Affairs)	井手孝行 IDE Takayuki
監事 Auditor	小池勲夫 KOIKE Isao
監事 Auditor	当山尚幸 TOYAMA Naoyuki

### Management Council

#### 経営協議会

学長 President	岩政輝男 IWAMASA Teruo
財団法人放送大学教育振興会理事長 Chairperson, The Society for the Promotion of the Open University of Japan	井上孝美 INOUE Takayoshi
岐阜大学名誉教授 Emeritus Professor of Gifu University	金城俊夫 KINJO Toshio
沖縄県副知事 Vice Governor of Okinawa	仲里全輝 NAKAZATO Zenki
琉球大学名誉教授 Emeritus Professor of the University of the Ryukyus	中里治男 NAKAZATO Haruo
沖縄タイムス社代表取締役社長 The Okinawa Times President	岸本正男 KISHIMOTO Masao
琉球大学同窓会顧問・弁護士 President of the University of the Ryukyus Alumni Association	比嘉正幸 HIGA Masayuki
琉球大学後援財団理事長 Chairman, The University of the Ryukyus Foundation	松本行雄 MATSUMOTO Yuki
副学長(研究・国際交流担当) Vice President (Research and International Affairs)	平啓介 TAIRA Keisuke
副学長(企画・経営戦略担当) Vice President (Planning and Management Strategy)	大城肇 OSHIRO Hajime
副学長(教育・学生・評価担当) Vice President (Education, Student Affairs and Evaluation)	新里里春 SHINZATO Rishun
副学長(財務・施設・医療担当) Vice President (Financial, Facilities and Hospital Management)	親川兼勇 OYAKAWA Kenyu
副学長(総務担当) Vice President (General Affairs)	井手孝行 IDE Takayuki
農学部教授 Professor, Faculty of Agriculture	安田正昭 YASUDA Masaaki

### Council of Education and Research

#### 教育研究評議会

学長 President	岩政輝男 IWAMASA Teruo
副学長(研究・国際交流担当) Vice President (Research and International Affairs)	平啓介 TAIRA Keisuke
副学長(企画・経営戦略担当) Vice President (Planning and Management Strategy)	大城肇 OSHIRO Hajime
副学長(教育・学生・評価担当) Vice President (Education, Student Affairs and Evaluation)	新里里春 SHINZATO Rishun
副学長(財務・施設・医療担当) Vice President (Financial, Facilities and Hospital Management)	親川兼勇 OYAKAWA Kenyu
副学長(総務担当) Vice President (General Affairs)	井手孝行 IDE Takayuki

法文学部長 Dean, Faculty of Law and Letters	上里賢一 UEZATO Kenichi
法文学部教授 Professor, Faculty of Law and Letters	大城郁寛 OSHIRO Ikuhiro
観光産業科学部長 Dean, Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management	平敷徹男 HESHIKI Tetsuo
教育学部長 Dean, Faculty of Education	中村透 NAKAMURA Toru
教育学部教授 Professor, Faculty of Education	立石庸一 TATEISHI Yoichi
理学部長 Dean, Faculty of Science	土屋誠 TSUCHIYA Makoto
理学部教授 Professor, Faculty of Science	山里眞 YAMAZATO Makoto
医学部長 Dean, Faculty of Medicine	佐藤良也 SATO Yoshiya
医学部教授 Professor, Faculty of Medicine	石田肇 ISHIDA Hajime
工学部長 Dean, Faculty of Engineering	山川哲雄 YAMAKAWA Tetsuo
工学部教授 Professor, Faculty of Engineering	金子英治 KANEKO Eiji
農学部長 Dean, Faculty of Agriculture	仲地宗俊 NAKACHI Soushun
農学部教授 Professor, Faculty of Agriculture	川本康博 KAWAMOTO Yasuhiro
観光科学研究科長 Dean, Graduate School of Tourism Sciences	平良一彦 TAIRA Kazuhiko
保健学研究科長 Dean, Graduate School of Health Sciences	外間登美子 HOKAMA Tomiko
法務研究科長 Dean, Graduate School of Law	高良鉄美 TAKARA Tetsumi
附属図書館長 Director, University Library	成富研二 NARITOMI Kenji
医学部附属病院長 Director, University Hospital	須加原一博 SUGAHARA Kazuhiro
大学教育センター長 Director, University Education Center	津波高志 TSUHA Takashi
大学教育センター副センター長(共通教育企画担当) Vice Director, University Education Center	浜崎盛康 HAMASAKI Moriyasu
熱帯生物圏研究センター長 Director, Tropical Biosphere Research Center	屋宏典 OKU Hirotsuke
就職センター長 Director, Placement Center	島袋恒男 SHIMABUKURO Tsunao

### University Head Office

#### 大学本部

総務部長 Director, General Affairs Division	沼口邦明 NUMAGUCHI Kuniaki
総務課長 Head, General Affairs Section	貴志徹 KISHI Toru
人事課長 Head, Personnel Section	伊藤元業 ITO Motonari
企画課長 Head, Planning Section	比嘉敏宏 HIGA Toshihiro
財務部長 Director, Financial Affairs Division	福治友英 FUKUJI Yuei
財務企画課長 Head, Financial Planning Section	比江島孝司 HIESHIMA Koji
資金管理課長 Head, Fund Management Section	比嘉正幸 HIGA Masayuki
契約課長 Head, Contract Section	上白石豊 KAMISHIRAIISHI Yutaka
学生部長 Director, Student Affairs Division	駿河瑞穂 SURUGA Mizuho
学生課長 Head, Student Section	荻野正之 OGINO Masayuki

教務課長 Head, Academic Section	那須純次 NASU Junji
入試課長 Head, Entrance Examination Section	小田正俊 ODA Masatoshi
就職課長 Head, Placement Section	福永司 FUKUNAGA Tsukasa
学術国際部長 Director, Science and International Affairs Division	小林清一 KOBAYASHI Seiichi
研究協力課長 Head, Research Cooperation Section	川満信男 KAWAMITSU Nobuo
地域連携推進課長 Head, Community Relations Section	大濱善秀 OHAMA Yoshihide
国際課長 Head, International Affairs Section	弓削純一 YUGE Junichi
施設運営部長 Director, Facilities Division	佐々木力 SASAKI Tsutomu
施設企画課長 Head, Facilities Planning Section	佐藤治行 SATO Haruyuki
計画整備課長 Head, Facilities Design and Building Engineering Section	瀬戸口俊幸 SETOGUCHI Toshiyuki
環境整備課長 Head, Building Services and Energy Infrastructure Section	江藤和久 ETO Kazuhisa

### Faculties, Graduate School

#### 学部・大学院

法文学部長・人文社会科学研究科長 Dean, Faculty of Law and Letters, Dean, Graduate School of Humanities and Social Sciences	上里賢一 UEZATO Kenichi
法務研究科長 Dean, Graduate School of Law	高良鉄美 TAKARA Tetsumi
観光産業科学部長 Dean, Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management	平敷徹男 HESHIKI Tetsuo
観光科学研究科長 Dean, Graduate School of Tourism Sciences	平良一彦 TAIRA Kazuhiko
法文学部・観光産業科学部事務長 Chief, Administration Division of Faculty of Law and Letters, Administration Division of Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management	小橋川正行 KOBASHIGAWA Masayuki
教育学部長・教育学研究科長 Dean, Faculty of Education/Dean, Graduate School of Education	中村透 NAKAMURA Toru
教育学部事務長 Chief, Administration Division of Faculty of Education	狩俣昇男 KARIMATA Norio
理学部長・理工学研究科長 Dean, Faculty of Science, Dean, Graduate School of Engineering and Science	土屋誠 TSUCHIYA Makoto
理学部事務長 Chief, Administration Division of Faculty of Science	真栄城潔 MAESHIRO Kiyoshi
医学部長・医学研究科長 Dean, Faculty of Medicine/Dean, Graduate School of Medicine	佐藤良也 SATO Yoshiya
保健学研究科長 Dean, Graduate School of Health Sciences	外間登美子 HOKAMA Tomiko
医学部附属病院事務部長 Director, Administration Division of University Hospital	平良勉 TAIRA Tsutomu
医学部附属病院総務課長 Head, General Affairs Section	濱野満夫 HAMANO Mitsuo
医学部附属病院経営企画課長 Head, Management Planning Section	崎山用順 SAKIYAMA Yojun
医学部附属病院経営管理課長 Head, Management Accounting Section	伊禮静雄 IREI Shizuo
医学部附属病院医療支援課長 Head, Medical Support Section	上原葉子 UEHARA Yoko
医学部事務長 Chief, Administration Division of Faculty of Medicine	宮里昇二 MIYAZATO Shoji
工学部長 Dean, Faculty of Engineering	山川哲雄 YAMAKAWA Tetsuo
工学部事務長 Chief, Administration Division of Faculty of Engineering	砂川博信 SUNAGAWA Hironobu
農学部長・農学研究科長 Dean, Faculty of Agriculture, Dean, Graduate School of Agriculture	仲地宗俊 NAKACHI Soushun
農学部事務長 Chief, Administration Division of Faculty of Agriculture	國場衛 KOKUBA Mamoru

University Library

附属図書館

附属図書館長 Director, University Library	成 富 研 二 NARITOMI Kenji
医学部分館長 Director, Medical Library	青 木 陽 一 AOKI Yoichi
事務部長 Director, Administration Division	金 城 孝 夫 KINJO Takao
情報管理課長 Head, Information Management Section	古 賀 幸 成 KOGA Yukinari
情報サービス課長 Head, Information Service Section	舟 本 幸 福 FUNAMOTO Kofuku

Health Administration Center

保健管理センター

保健管理センター所長 Director, Health Administration Center	近 藤 毅 KONDO Tsuyoshi
--	-------------------------

Attached School・Attached Institutes for Education and Research

附属学校・附属教育研究施設

教育学部附属小学校長 Principal, Elementary School	小田切 忠 人 KOTAGIRI Tadata
教育学部附属中学校長 Principal, Junior High School	大 城 賢 OSHIRO Ken
教育学部附属教育実践総合センター長 Director, Center for Educational Research and Development	真栄城 勉 MAESHIRO Tsutomu
教育学部附属発達支援教育実践センター長 Director, Development Support Educational Practice Center	奥 田 実 OKUDA Minoru
医学部附属病院長 Director, University Hospital	須加原 一 博 SUGAHARA Kazuhiro
附属実験実習機器センター長 Director, Research Laboratory Center	酒 井 哲 郎 SAKAI Tetsuro
医学部附属動物実験施設長 Director, The Institute for Animal Experiments	高 山 千 利 TAKAYAMA Chitoshi
工学部附属工作工場長 Director, Manufacturing Laboratory	福 本 功 FUKUMOTO Isao
農学部附属亜熱帯フィールド科学 教育研究センター長 Director, Subtropical Field Science Center	新 里 孝 和 SHINZATO Takakazu
農学部附属亜熱帯フィールド科学 教育研究センター次長 Vice Director, Subtropical Field Science Center	米 盛 重 保 YONEMORI Shigeyasu

Institutes for Education and Research

共同教育研究施設等

熱帯生物圏研究センター長 Director, Tropical Biosphere Research Center	屋 宏 典 OKU Hirotsuke
産学官連携推進機構長 Director, Integrated Innovation Center for Community	宜 保 清 一 GIBO Seichi
機器分析支援センター長 Director, Instrumental Research Center	多和田 眞 吉 TAWATA Shinkichi
生涯学習教育研究センター長 Director, Education and Research Center for Lifelong Learning	井 上 講 四 INOUE Kohshi
総合情報処理センター長 Director, Computing and Networking Center	和 田 知 久 WADA Tomohisa
留学生センター長 Director, International Student Center	鈴 木 規 之 SUZUKI Noriyuki
外国語センター長 Director, Foreign Language Center	宮 平 勝 行 MIYAHIRA Katsuyuki
資料館(風樹館)長 Director, Academic Museum (Fujukan)	辻 瑞 樹 TSUJI Mizuki
極低温センター長 Director, Low Temperature Center	二 木 治 雄 NIKI Haruo
大学教育センター長 Director, University Education Center	津 波 高 志 TSUHA Takashi
大学評価センター長 Director, University Evaluation Center	石 原 昌 英 ISHIHARA Masahide
就職センター長 Director, Placement Center	島 袋 恒 男 SHIMABUKURO Tsuneno

島嶼防災研究センター長 Director, Disaster Prevention Research Center for Island Regions	仲 座 栄 三 NAKAZA Eizo
---	------------------------

国際沖縄研究所長 Director, International Institute for Okinawan Studies	山 里 勝 己 YAMAZATO Katsunori
--	-------------------------------

Inter-Departmental Office・Transdisciplinary

学内設置本部・室・機構

研究推進戦略室長 Director, Strategic Research Promotion Unit	山 崎 秀 雄 YAMASAKI Hideo
---	---------------------------

亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長 Director, Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies	山 崎 秀 雄 YAMASAKI Hideo
---	---------------------------

アドミッション・オフィス室長 Director, Admission Office	中 村 肖 三 NAKAMURA Shozo
--	---------------------------

University of the Ryukyus Foundation

琉球大学後援財団

理事長 Chairman	松 本 行 雄 MATSUMOTO Yukio
-----------------	----------------------------

理 事 Director	小 禄 邦 男 OROKU Kunio
-----------------	------------------------

理 事 Director	安 里 昌 利 ASATO Masatoshi
-----------------	----------------------------

理 事 Director	大 城 勇 夫 OSHIRO Isao
-----------------	------------------------

理 事 Director	佐久眞 章 SAKUMA Akira
-----------------	-----------------------

理 事 Director	太 田 守 明 OTA Moriaki
-----------------	------------------------

理 事 Director	呉 屋 守 将 GOYA Morimasa
-----------------	--------------------------

理 事 Director	嘉手納 成 達 KADENA Seitatsu
-----------------	----------------------------

理 事 Director	宮 城 信 雄 MIYAGI Shinyu
-----------------	--------------------------

理 事 Director	岩 政 輝 男 IWAMASA Teruo
-----------------	--------------------------

理 事 Director	宮 城 隼 夫 MIYAGI Hayao
-----------------	-------------------------

理 事 Director	新 垣 隆 二 ARAKAKI Ryuji
-----------------	--------------------------

監 事 Auditor	高 嶺 善 包 TAKAMINE Zenpo
----------------	---------------------------

監 事 Auditor	幸 地 啓 子 KOUCHI Keiko
----------------	-------------------------

University of the Ryukyus Alumni Association

琉球大学同窓会

会 長 Chairman	赤 嶺 健 治 AKAMINE Kenji
-----------------	--------------------------

副会長 Vice Deputy Chairman	玉 城 忠 忠 TAMAKI Tadashi
-----------------------------	---------------------------

副会長 Vice Deputy Chairman	與 儀 憲 徳 YOGI Kentoku
-----------------------------	-------------------------

副会長 Vice Deputy Chairman	幸 喜 徳 子 KOKI Noriko
-----------------------------	------------------------

副会長 Vice Deputy Chairman	福 里 重 盛 FUKUZATO Shigemori
-----------------------------	-------------------------------

副会長 Vice Deputy Chairman	当 山 尚 幸 TOYAMA Naoyuki
-----------------------------	---------------------------

事務局長 Secretary-General	宮 城 武 久 MIYAGI Takehisa
---------------------------	----------------------------

Current and Former Presidents

歴代学長

初代 志喜屋 孝信 Shikiya Koushin  
昭和25年11月4日～昭和27年6月30日  
November 4 1950～June 30 1952

2代 胡屋 朝賞 Goya Chosho  
昭和27年7月1日～昭和30年6月30日  
July 1 1952～June 30 1955

3代 安里 源秀 Asato Genshu  
昭和30年7月1日～昭和36年6月30日  
July 1 1955～June 30 1961

4代 与那嶺 松助 Yonamine Matsusuke  
昭和36年7月1日～昭和39年6月30日  
July 1 1961～June 30 1964

5代 島袋 俊一 Shimabukuro Shunichi  
昭和39年7月1日～昭和40年9月17日  
July 1 1964～September 17 1965

6代 安里 源秀 Asato Genshu  
昭和40年10月1日～昭和42年6月30日  
October 1 1965～June 30 1967

7代 池原 貞雄 Ikehara Sadao  
昭和42年7月1日～昭和45年6月30日  
July 1 1967～June 30 1970

8代 高良 鉄夫 Takara Tetsuo  
昭和45年7月1日～昭和48年6月30日  
July 1 1970～June 30 1973

9代 金城 秀三 Kinjo Hidezo  
昭和48年7月1日～昭和53年5月31日  
July 1 1973～May 31 1978

10代 宮城 健 Miyagi Ken  
昭和53年6月1日～昭和59年5月31日  
June 1 1978～May 31 1984

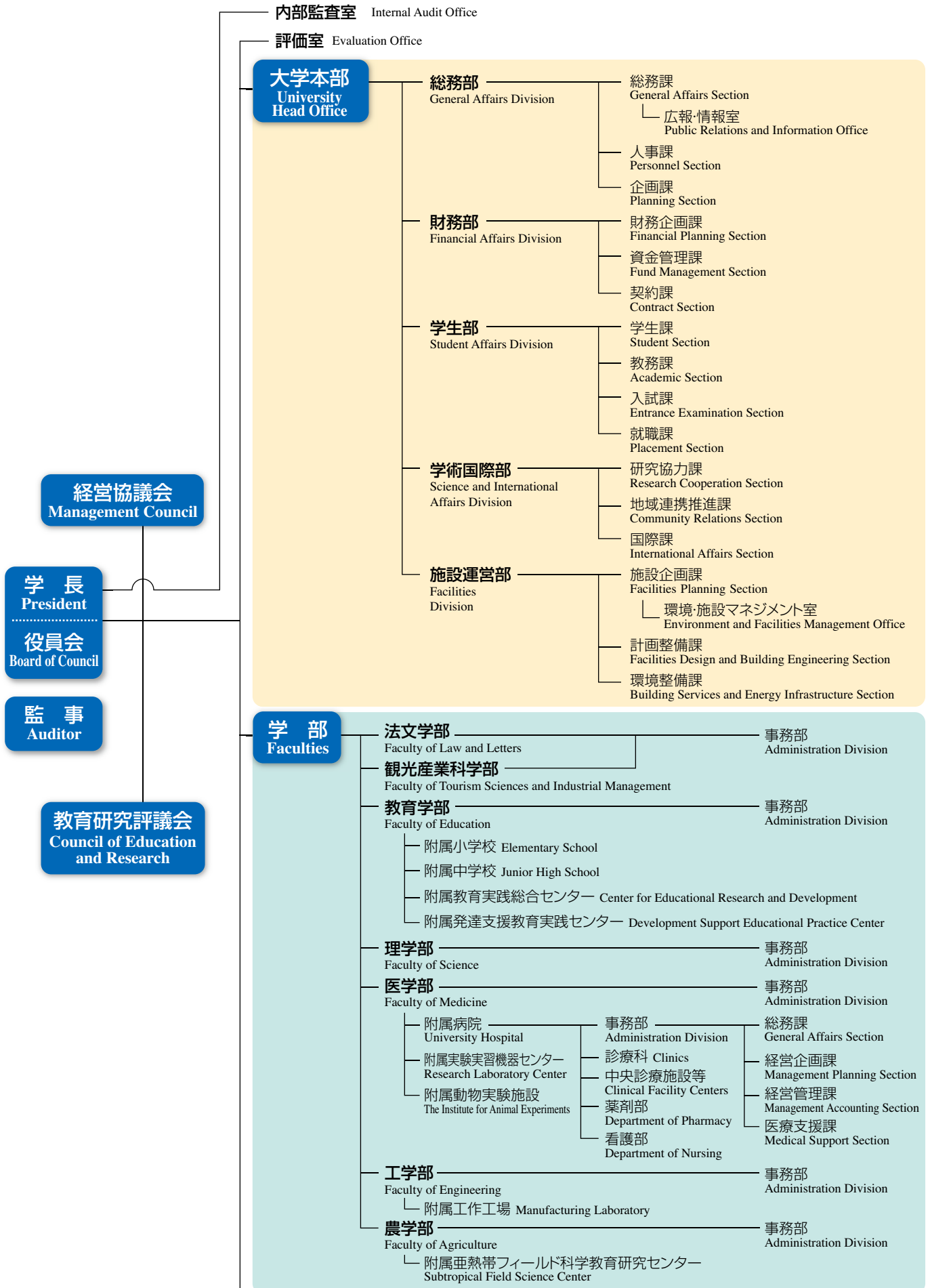
11代 東江 康治 Agarie Yasuharu  
昭和59年6月1日～平成2年5月31日  
June 1 1984～May 31 1990

12代 砂川 恵伸 Sunagawa Keishin  
平成2年6月1日～平成3年5月31日  
June 1 1990～May 31 1996

13代 桂 幸昭 Katsura Kosho  
平成3年6月1日～平成11年5月31日  
June 1 1996～May 31 1999

14代 森田 孟進 Morita Moshin  
平成11年6月1日～平成19年5月31日  
June 1 1999～May 31 2007

15代 岩政 輝男 IWAMASA Teruo  
平成19年6月1日～  
June 1 2007～



**大学院**  
Graduate School

人文社会科学研究科 Graduate School of Humanities and Social Sciences	法文学部・観光産業科学部事務部 Administration Division of Faculty of Law and Letters・ Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management
観光科学研究科 Graduate School of Tourism Sciences	法文学部・観光産業科学部事務部 Administration Division of Faculty of Law and Letters・ Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management
教育学研究科 Graduate School of Education	教育学部 事務部 Administration Division of Faculty of Education
医学研究科 Graduate School of Medicine	医学部 事務部 Administration Division of Faculty of Medicine
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	理学部 事務部 Administration Division of Faculty of Science
理工学研究科 Graduate School of Engineering and Science	工学部 事務部 Administration Division of Faculty of Engineering
農学研究科 Graduate School of Agriculture	農学部 事務部 Administration Division of Faculty of Agriculture
法務研究科 Graduate School of Law	法文学部・観光産業科学部事務部 Administration Division of Faculty of Law and Letters・ Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management
鹿児島大学大学院連合農学研究科(独立研究科) The United Graduate School of Agricultural Sciences, KAGOSHIMA UNIVERSITY	農学部 事務部 Administration Division of Faculty of Agriculture

**専攻科**  
Special Programs

特別支援教育特別専攻科(知的障害教育専攻) Special Support Education Programs	教育学部 事務部 Administration Division of Faculty of Education
---	---

附属図書館  
University Library

事務部  
Administration Division  
医学部分館  
Medical Library

情報管理課  
Information Management Section  
情報サービス課  
Information Service Section

保健管理センター(学生部)  
Health Administration Center

**全国共同利用施設**  
Joint-Use Inter-University Institutes

熱帯生物圏研究センター Tropical Biosphere Research Center (学術国際部)

**学内共同教育研究施設**  
Inter-Departmental Institutes for  
Education and Research

- 産学官連携推進機構 Integrated Innovation Center for Community (IICC) (学術国際部)
- 機器分析支援センター Instrumental Research Center (学術国際部)
- 生涯学習教育研究センター Education and Research Center for Lifelong Learning (学術国際部)
- 総合情報処理センター Computing and Networking Center (総務部)
- 留学生センター International Student Center (学術国際部)

**学内共同利用施設等**  
Joint-Use Inter  
Departmental Institutes

- 外国語センター Foreign Language Center (学生部)
- 資料館(風樹館) Academic Museum (Fujukan) (農学部)
- 極低温センター Low Temperature Center (学術国際部)
- 大学教育センター University Education Center (学生部)
- 大学評価センター University Evaluation Center (評価室)
- 就職センター Placement Center (学生部)
- 島嶼防災研究センター Disaster Prevention Research Center for Island Regions (学術国際部)
- 国際沖縄研究所 International Institute for Okinawan Studies (学術国際部)

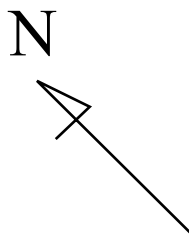
- 研究推進戦略室(学術国際部)  
Strategic Research Promotion Unit (SRPU)
- 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構(学術国際部)  
Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies (TRO-SIS)
- アドミッション・オフィス(学生部)  
Admission Office

# キャンパスマップ

## Campus Map



医学部



① 大学本部  
University Head Office

② 附属図書館  
University Library

### 学部 Faculties

③ 法文学部  
Faculty of Law and Letters

観光産業科学部  
Faculty of Tourism and Industrial Management

④ 教育学部  
Faculty of Education

⑤ 理学部  
Faculty of Science

⑥ 医学部  
Faculty of Medicine

⑦ 工学部  
Faculty of Engineering

⑧ 農学部  
Faculty of Agriculture

### 附属施設 Affiliated Institutes

⑨ 文系総合研究棟  
Arts and General Research Center

⑩ 附属小学校  
Elementary School

⑪ 附属中学校  
Junior High School

⑫ 教育実践総合センター  
Center for Educational Research and Development

⑬ 理系複合棟  
Science Collaboration Center

熱帯生物圏研究センター  
Tropical Biosphere Research Center

機器分析支援センター  
Instrumental Research Center

⑭ 分子生命科学研究施設  
Center of Molecular Biosciences(COMB)

⑮ 附属病院  
University Hospital

⑯ 亜熱帯フィールド科学教育研究センター  
Subtropical Field Science Center

⑰ 畜産施設  
Livestock Farming Facility

⑱ 園芸用ガラス室  
Greenhouse

⑲ 圃場  
Farm

### 学内共同教育研究施設

Inter-departmental Institutes for Education and Research

⑳ 産学官連携推進機構  
Integrated Innovation Center for Community(IICC)

㉑ 総合情報処理センター  
Computing and Networking Center

㉒ 地域国際学習センター  
Regional and International Study Center

留学生センター  
International Student Center

生涯学習教育研究センター  
Education and Research Center for Lifelong Learning

放送大学  
The Open University of Japan



大学本部



球陽橋





千原池



文系総合研究棟



プロムナード

### 学内共同利用施設等 Joint-Use Facilities

- 23 風樹館  
Academic Museum (Fujukan)
- 24 極低温センター  
Low Temperature Center
- 25 大学教育センター  
University Education Center
- 就職センター  
Placement Center
- 26 共通教育棟  
General Education Center

### その他の施設 Other Facilities

- 27 大学会館  
University Hall
- 28 国際交流会館  
International House
- 29 研究者交流施設・50周年記念館  
Researcher Exchange Facility・50th Anniversary Memorial Hall
- 30 保健管理センター  
Health Administration Center
- 31 中央食堂・売店  
Central Cafeteria & Store
- 32 北食堂  
Northern Cafeteria
- 33 かしゅまる会館  
Gajumaru Hall

### スポーツ施設 Sports Facilities

- 34 第一体育館  
Main Gymnasium
- 35 第二体育館  
Secondary Gymnasium
- 36 野球場  
Baseball Field
- 37 サッカー、ラグビー場  
Soccer and Rugby Pitch
- 38 テニスコート  
Tennis Courts
- 39 プール  
Swimming Pool
- 40 合宿研修施設  
Camp Training Facility
- 41 弓道場  
Japanese Archery Dojo
- 42 400mトラック  
400 meter Track

### 学生利用施設 Student Facilities

- 43 千原寮  
Senbaru Dormitory
- 44 課外活動共用施設  
Extracurricular Activity Facilities

## 法文学部 Faculty of Law and Letters

学科 Departments	入学定員 Admission Capacity	第3年次編入学定員 Capacity of 3rd-year transfers	講座・分野 Areas of Study	学士 Bachelor's Degree
<b>総合社会システム学科</b> Comprehensive Social Systems Studies 昼間主コース Daytime Courses 夜間主コース Evening Courses	170人 30人	12人 8人	法学、数量経済分析、比較経済分析、システム管理、比較経営情報、政策科学、国際関係論 Law Course, Quantitative Economic Analysis, Comparative Economic Analysis, Policy Science, International Relations	法学、経済学、政治・国際関係 Arts (Law) Arts (Economics) Arts (Policy Science and International Relations)
<b>人間科学科</b> Human Sciences	95人	3人	人間行動、社会学、地域科学 Human Behavior, Sociology, Geography and Anthropology	人文社会 Arts (Human Science)
<b>国際言語文化学科</b> Languages and Cultures 昼間主コース Daytime Courses 夜間主コース Evening Courses	80人 30人	3人 4人	琉球アジア文化、英語文化、ヨーロッパ文化 Ryukyu and Asian Studies, English Language and Culture, European Culture and Literature	人文学 Arts (Ryukyu and Asian Studies) Arts (English Language and Literature Studies) Arts (European Studies)

## 観光産業科学部 Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management

学科 Departments	入学定員 Admission Capacity	第3年次編入学定員 Capacity of 3rd-year transfers	講座・分野 Areas of Study	学士 Bachelor
<b>観光科学科</b> Tourism Sciences	60人	—	ツーリズム・ビジネス、ツーリズム・ディベロップメント、ツーリズム&ヘルスサイエンス、ツーリズム・リソース・マネジメント Tourism Business, Tourism Development, Tourism & Health Science, Tourism Resource Management	観光学 Tourism
<b>産業経営学科</b> Industrial Management 昼間主コース Daytime Courses 夜間主コース Evening Courses	60人 20人	— 4人	経営学、マーケティング、会計学 Business Administration, Marketing, Accounting	経営学 Business Administration

## 教育学部 Faculty of Education

課程 Course	入学定員 Admission Capacity	講座 Areas of Study	学士 Bachelor
<b>学校教育教員養成課程</b> Elementary and Secondary School Teacher Training Program	100人	国語教育、日本語教育学、日本語学、社会科教育、数学教育、理科教育、基礎情報科学、教育情報科学、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育、学校教育、障害児教育、生涯健康基礎学、生涯スポーツ学、健康栄養学 Japanese, Japanese Language Teaching, Japanese Linguistics, Social Sciences, Mathematics, Natural Sciences, Foundation of Computer Science, Educational Information Processing, Music, Arts and Crafts, Health and Physical Education, Technology Education, Home Economics, English Education, School Psychology, Special Education, Foundations of Health Promotion, Sports and Culture, Food and Nutritional Science.	教育学 Education
<b>生涯教育課程</b> Lifelong Education Program	90人		

## 理学部 Faculty of Science

学科 Departments	入学定員 Admission Capacity	講座 Areas of Study	学士 Bachelor
<b>数理科学科</b> Mathematical Sciences	40人	基礎数理学、数理解析学、情報数理学 Algebra and Geometry, Mathematical Analysis, Information Mathematics	理学 Science
<b>物質地球科学科</b> Physics and Earth Sciences 物理系 Physics Program 地学系 Earth Science Program	65人	物質基礎学、物質情報学 Theoretical Physics, Experimental and Computational Physics 海洋地圏科学、海洋水圏科学 Geology, Marine Geology, Meteorology, Oceanography, Sedimentology	
<b>海洋自然科学科</b> Chemistry, Biology and Marine Sciences 化学系 Chemistry Program 生物系 Biology Program	95人	分子機能化学、解析化学、海洋化学 Physical and Organic Chemistry, Analytical and Inorganic Chemistry, Marine Chemistry 進化・生態学、熱帯生命機能学、海洋生物生産学 Ecology and Systematics, Cell and Functional Biology, Marine Biology	

## 医学部 Faculty of Medicine

学科 School	入学定員 Admission Capacity	第3年次編入学定員 Capacity of 3rd-year transfers	講座 Areas of Study	学士 Degree(Bachelor)	
医学科 Medicine	102人	5人 5人(2年次)	形態機能医科学講座 Department of Physiological Sciences	解剖学、生理学、生化学 Anatomy I . II , Physiology I . II , Biochemistry	医学 Medicine
			地域環境医科学講座 Department of Social and Environmental Medicine	熱帯寄生虫学、衛生学・公衆衛生学、法医学、免疫学、医科遺伝学 Tropical Parasitology, Public Health and Hygiene, Legal Medicine, Immunology, Medical Genetics	
			病態解析医科学講座 Department of Investigative Medicine	腫瘍病理学、細胞病理学、循環系総合内科学、育成医学、放射線医学、臨床検査医学 Tumor Pathology, Pathology and Cell Biology, Cardiovascular Medicine-Nephrology and Neurology, Child Health and Welfare, Radiology, Laboratory Medicine	
			生体制御医科学講座 Department of Bioregulatory Medicine	薬理学、機能制御外科学、麻酔科学、救急医学 Pharmacology, Thoracic and Cardiovascular Surgery, Anesthesiology, Emergency Medicine	
			器官病態医科学講座 Department of Organ-Oriented Medicine	内分泌代謝内科学、皮膚科学、病態消化器外科学、女性生殖医学、泌尿器科学 Endocrinology and Metabolism, Dermatology, Digestive and General Surgery, Medical Science of Women and Reproduction, Urology	
高次機能医科学講座 Department of Clinical Neuroscience	精神病態医学、脳神経外科学、整形外科学、視覚機能制御学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、顎顔面口腔機能再建学 Neuropsychiatry, Neurosurgery, Orthopedic Surgery, Visual Function and Science, Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation				
保健学科 Health Sciences	60人	—	基礎看護学、成人・老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学 Fundamental Nursing, Adult and Gerontological Nursing, Maternal and Child Nursing, Community Health Nursing, Basic Laboratory Sciences, Clinical Laboratory Sciences	保健学 Health Sciences	

## 工学部 Faculty of Engineering

学科 Departments	入学定員 Admission Capacity	第3年次編入学定員 Capacity of 3rd-year transfers	講座 Areas of Study	学士 Bachelor
機械システム工学科 Mechanical Systems Engineering	90人 20人	5人 —	材料システム工学、熱流体工学、数理機械工学 Engineering Materials, Design and Processing, Thermal and Fluid Engineering, Mechanics and Systems Control	工学 Engineering
環境建設工学科 Civil Engineering and Architecture	45人 45人	2人 2人	環境計画学、設計工学、環境防災工学 Environmental Planning and Design, Structural Design, Environmental Disaster Prevention	
電気電子工学科 Electrical and Electronics Engineering	80人 10人	5人 —	電磁エネルギー工学、電子物性工学、電子システム工学 Electromagnetic Energy Engineering, Electronics and Electronic Materials, Electronic Systems Engineering	
情報工学科 Information Engineering	60人	6人	システム情報工学、知能情報工学 Computer Systems, Intelligent Information Systems	
昼間主コース Daytime Courses 夜間主コース Evening Courses				

## 農学部 Faculty of Agriculture

学科 Departments	入学定員 Admission Capacity	第3年次編入学定員 Capacity of 3rd-year transfers	教育コース Course of Study	学士 Bachelor
亜熱帯地域農学科 Subtropical Agro-Production Sciences	35人	—	農林経済学、植物開発学、循環畜産学、農林共生学 Agricultural and Forest Economics, Plant Breeding Science, Sustainable Animal Production Science, Human and Agricultural Symbiotic Science	農学 Agriculture
亜熱帯農林環境科学科 Subtropical Agro-Environmental Sciences	35人	—	植物機能学、動物機能学、森林環境学、生態環境科学 Plant Functions Science, Animal Functions Science, Forest Science, Ecology and Environmental Science	
地域農業工学科 Regional Agricultural Engineering	25人	—	バイオシステム工学、地域環境工学 Biosystems Engineering, Rural Environmental Engineering	
亜熱帯生物資源科学科 Subtropical Biochemistry and Biotechnology	35人	5人	生物機能開発学、食品機能科学、発酵・生命科学 Biotechnology, Food Science and Nutrition, Fermentation and Life Science	

## 人文社会科学研究科 (博士前期課程) (博士後期課程)

Graduate School of Humanities and Social Sciences (Master's Program) (Doctoral Program)

### 博士前期課程 Master's Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
総合社会システム Comprehensive Social Systems Studies	17人	実務法学、経済システム、経営管理政策科学 Practical Jurisprudence, Economic Systems, Business Administration, Policy Science	修士 (法学、政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、心理学、文学、歴史学、地理学、哲学言語科学、学術) Law, Political Science, Economics Administration Business Sociology, Education, Psychology Arts, History, Geography, Arts, (Philosophy), Linguistics and Communication
人間科学 Human Sciences	16人	人間行動、人間社会、人間文化、島嶼研究 Human Behavior, Human Society, Human Culture, Island Studies	
国際言語文化 Languages and Cultures	12人	琉球アジア文化、欧米文化、言語コミュニケーション Ryukyuan-Asian Studies, Euro-American Studies, Language and Communication Studies	

### 博士後期課程 Doctoral Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
比較地域文化 Comparative Culture and Area Studies	4人	—	博士(学術) Doctor of Philosophy

## 観光科学研究科 (修士課程)

Graduate School of Tourism Sciences (Master's Program)

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
観光科学 Tourism Sciences	6人	観光科学 Tourism Sciences	修士(観光学) Master of Tourism

## 教育学研究科 (修士課程)

Graduate School of Education (Master's Program)

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
学校教育 Studies in School Education	5人	学校教育 School Education	修士(教育学) Master of Education
特別支援教育 Studies in Special Support Education	3人	特別支援教育 Special Support Education	
臨床心理学 Clinical Psychology	3人	臨床心理学 Clinical Psychology	
教科教育 Studies in Subject Education	24人	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育 Japanese, Social Science, Mathematics, Science, Music, Arts and Crafts, Health and Physical Education, Technology Education, Home Economics, English	

## 医学研究科 (修士課程) (博士課程)

Graduate School of Medicine (Master's Program) (Doctoral Program)

Medical Science Division

### 修士課程 Master's Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
医科学 Graduate School of Medical Science	15人 Master's Course		修士(医科学) Master in Medical Science

### 博士課程 Doctoral Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
医科学 Graduate School of Medicine	25人 Doctoral Course	先進情報医科学領域、機能再生医科学領域、環境長寿医科学領域 Advanced and Integrated Bioinformatics Medicine, Functional and Regenerative Bioscience, General and Socio-environmental Bioscience	博士(医学) Doctor of Philosophy in Medicine
感染制御医科学(独立専攻) Graduate School of Medicine for Infection Control	13人 Doctoral Course	感染分子生物学講座(病原生物学、病原細菌学、生体防御学) 分子感染制御学講座(細胞生物学、生命統御医科学、感染免疫制御学) 感染病態制御学講座(分子病態感染症学、臨床薬理学) Department of Microbiology (Molecular Virology and Oncology, Bacterial Pathogenesis, Host Defense and Vaccinology) Department of Molecular and Cellular Biology (Cell Biology, Human Molecular Biology, Infection Immunobiology) Department of Infection and Therapeutics (Control and Prevention of Infectious Diseases, Clinical Pharmacology and Therapeutics)	

### Medical Science for Infection Control Division

# 保健学研究科 (博士前期課程) (博士後期課程)

Graduate School of Health Sciences (Master's Program) (Doctoral Program)

## 博士前期課程 Master's Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
保健学 Health Sciences	修士 10人 Master's Course	人間健康開発学、国際島嶼保健学 Human Health Promotion, International & Islands Health Sciences	修士(保健学) Master of Health Science

## 博士後期課程 Doctoral Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
保健学 Health Sciences	博士 3人 Doctoral Course	人間健康開発学、国際島嶼保健学 Human Health Promotion, International & Islands Health Sciences	博士(保健学) Doctor of Health Science

# 理工学研究科 (博士前期課程) (博士後期課程)

Graduate School of Engineering and Science (Master's Program) (Doctoral Program)

## 博士前期課程 Master's Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
機械システム工学 Mechanical Systems Engineering	22人	材料科学、材料強度工学、設計システム工学、加工システム工学、機械システム動力学 Materials Science, Strength of Materials, Engineering Design Systems, Processing Systems, Mechanical Systems Dynamics 熱工学、流体力学、熱移動工学、流体機械学、エネルギーシステム工学 Thermal Engineering, Fluid Mechanics, Heat Transfer, Fluid Machinery, Energy Systems Engineering 計測工学、制御工学、機械基礎工学、高エネルギー加工学 Measurement Systems, Control Engineering, Fundamentals of Mechanical Engineering, High Energy Manufacturing Processes	
環境建設工学 Civil Engineering and Architecture	18人	土木計画、防災計画、都市・地域施設計画、地域環境工学、建築計画学、建築環境・設備工学 Planning of Civil Engineering, Disaster Prevention Planning, Urban and Regional Infrastructure Planning, Regional Environmental Engineering, Architectural Planning and History, Architectural Environmental Engineering and Building System Design 構造解析学、構造工学、コンクリート工学、構造設計システム、耐震設計工学 Structural Analysis, Structural Engineering, Concrete Engineering, Structural System Design, Seismic Design 土質工学、基礎構造、耐風・耐震工学、水工学・海洋環境 Soil Mechanics, Foundation Engineering, Wind and Earthquake Engineering, Hydraulic and Ocean Environmental Engineering	
電気電子工学 Electrical and Electronics Engineering	18人	磁気工学、プラズマ工学、電力工学、電力システム工学、パワーエレクトロニクス、電気機器工学 Magnetic Engineering, Plasma Engineering, High Power Engineering, Power System Engineering, Power Electronics, Electrical Machinery Engineering 電子物性工学、電子デバイス工学、VLSIシステム設計、半導体薄膜プロセス工学 Electronic Materials Engineering, Electron Devices Engineering, VLSI system Design, Engineering of Semiconductor Thin-Film Process 計算知能工学、現代制御、光ファイバ伝送工学、フォールトトレランス、信号処理システム、医用電子工学 Computational Intelligence, Modern Control Theory, Optical Fiber Transmission Engineering, Dependable computing Systems, Signal Processing Systems, Medical Electronics	修士(工学) Master of Engineering  修士(理学) Master of Science
情報工学 Information Engineering	12人	計算機システム、信号処理、メディア通信 Computer Systems, Signal Processing, Multimedia Communication 知能情報処理、ロボティクス、知的システム Intelligent Information Processing, Robotics, Intelligent Systems	
数理科学 Mathematical Sciences	12人	整数論、位相幾何学、解析学、確率論、情報数学 Theory of Numbers, Topology, Mathematical Analysis, Theory of Probability, Information Mathematics	
物質地球科学 Physics and Earth Sciences	20人	物質基礎学、凝縮系物理学、固体物理学、情報物理学、島弧岩石学、テクトニクス、海洋地質学、大気海洋物理学、海洋学及び古海洋学 Mathematical Physics, Condensed Matter Physics, Solid State Physics, Polymer Physics, Computational Physics, Subduction zone magmatism, Tectonics, Marine Geology, Oceanography & Paleo-Oceanography	
海洋自然科学 Chemistry, Biology and Marine Sciences	26人	物理化学、有機化学、分析・地球化学、無機化学、海洋天然物化学、海洋環境化学、生態学、分類形態学、細胞・遺伝学、環境生物機能学、水産生物学、サンゴ礁生物学、熱帯生物学 Physical Chemistry, Organic Chemistry, Analytical and Geochemistry, Inorganic Chemistry, Marine Natural Products Chemistry, Marine Ecological Chemistry, Ecology, Taxonomy and Morphology, Cell Biology, Genetics, Functional Biology, Fisheries Biology, Coral Reef Biology, Tropical Biology	

## 博士後期課程 Doctoral Program

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
生産エネルギー工学 Material, Structural and Energy Engineering	4人	材料機能工学、生産設計工学、熱及び流体の移動エネルギー変換、海洋開発、開発情報システム、半導体薄膜素子工学 Intelligent Material, Structural Design and Processing, Thermal and Fluid Transfer Energy Conversion, Ocean Development, Information Development Systems, Engineering Semiconductor thin-film devices	博士(工学) Doctor of Engineering
総合知能工学 Interdisciplinary Intelligent Systems Engineering	3人	居住環境工学、知能情報工学 City Environment Engineering, Intelligent Systems Engineering	博士(理学) Doctor of Science
海洋環境学 Marine and Environmental Sciences	5人	島嶼環境科学、環境物性学、生命環境学、海洋生物学、島嶼生態系機能学、海洋化学、熱帯生物学 Environmental Science of Island Archipelago, Environmental Material Physics, Life Science, Marine Biology, Function of Island Ecosystem, Marine Chemistry, Tropical Biology	博士(学術) Doctor of Philosophy

## 外国人留学生特別プログラム (博士前期課程・後期課程)

Special Graduate Programs for International Students (Master's and Doctoral Programs)

【工学系】〈アジア太平洋工学デザインプログラム〉 Engineering Course <Asia-Pacific Engineering Design Program>

博士前期課程 Master's program

学位 Degree

専攻 Courses	機械システム工学、環境建設工学、電気電子工学、情報工学 Mechanical Systems Engineering, Civil Engineering and Architecture, Electrical and Electronics Engineering, Information Engineering	修士(工学) Master (Engineering)
---------------	--	--------------------------------

博士後期課程 Doctoral Program

専攻 Courses	生産エネルギー工学、総合知能工学 Material, Structural and Energy Engineering, Interdisciplinary Intelligent Systems Engineering	博士(工学) 博士(学術) Doctor (Engineering) Ph. D.
---------------	--	--

【理学系】〈亜熱帯海洋科学国際プログラム〉 Science Course <Okinawa International Marine Science Program>

博士前期課程 Master's program

学位 Degree

専攻 Courses	数理学、物質地球科学、海洋自然科学 Mathematical Sciences, Physics and Earth Sciences, Chemistry, Biology and Marine Science	修士(理学) Master (Science)
---------------	---	----------------------------

博士後期課程 Doctoral Program

専攻 Course	海洋環境学 Marine and Environmental Sciences	博士(理学) 博士(学術) Doctor (Science) Ph. D.
--------------	--	--

## 農学研究科 (修士課程)

Graduate School of Agriculture (Master's Program)

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
生物生産学 Bioproduction	16人	熱帯植物生産学、育種学、家畜生産学、生産システム工学、農林経営学 Tropical Crop Science, Plant and Animal Breeding, Animal Science, Bioproduction Systems Engineering, Agricultural and Forest Economics	修士(農学) Master of Agriculture
生産環境学 Environmental Sciences and Technology	12人	生産基盤工学、農地環境管理学、森林生産環境学、亜熱帯動物学 Water Use and Hydraulic Structure Engineering, Soil Science and Land Conservation, Forest Science, Subtropical Zoology	
生物資源科学 Bioscience and Biotechnology	12人	生物機能開発学、応用生物化学、生物資源利用科学 Biotechnology, Applied Biochemistry, Applied Bioresource Science	

## 法務研究科 (専門職学位課程)

Graduate School of Law (Juris Doctoral Program)

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
法務専攻 Legal Education	30人	法曹養成 Legal Education	法務博士(専門職) Juris Doctor

## 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (博士課程)

The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University (Doctoral Program)

専攻 Courses	入学定員 Admission Capacity	教育研究分野 Areas of Study	学位 Degree
生物生産科学 Science of Bioresource Production	7人	熱帯資源・植物生産科学、動物資源生産科学、地域・国際資源経済学 Tropical Bioresource and Plant Resource Production, Animal Resource Production, Regional and Global Resources Economics	博士(農学) Doctor of Agriculture
応用生命科学 Biological Science and Technology	8人	生物機能化学、食品機能科学、先端応用生命科学 Bioscience and Biotechnology, Food Science and Nutrition, Advanced Life Science	
農水圏資源環境科学 Resources and environmental Science of Agriculture, Forestry and Fisheries	8人	生物環境保全科学、地域資源環境工学、水産資源環境科学 Environmental Science and conservation Biology, Regional Resource Environment Engineering, Fisheries Science on Resources and Environments	

## 特別支援教育特別専攻科 (専攻科)

Special Support Education Programs

専攻科 Special Programs	入学定員 Admission Capacity	専攻 Programs
特別支援教育特別専攻科 Special Support Education Programs	10人	知的障害教育専攻 Special-Needs Education

# 社会貢献活動 Social Action Activities

## ● 琉球大学における地域貢献活動等の取り組みについて(平成20年度実績)

大学又は学部等の組織単位若しくは大学・学部等の承認の下に、グループ等を結成して能動的に実施した地域貢献活動の実績

事業名	活動主体	連携団体等	対象者/人数	実施期間
◆地域振興・活性化				
沖縄県宜野湾市介護予防事業	琉球大学健康づくり支援プロジェクト(代表 金城昇)	宜野湾市	高齢者全般・全自治会	平成20年4月～21年3月
沖縄県恩納村健康づくり事業	琉球大学健康づくり支援プロジェクト(代表 金城昇)	恩納村	全自治会	平成20年4月～21年3月
沖縄県南城市健康づくり事業	琉球大学健康づくり支援プロジェクト(代表 金城昇)	宜野湾市	高齢者全般・全自治会	平成20年4月～21年3月
全国大学・高専卒業設計展示会	工学部環境建設工学科	日本建築学会九州支部	一般市民	平成20年6月11日～13日
沖縄電設工業展 2008 関係。翌日からの宣伝用として「サンシン演奏ロボットの収録」NHK沖縄放送局	工学部電気電子工学科	沖縄電設工業組合・NHK 沖縄放送局	ハイサイ 610 で放映された	平成20年11月6日
沖縄電設工業展 2008 「サンシン演奏ロボットの展示・演奏」	工学部電気電子工学科	沖縄電設工業組合	約 3 万人	平成20年11月7日～8日
西原町産業祭り「サンシン演奏ロボットの展示・演奏」	工学部電気電子工学科	西原町	西原町民他 多数	平成21年1月31日～2月1日
サンシンに関する講演とサンシン演奏ロボット実演	工学部電気電子工学科	野村流古典音楽保存会、第 2 組踊地謡研修部会	24 名	平成21年2月8日
食・農・環境フォーラム「地産地消を考える」開催	農学部	琉球新報社	一般市民/ 450 人	平成20年10月15日
「植物工場シンポジウム -新しい野菜生産システムとしての沖縄発「ハイブリッド型植物工場」展開の可能性-」	農学部中期計画達成経費植物工場プロジェクト	沖縄農業研究会、NPO 亜熱帯バイオマス利用研究センター	一般市民/ 100 人	平成21年3月21日
「発酵の力 -世界で、亜熱帯で、醸せ!-」シンポジウム	農学部		一般市民/ 180 人	平成21年3月21日
亜熱帯フィールド科学教育研究センター 与那フィールド「ワークショップ」	農学部		一般市民/ 49 人	平成20年 12月 8日
公開講座「特集テーマ：私たちの食生活・食文化と農業」	農学部、生涯学習教育研究センター		一般市民/ 25 人	平成20年 8月16、23、30日
「沖縄地域学リポジトリ」試験公開 ( <a href="http://okinawa-repo.lib.u-ryuky.ac.jp/">http://okinawa-repo.lib.u-ryuky.ac.jp/</a> )	附属図書館	沖縄農業研究会	一般市民	平成21年2月6日～
◆教育・文化				
長崎、鹿児島、琉球三大学連携事業「3大学の連携による離島・僻地校での教科指導力向上のための教育課程の編成-大学教員と小・中学校教員の相互授業訪問を軸として-」	教育学部	長崎大学教育学部、鹿児島大学教育学部、沖縄・長崎・鹿児島3県の県市町村教育委員会	沖縄・長崎・鹿児島3県の小・中学校教職員	平成19・20年度
文部科学省教員養成改革モデル事業による「プラクティススクール(模擬学校)」の実施	教育学部	沖縄県教育委員会等	西原町・宜野湾市の児童・生徒	平成19年7月～平成20年12月
那覇教育研究活動ネットワーク(NARAE ネット)	教育学部	那覇市教育委員会	那覇市教職員	平成17年1月～
教育実践ボランティア事業	教育学部附属教育実践総合センター	沖縄県教育委員会、浦添市・うるま市・沖縄市・宜野湾市・那覇市・西原町・与那原町・南風原町・八重瀬町・中城村教育委員会	浦添市・宜野湾市・那覇市等県内8市町村の28小学校2施設、121学級	平成20年11月～平成21年2月
教育相談	教育学部附属教育実践総合センター		県内の小・中学校の児童・生徒・保護者・教員・学生等 214 名	平成20年4月～平成21年3月
体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究	教育学部附属教育実践総合センター	中城村教育委員会	中城村在幼児	平成18年度～
平成19年度小・中学生の学校や日常生活に関する調査	教育学部附属教育実践総合センター	南部広域行政組合島尻教育研究所	南部広域圏在住児童・生徒	平成18年度～
竹富町教材開発プログラム	教育学部僻地教育プロジェクト	竹富町教育委員会、竹富町立小・中学校	竹富町教員等	平成16年度～
認知行動療法勉強会	教育学部教育カウンセリングコース	沖縄県臨床心理士会	臨床心理士・教員、医師およびそれらを目指す学生/ 毎回 50 名程度	平成20年度は6回実施
公開講座「高校生のためのカウンセラー養成講座」	教育学研究科臨床心理学専攻		高校生/ 40 名	平成20年8月9日
被害者遺族特別講演会	教育学研究科臨床心理学専攻	沖縄県警察本部/被害者支援ゆいセンター	学生・一般市民/ 50 名	平成20年12月19日
自治基本条例研究&市民ワークショップ	沖縄自治研究会	沖縄県、沖縄県市長会、沖縄県町村議会議長会他	一般市民、自治体関係者/ 50 名	平成14年～ 年20回
自治シンポジウム&市民フォーラム	沖縄自治研究会	沖縄県、沖縄県市長会、沖縄県町村議会議長会他	一般市民、自治体関係者/ 200 名	平成14年～ 年数回
公務員の受託研修	自治研究プロジェクト・TLO		中部広域市町村組合	平成18年7月～
免許法認定講習	沖縄県教育委員会		現職教員	平成20年7月24日～8月26日
学校図書館司書講習	文部科学省		教員免許所持者 37 名	平成20年8月19日～8月28日
沖縄でいーだくわんくわん	教育学部音楽科	沖縄音楽教育研究会	小中学校音楽科教諭	平成20年度～

## 社会貢献活動 Social Action Activities

事業名	活動主体	連携団体等	対象者／人数	実施期間
宮古島市特別支援学級訪問指導	教育学部	宮古島市教育委員会	北中学校他 6 校	平成20年度
宮古養護学校 学校支援	教育学部		宮古養護学校職員／90 名	平成20年度
宮古島市教育研究所 教育研修職員支援	教育学部	宮古島市教育委員所 宮古島市教育委員会	教育研修職員／2 名	平成20年度
巡回療育・教育相談会	教育学部	宮古特別支援連携協議会	宮古地域の保護者、学校関係者／のべ24 名	平成20年度
宮古島市保育所研修会	教育学部	宮古島市児童家庭課 宮古特別支援連携協議会	宮古島市の保育士のべ260 名	平成20年度
専門職大学院等教育推進プログラム採択事業 奄美・石垣合同研修会	教育学部	沖縄県・鹿児島県教育委員会	石垣市・奄美市教員 4 0 名	平成20年8月19日
支援を必要とする子どもへの教育・発達相談・臨床支援	教育学部附属発達支援教育実践センター		県内の支援を必要とする子どもとその母親、教員等/ 周辺の9市町村で相談件数73件、446セッション	平成20年4月～21年3月
トータル支援教室における支援を必要とする子どもへの支援	教育学部附属発達支援教育実践センター		県内の支援を必要とする子どもに携わる教員、保育士、臨床心理士、言語聴覚士、医師等延べ295名参加、13回開催	平成20年4月～21年3月
支援を必要とする子どもに関する事例研究会における実践支援	教育学部附属発達支援教育実践センター		県内の支援を必要とする子どもに携わる教員、保育士、臨床心理士、言語聴覚士、医師等延べ295名参加、13回開催	平成20年4月～21年2月
八重山巡回教育・発達相談会における教育・子育て支援	教育学部附属発達支援教育実践センター		八重山教育事務所、石垣市立小・中学校 八重山の発達支援を必要とする子どもとその母親延べ34名	平成20年10月、 平成21年3月
特別支援教育支援員への実践力養成支援事業	教育学部附属発達支援教育実践センター		読谷村教育委員会他県内小・中学校 特別支援教育支援員延べ5.5名参加、1.5回開催	平成20年4月～21年3月
琉球大学附属図書館貴重書展	附属図書館	県内公共図書館	地域住民	平成15年度～
沖縄県大学図書館協議会レファレンス研修会	附属図書館	沖縄県大学図書館協議会	県内大学職員等 36 人	平成20年12月11日
沖縄県SSH運営指導委員会	理学部、教育学部理科	沖縄県教育委員会	開邦高等学校SSH理数探究担当職員	平成16年4月～
高校数学を考える会	理学部数理科学科、教育学部数学	沖縄県高数教	沖縄県の高校数学の教師	平成20年5月15日
開邦高等学校SSH数学科特別講義	理学部数理科学科	沖縄県教育委員会	開邦高等学校SSH理数探究数学分野選択者 40 名	平成20年10月9日
「分かりやすい科学教室」	理学部教員有志、教育学部、 機器分析支援センター	うるま市教育委員会	小学生(約25名)+保護者(数名)	平成20年7月28日～ 8月1日
「公開講座：物理の魅力を教えます」	理学部物質地球科学科物理系		高校生以上の一般／43名参加	平成20年8月24日
科学あそび展	理学部物質地球科学科物理系	沖縄こども未来ゾーン運営財団	小学生(約50名)+保護者	平成21年3月1日
公開講座「わかりやすいみんなの科学教室」	うるま市中央公民館		30 名	平成20年7月28日～8月1日
公開授業	生涯学習教育研究センター	沖縄県、那覇市、その他	一般市民／164 名	平成20年4月～21年3月
西原町民文化講座	西原町	生涯学習教育研究センター	一般市民／約250 名	平成18年度～
沖縄産学官イノベーションフォーラム-2008-	沖縄産学官連携推進協議会等	琉球大学他	企業・一般市民／300 名	平成20年12月3日
沖縄こどもの国キッズエンジニアプロジェクト Vol.2 「ミニ四駆電子工作教室」	工学部電気電子工学科	沖縄こどもの国ワンダーミュージアム	小学生／10 人(外国人2人含む)	平成20年4月27日
「情報社会と情報倫理」宿泊集中講義	工学部情報工学科	(財)モラロジー研究所	72 名	平成20年6月14日～15日
沖縄県立美来工科高等学校との連携事業	工学部情報工学科	沖縄県立美来工科高等学校	情報工学科教員：4名、学生：4名 美来工科高校教諭：5名、生徒：50名	平成20年7月、12月
琉球大学公開講座「電気であそぼ！」	工学部電気電子工学科	生涯学習教育研究センター	小学生／約14 名	平成20年7月26日、 8月2日
ミニ四駆電子工作教室	工学部電気電子工学科	沖縄こどもの国ワンダーミュージアム	小学生／5 人	平成20年8月10日、 8月17日
Java Küche 勉強会	工学部情報工学科	Java Küche コミュニティ	社会人技術者・学生 20 名	平成20年10月25日 平成20年12月20日
琉大・沖縄高専合同FPGA設計講習会	工学部情報工学科	沖縄高等専門学校、沖縄高専、ザイリンクス株式会社、東京エレクトロデバイス株式会社	26 名	平成20年12月6日
ITまつり「ボイスレコーダ製作体験」	工学部電気電子工学科	沖縄県中小企業家同友会 情報関連連部会「eおきなわ」	小中高生／16 人	平成21年1月31日
第31回沖縄青少年科学作品展	情報工学科 玉城研究室・長田研究室	沖縄電力	ブース来訪者数：約300 人	平成21年2月21日～22日
第31回沖縄青少年科学作品展	工学部電気電子工学科	沖縄電力	小中学生／15,000 人	平成21年2月21日～22日
科学教室「不思議がいっぱい科学の世界」	情報工学科 琉球大学総合情報処理センター	電子情報通信学会、電子情報通信学会九州支部、那覇市教育委員会、親子ネット、フロム沖縄推進機構	46 名	平成21年3月7日
LSI デザインコンテスト	工学部情報工学科 LSI デザインコンテスト実行委員会	LSI デザインコンテスト実行委員会 九州工業大学	約70 名	平成21年3月19日
教員免許状更新予備講習	学生部教務課	沖縄県教育委員会等	現職教員等	平成20年4月～11月
大学訪問	大学教育センター	南風原高等学校	32 名 44 名	平成20年9月11日 平成20年11月12日
琉大21世紀フォーラム	学術国際部		一般市民／200 名	平成20年度17回実施
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 体験!アグリサイエンス	農学部	日本学術振興会	高校生／130 人	平成20年7月19日
全国農学系学部長会議	農学部、全国農学系学部長会議	全国農学系学部長会議	全国農学系学部長等／124 名	平成20年10月16日～17日
公開シンポジウム「黄砂および大気汚染物質の越境輸送問題」	日本学術会議農学委員会、農学部		一般市民／80 人	平成21年2月20日



事業名	活動主体	連携団体等	対象者/人数	実施期間
◆地域特有の課題				
琉球大学農学部・沖縄県農林高校と懇談会	農学部	沖縄県高等学校農業教育研究会	高等学校校長/研究会長(北部農林高等学校長) 1人	平成20年10月31日
「やんばる学びの森」自然資源調査(森林調査)	農学部, 観光産業科学部		大学生等/延べ参加者(学生41人, 他19人 計60人)	平成20年4月19-20日, 5月17-18日, 6月21-22日, 7月20-21日, 9月27-28日, 10月25-26日, 11月22-23日
エネルギー教育調査普及事業の地域拠点大学「島嶼県・沖縄県におけるエネルギー及び環境教育に関する実証的研究」	教育学部技術教育専修	経済産業省資源エネルギー庁, 社団法人社会経済生産性本部, エネルギー環境教育情報センター	県内諸学校	平成18年度~20年度
沖縄の土木技術を世界に発信する会第13回シンポジウム	工学部環境建設工学科	沖縄建設弘済会	一般市民	平成20年11月27日
那覇空港2階ウェルカムホールで琉球大学パネル展を実施	琉球大学広報・情報室	那覇空港ビルディング(株)	空港利用者/約6,000人	平成20年12月1月~12月26日
◆地域医療				
沖縄県における口唇口蓋裂一貫治療プログラム	医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野	沖縄ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター	沖縄県の口唇口蓋裂患者約1,400名	平成10年~
救急救命医療における地域ネットワーク構築への参画・連携	医学部附属病院救急部	沖縄県・消防機関・医療機関	34名	平成17年10月1日~
洋上救急参加	医学部附属病院救急部	第十一管区海上保安本部	一般	平成18年3月1日~
琉大麻酔科市民公開講座	医学部附属病院麻酔科	沖縄県麻酔集中治療学会	100人	平成20年10月13日
地域医療連携連絡協議会	医学部附属病院医療福祉支援センター	那覇市立病院, ハートライフ病院	協議会構成員/8名	平成20年11月25日
第9回地域医療教育支援セミナー	医学部附属病院医療福祉支援センター・地域医療部	県内の病院	連携担当者/97名	平成20年10月10日
第4回琉大病院公開講演会・第10回地域医療教育支援セミナー(合同開催)	医学部附属病院・医療福祉支援センター・地域医療部		沖縄県内の医師および医療関係者/70名	平成21年3月26日
琉大病院市民公開講座	医学部附属病院		約200名/回3回開催	平成20年9月~平成21年3月
アメリカ心臓協会 BLS コース	日本 ACLS 協会 沖縄トレーニングサイト	医学部附属病院救急部	24名/回年間12回開催	平成20年4月~平成21年3月
アメリカ心臓協会 ACLS 協会	日本 ACLS 協会 沖縄トレーニングサイト	医学部附属病院救急部	10~20名/回年間7回開催	平成20年4月~平成21年3月
アメリカ心臓協会 HS-AED コース	日本 ACLS 協会 沖縄トレーニングサイト	医学部附属病院救急部	20名/回年間3回開催	平成20年4月~平成21年3月
社団法人日本耳鼻咽喉科学会第23回九州連合地方部会学術講演会	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会	医療関係者/235人	平成20年5月31日~6月1日
社団法人日本耳鼻咽喉科学会第104回沖縄県地方部会学術講演会	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会	医療関係者/52人	平成20年7月26日
市民公開講座「鼻の日」講演会	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会	一般市民/44人	平成20年8月7日
市民公開講座「耳の日」講演会	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会	一般市民/110人	平成21年3月7日
社団法人日本耳鼻咽喉科学会第105回九州連合地方部会学術講演会	医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会	医療関係者/50人	平成21年3月14日
心身医学講演会	医学部保健学科精神看護学研究室	沖縄心身医学協会	一般市民/20名	平成20年4月~平成21年3月(毎月1回)
生と性の出張講座	性教育研究会(母子看護学講座内)	浦添商業高校他	中学生, 高校生, 1回約200名	平成20年度 6回
公開講座「母と子の月経教室」	医学部保健学科	日本助産師会沖縄県支部	母子/10組20人 養護教諭/2人	平成20年8月30日
「いのちをありがとう」~いのちを伝える	医学部保健学科	那覇市教育委員会	若狭小学校生徒34人, 保護者4人, 教諭2人	平成21年2月20日
琉球大学「保健学科創設40周年記念」[大学院保健学研究科22周年及び博士課程設置記念]国際フォーラム=アジア・太平洋地域の保健医療=	保健学研究科	医学部保健学科	大学院生/15名 教職員/30名 一般/14名	平成20年9月20日
日本地域看護学会第11回学術集会	医学部保健学科地域看護学教室	日本地域看護学会	日本地域看護学会会員・保健師/1200人	平成20年7月5~6日
新米・新人保健師の自主勉強会	医学部保健学科地域看護学教室	沖縄県保健師研究会	新人保健師/80人	平成20年5月~平成21年3月
保健師実習指導者研修会	医学部保健学科地域看護学教室	沖縄県保健師長会	保健師/160人	平成20年12月~平成21年2月
琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実践」	医学部保健学科成人看護学 分野	豊見城中央病院	一般市民/172名	平成20年8月30日
第1回がん看護プロフェッショナル教育セミナー	九州がんプロフェッショナル養成プラン(琉球大学看護作業部会・医学部保健学科成人看護学 分野)		医療従事者/98名	平成20年5月31日
第2回がん看護プロフェッショナル教育セミナー	九州がんプロフェッショナル養成プラン(琉球大学看護作業部会・医学部保健学科成人看護学 分野)	地方独立行政法人那覇市立病院	医療従事者/90名	平成20年11月8日
がん看護ナーシングサイエンスカフェ「代替療法に関する看護学研究を通して語り合おう」	医学部保健学科成人看護学 分野	日本がん看護学会	一般市民/25名	平成21年2月9日

## 社会貢献活動 Social Action Activities

事業名	活動主体	連携団体等	対象者/人数	実施期間
◆その他の活動				
千本桜植樹祭	琉球大学	西原町・中城村・宜野湾市	地域住民、教職員、学生他/250人	平成18~20年度 年1回
那覇空港に広報誌開架	琉球大学広報・情報室	那覇空港ビルディング(株)	空港利用者多数	平成21年2月10日~3月31日
那覇空港2階ウェルカムホールでジャグリング等のパフォーマンス実施	琉球大学広報・情報室、琉球大学生ジャグリングサークル「スタジोजアグリ」	那覇空港ビルディング(株)	空港利用者多数	平成20年12月20日
地域ぐるみの学校施設防犯・安全点検支援事業	教育学部附属小中学校、施設運営部	中城村南上原自治会	一般市民/14名	平成20年9月~平成21年2月
在冲国家機関連絡会「サンシン演奏ロボットの展示・演奏」	工学部電気電子工学科		在冲国家機関各代表クラス42名	平成20年5月12日
琉球大学空港拡大パネル展(那覇空港:オープニングセレモニー)へサンシン演奏ロボットの出展・演奏	工学部電気電子工学科		空港利用者 多数	平成20年12月1日

### 公開講座

#### Extension Lectures

平成9年、本学に蓄積された知的資源を広く社会へと開放するため、琉球大学生涯学習教育研究センターが設置されました。

本センターが取り組む大学開放事業は、「一般公開講座」、「公開授業」、「高大連携講座」等です。

設置以来、事業は充実の一途を辿っており、平成20年度は以下のような3事業に、総スタッフ281人が関わり、1,884人の受講者に対し琉球大学の知的資源を開放しました。また、平成14年度からは、正規授業の公開も実施しています。平成20年度は、78科目が公開されています。

The Education and Research Center for Lifelong Learning (ERCLL) at the University of the Ryukyus was established in 1997 for the purpose of enriching society by advancing our community's collective intellectual resources.

Upon establishment, the ERCLL began offering a range of extension activities, including "Extension Lectures," "Courses open to the general public," "high school-University Collaborative Lectures."

In 2008, 281 university staff were involved in offering the courses lectures in 78 subjects, providing opportunities for further leaving to 1,884 people.

### 平成20年度公開講座 Extension Lectures, 2008

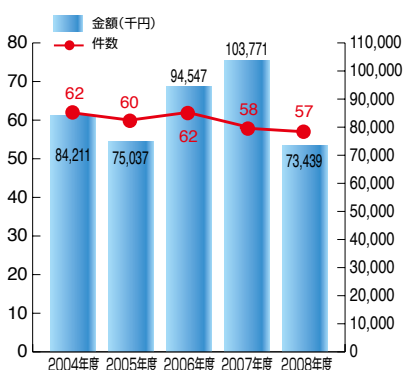
講座種類 Type of course	講座数 No. of Classes	講師数 No. of Teachers	募集人員 No. of Applicants	受講人数 Actual Students
一般公開講座 Extension Course	31	84	1,365	1,109
公開授業 Open to the General Public	78	126	—	164
高大連携 Open to High School Students	60	71	—	611
合計 Total	169	281	1,365	1,884

### 外部資金等受入状況

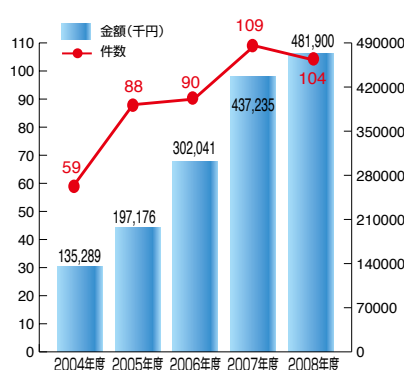
#### Grants from Outside the University

琉球大学では、平成20年度民間等共同研究57件、受託研究104件、合計161件を実施しました。

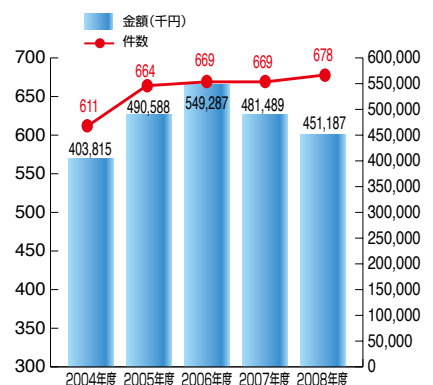
#### 民間等との共同研究年度別受入状況 Joint Research with the Private Sector



#### 受託研究年度別受入状況 Funded Research



#### 奨学寄付金年度別受入状況 Scholarship Donations



# 国際交流 International Exchange

## ● 異文化への理解を深め、国際的視野を身に付ける。

琉球大学では、世界各地からの留学生を受け入れています。留学生は、日本人学生と交流を行い、イベントやサークル活動などにも積極的に参加しています。



## ● 受入ベスト5

Top 5

(2009年5月1日現在)

	国名・地域名 Country・Region	人数 Number
1	中国 China	88人
2	バングラデシュ Bangladesh	33人
3	韓国 Korea	32人
4	台湾 Taiwan	24人
5	タイ Thailand	17人

## ● 各年別外国人留学生数

Number of International Students

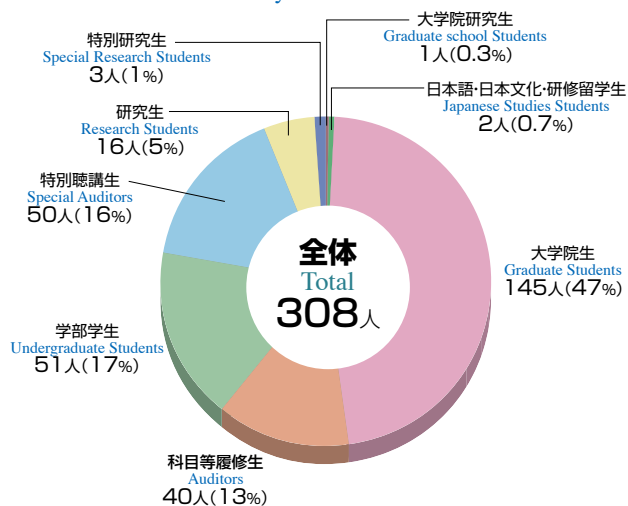
(各年5月1日現在)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
私費 Self-Financed	109	120	136	121	153	163	147	174	181	198
国費 Japanese Gov. Scholarship	83	94	92	90	89	98	88	98	102	95
県費 Okinawa Pref. Gov. Scholarship	19	18	17	16	12	8	8	7	7	7
外国政府派遣 Foreign Gov. Scholarship	10	7	3	1	2	5	9	9	9	8
総数 Total	221	239	248	228	256	274	252	288	299	308

※鹿児島大学大学院連合研究科含む

## 在籍身分別留学生数

International Students by Status



## ● 国際交流会館居室 International House

区分	留学生用	研究者用	合計
単身室	46	8	54
夫婦室	14	4	18
家族室	12	2	14

● 国・地域別留学生数

International Students by Nationality

(2009年5月1日現在)



● 2008年度 研究者の交流 Faculty Exchanges

本学の研究者の海外派遣 Faculty Members Conducting Research Abroad

区分 Programs	人数 Number
海外先進教育研究実践支援プログラム Overseas Advanced Educational Research Practice Support Program	5
研究拠点形成費等補助金(21世紀COE) 21st Century Center of Excellence (COE)	23
科学研究費補助金 Grants-in-Aid for Scientific Research	117
日本学術振興会 Japan Society for the Promotion of Science	1
独立行政法人国際協力機構 Japan International Cooperation Agency	1
国際交流奨励基金事業(琉球大学後援財団) International Exchange Aid Project	2
国内資金(寄附金を含む) Domestic Funding	351
外国政府・研究機関等 Foreign Government and Research Institutions	9
私費 Self-Financed	86
計 Total	595

外国人研究者等の受入れ Foreign Scholars and Researchers

区分 Programs	人数 Number
外国人教師・講師 Foreign Teaching Staff	26
外国籍教員 Foreign Faculty Members	20
外国人研究員 Foreign Researchers	5
外国人受託研修員 Foreign Intern Researchers	4
研究拠点形成費等補助金(21世紀COE) 21st Century Center of Excellence (COE)	16
科学研究費補助金 Grants-in-Aid for Scientific Research	0
日本学術振興会 Japan Society for the Promotion of Science	17
国際交流奨励基金事業(琉球大学後援財団) International Exchange Aid Project	0
国内資金(寄附金を含む) Domestic Funding	55
外国政府・研究機関等 Foreign Government and Research Institutions	14
私費 Self-Financed	21
外国人来訪者(表敬訪問等) Foreign Visitors	33
計 Total	211

# 国際交流協定大学



## ● 交流協定大学の地域・国別(61大学) Academic Exchange Agreements by Region and Country

地域別(数) Region (Number)	相手国・地域(数) Country/Area (Number)	相手側大学名 Name of University
北米(6) North America	米国(6) U.S.A	ミシガン州立大学、グアム大学、ハワイ大学、カリフォルニア大学ディヴィス校 ネヴァダ大学リノ校、フォートルイス大学 Michigan State University, University of Guam, University of Hawaii, University of California, Davis, University of Nevada, Reno, Fort Lewis College
南米(1) South America	ブラジル(1) Brazil	サンパウロ大学 University of São Paulo
大洋州(10) Oceania	オーストラリア(2) Australia	キャンベラ大学、ジェームス・クック大学 University of Canberra, James Cook University
	マーシャル諸島共和国(1) Marshall Islands	マーシャル諸島短期大学 College of the Marshall Islands
	パラオ共和国(1) Palau	パラオ地域短期大学 Palau Community College
	パプア・ニューギニア(1) Papua New Guinea	パプア・ニューギニア大学 University of Papua New Guinea
	サモア独立国(1) Samoa	国立サモア大学 National University of Samoa
	仏領ニューカレドニア(1) New Caledonia	ニューカレドニア大学 University of New Caledonia
	フィジー諸島共和国(1) Fiji	南太平洋大学 The University of the South Pacific
	ミクロネシア連邦(1) Micronesia	ミクロネシア連邦短期大学 College of Micronesia-FSM
	トンガ王国(1) Tonga	アテニシ大学 Atenisi University
	アジア(36) Asia	中国(9) China
韓国(5) Korea		啓明大学校、済州大学校、順天大学校、ソウル市立大学校、延世大学校 Keimyung University, Jheju National University, Sunchon National University, University of Seoul, Yonsei University
タイ(5) Thailand		チュラロンコン大学、タマサート大学、コンケン大学、チェンマイ大学、キング・モンクット工科大学ラートクラバン校 Chulalongkorn University, Thammasat University, Khon Kaen University, Chiang Mai University, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang
インドネシア(3) Indonesia		サムラランギ大学、ボゴール農業大学、ディボネゴロ大学 Sam Ratulangi University, Institut Pertanian Bogor, Diponegoro University
インド(1) India		国立細胞・分子生物学研究所 Centre for Cellular and Molecular Biology
ベトナム(6) Vietnam		ハノイ農業大学、タイグエン師範大学、ベトナム国立大学ハノイ校、ベトナム国家大学ホーチミン市校、ハノイ工科大学、タイグエン農林大学 Hanoi University of Agriculture, Thai Nguyen University of Education, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam National University-Ho Chi Minh City, Hanoi University of Technology, Thai Nguyen University of Agriculture and Forestry
台湾(5) Taiwan		国立台湾大学、国立中山大学、国立雲林科技大学、国立台湾海洋大学、国立台湾科技大学 National Taiwan University, National Sun Yat-Sen University, National Yunlin University of Science and Technology, National Taiwan Ocean University, National Taiwan University of Science and Technology
ラオス(1) Laos		ラオス国立大学 National University of Laos
モンゴル(1) Mongolia		モンゴル保健総合大学 Health Sciences University of Mongolia
中近東(1) The Middle and Near East		イラン(1) Iran
欧州(6) Europe	ドイツ連邦共和国(1) Germany	ハインリッヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学 Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf
	フランス(4) France	フランス国立高等研究院、リール科学技術大学、トゥルーズ・ルミライユ大学、 トゥルーズ第一社会科学大学 Ecole Pratique des Hautes Etudes, Université Lille1 Sciences et Technologies, Université de Toulouse-Le Mirail, Université Toulouse 1 Sciences Sociales
	英国(1) U.K	シェフィールド大学 The University of Sheffield
アフリカ(1) Africa	南アフリカ(1) Republic of South Africa	ケープタウン大学 University of Cape Town

(2009年4月1日現在)

● 大学間交流(43大学)・学部間交流(18大学) University and Faculty Level Exchange

大学名 Name of University	相手国・地域 Country/Area	締結(更新)年月日 Date of Signing	協定の目的		備考 Note
			学術交流	学生交流	
ミシガン州立大学 Michigan State University	米国	1979年 2月14日締結		○	
チュラロンコン大学 Chulalongkorn University	タイ	1983年 2月19日締結	○	○	
タマサート大学 Thammasat University	タイ	1984年 6月26日締結	○	○	
コンケン大学 Khon Kaen University	タイ	1987年 4月 1日締結	○	○	
サムラトランギ大学 Sam Ratulangi University	インドネシア	1988年 3月 8日締結	○	○	
グアム大学 University of Guam	米国	1988年 3月10日締結	○	○	
ハワイ大学 University of Hawaii	米国	1988年11月 7日締結	○	○	
チェンマイ大学 Chiang Mai University	タイ	1989年12月18日締結	○	○	
啓明大学校 Keimyung University	韓国	1990年 5月11日締結	○	○	
済州大学校 Jheju National University	韓国	1991年 3月 5日締結	○	○	
中山大学中山医学院 Sun Yat - Sen University Zhong Shan School of Medicine	中国	1991年 3月 6日締結	○		医学部
中南林業科技大学 Central South University of Forestry and Technology	中国	1993年 3月 9日締結	○	○	
キャンベラ大学 University of Canberra	オーストラリア	1993年12月 7日締結	○	○	
福建師範大学 Fujian Normal University	中国	1997年11月14日締結	○	○	
テヘラン大学(工学部) University of Tehran	イラン	1998年10月26日締結	○	○	工学部
国立細胞・分子生物学研究所 Centre for Cellular and Molecular Biology	インド	1998年11月10日締結	○	○	医学部
福州大学(工学院) Fuzhou University	中国	1999年 3月 1日締結	○	○	工学部
サンパウロ大学(工学部) University of São Paulo	ブラジル	2000年 3月29日締結	○	○	工学部
リール科学技術大学 Université Lille1 Sciences et Technologies	フランス	2000年 9月30日締結	○	○	
フランス国立高等研究院 Ecole Pratique des Hautes Etudes	フランス	2000年10月12日締結	○	○	
トゥルーズ・ル・ミライユ大学 Université de Toulouse-Le Mirail	フランス	2001年 2月28日締結	○	○	
マーシャル諸島短期大学 College of the Marshall Islands	マーシャル諸島共和国	2001年 7月15日締結	○	○	
パラオ地域短期大学 Palau Community College	パラオ共和国	2001年 7月15日締結	○	○	
パプア・ニューギニア大学 University of Papua New Guinea	パプアニューギニア	2001年 7月15日締結	○	○	
国立サモア大学 National University of Samoa	サモア独立国	2001年 7月15日締結	○	○	
ニューカレドニア大学 University of New Caledonia	仏領ニューカレドニア	2001年 7月15日締結	○	○	
南太平洋大学 The University of the South Pacific	フィジー諸島共和国	2001年 7月19日締結	○	○	
ミクロネシア連邦短期大学 College of Micronesia-FSM	ミクロネシア連邦	2001年 8月 3日締結	○	○	
アテニシ大学 Atenisi University	トンガ王国	2001年 8月27日締結	○	○	
ハインリッヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学(人文学部) Heinrich-Heine-Universität Düsseldorf	ドイツ連邦共和国	2001年 9月30日締結	○	○	法文学部
広西医科大学 Guangxi Medical University	中国	2001年12月18日締結	○	○	医学部
トゥルーズ第一社会科学大学 Université Toulouse 1 Sciences Sociales	フランス	2002年 2月 8日締結	○	○	
大連医科大学 Dalian Medical University	中国	2002年 6月26日締結	○	○	医学部
ハノイ農業大学 Hanoi University of Agriculture	ベトナム	2002年11月 5日締結	○	○	農学部
国立台湾大学 National Taiwan University	台湾	2003年 4月 2日締結	○	○	
タイゲン師範大学 Thai Nguyen University of Education	ベトナム	2003年 8月22日締結	○	○	教育学部
カリフォルニア大学 デイヴィス校 University of California, Davis	米国	2003年10月22日締結	○	○	
ネヴァダ大学 リノ校 University of Nevada, Reno	米国	2004年 2月18日締結	○	○	
ジェームス・クック大学 James Cook University	オーストラリア	2004年 2月25日締結	○	○	
フォートルーイス大学 Fort Lewis College	米国	2004年 3月 1日締結		○	留学生センター
雲南農業大学 Yunnan Agricultural University	中国	2005年 1月20日締結	○	○	
ベトナム国立大学ハノイ校 Vietnam National University, Hanoi	ベトナム	2005年 3月17日締結	○	○	
ラオス国立大学 National University of Laos	ラオス	2005年 5月19日締結	○	○	
順天大学校 Sunchon National University	韓国	2005年 9月12日締結	○	○	
国立雲林科技大学(国際事務局) National Yunlin University of Science and Technology	台湾	2005年 9月21日締結		○	留学生センター
延邊大学 Yanbian University	中国	2005年10月18日締結	○	○	
国立台湾海洋大学 National Taiwan Ocean University	台湾	2005年 11月9日締結	○	○	
シェフィールド大学 The University of Sheffield	英国	2006年 2月13日締結	○	○	
ベトナム国家大学ホーチミン市校 Vietnam National University-Ho Chi Minh City	ベトナム	2006年 3月14日締結	○	○	
ボゴール農業大学 Institut Pertanian Bogor	インドネシア	2006年 7月13日締結	○	○	
モンゴル保健総合大学 Health Sciences University of Mongolia	モンゴル	2006年10月24日締結	○	○	医学部
ケープタウン大学(科学部) University of Cape Town	南アフリ共和国	2006年10月24日締結	○	○	医学部
華中科技大学 Huazhong University of Science & Technology	中国	2006年11月14日締結	○	○	
国立中山大学 National Sun Yat-Sen University	台湾	2007年12月 4日締結	○	○	
ハノイ工科大学(電子情報学部) Hanoi University of Technology	ベトナム	2007年12月 5日締結	○	○	工学部
延世大学校 Yonsei University	韓国	2008年 1月16日締結	○	○	
タイグエン農林学校 Thai Nguyen University of Agriculture and Forestry	ベトナム	2008年 3月 3日締結	○	○	農学部
キングモンクット工科大学ラートクラバン校(建築学部) King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	タイ	2008年 3月28日締結	○	○	工学部
ソウル市立大学校 University of Seoul	韓国	2008年 4月30日締結	○	○	
ディボネゴロ大学 Diponegoro University	インドネシア	2008年 5月 1日締結	○	○	
国立台湾科技大学(電気工学・情報科学部及び工学部) National Taiwan University of Science and Technology	台湾	2008年 9月15日締結	○	○	工学部

※学部間交流協定校は備考欄を参照

(2009年4月1日現在)

# 土地・建物

## Land and Buildings

### ● 土地・建物 Land and Buildings

地区	区分	土地 m <sup>2</sup>	建物 m <sup>2</sup>
千原地区		1,123,616	
	大学本部		5,377
	法文学部		10,102
	教育学部		13,068
	附属学校		12,520
	理学部		12,123
	工学部		22,561
	農学部		16,990
	附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター(千原)		4,091
	大学教育センター		13,262
	附属図書館		9,920
	体育施設・課外活動施設・食堂		12,991
	学生寮		14,804
	放射性同位元素等取扱施設		358
	保健管理センター		520
	国際交流会館		3,609
	環境安全センター		636
	極低温施設		484
	分子生命科学研究所施設		4,028
	産学連携推進機構		1,146
	総合情報処理センター		680
	地域国際学習センター		2,047
	理系複合棟		7,373
	総合研究棟		6,059
	研究者交流施設・50周年記念館		1,810
	上原地区	医学部	139,169
病院			46,140
看護師宿舎			1,384
奥地区	奥の山荘	107,382	612
瀬底地区	熱帯生物圏研究センター・瀬底研究施設	25,759	5,207
	瀬底職員宿舎		158
西表地区	熱帯生物圏研究センター・西表研究施設	借地(3,754,112)	3,182
	西表職員宿舎	3,953	342
与那地区	農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター	借地(3,183,810)	1,545
	職員宿舎	8,867	128
石嶺地区	石嶺職員住宅	20,787	6,372
志真志地区	志真志住宅	20,308	10,476
前田地区	前田住宅	6,674	5,825
	合計	1,456,515 (6,937,922)	296,154



## 平成21年度

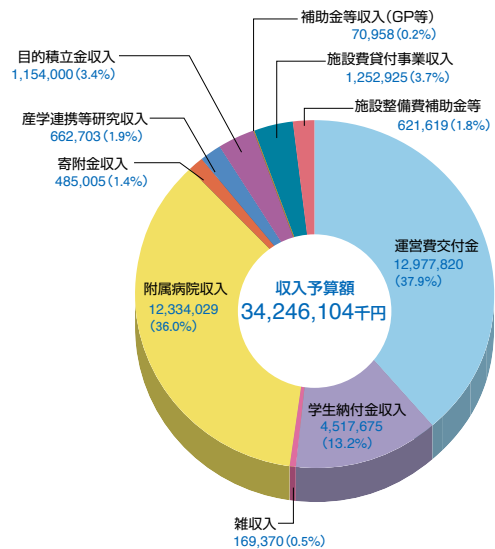
# 収入・支出予算

## 2009 Fiscal Year Budget

### ● 収入予算 Revenues

(単位:千円) Unit: Thousand Yen

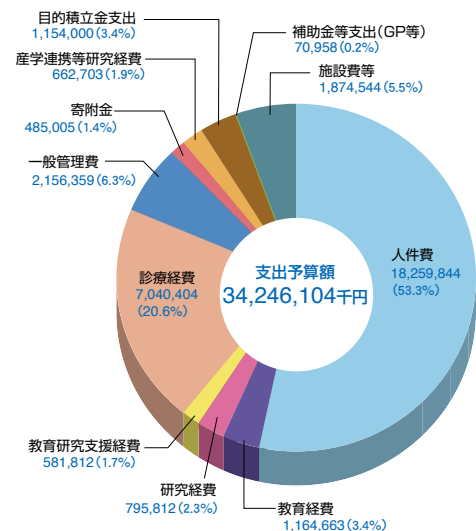
科目 Divisions	20年度	21年度	増△減
運営費交付金	13,016,984	12,977,820	▲ 39,164
学生納付金収入	4,551,817	4,517,675	▲ 34,142
雑収入	161,125	169,370	8,245
附属病院収入	12,358,759	12,334,029	▲ 24,730
寄附金収入	447,169	485,005	37,836
産学連携等研究収入	429,120	662,703	233,583
目的積立金収入	100,000	1,154,000	1,054,000
補助金等収入(GP等)	38,000	70,958	32,958
施設費貸付事業収入	1,076,404	1,252,925	176,521
施設整備費補助金等	520,581	621,619	101,038
計 Total	32,699,959	34,246,104	1,546,145



### ● 支出予算 Expenditures

(単位:千円) Unit: Thousand Yen

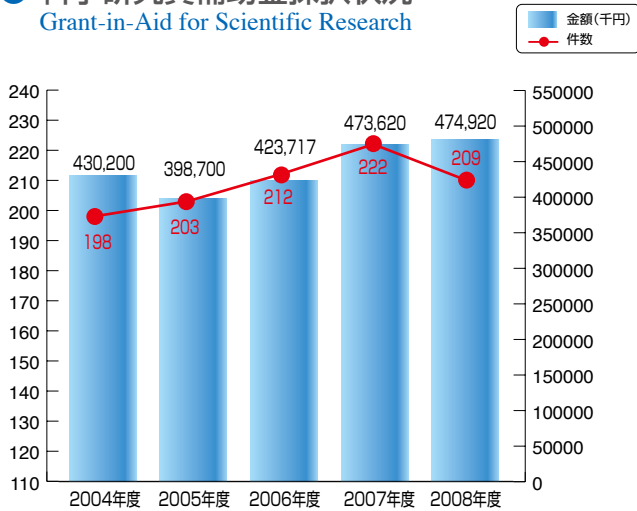
科目 Divisions	20年度	21年度	増△減
人件費	18,358,550	18,259,844	▲ 98,706
教育経費	1,113,823	1,164,663	50,840
研究経費	694,769	795,812	101,043
教育研究支援経費	565,876	581,812	15,936
診療経費	6,878,304	7,040,404	162,100
一般管理費	2,477,363	2,156,359	▲ 321,004
寄附金	447,169	485,005	37,836
産学連携等研究経費	429,120	662,703	233,583
目的積立金支出	100,000	1,154,000	1,054,000
補助金等支出(GP等)	38,000	70,958	32,958
施設費等	1,596,985	1,874,544	277,559
計 Total	32,699,959	34,246,104	1,546,145



# 科学研究費補助金等

## Grant-in-Aid for Scientific Research

### ● 科学研究費補助金採択状況 Grant-in-Aid for Scientific Research



### ● 科学研究費補助金部局別内訳 Grant-in-Aid for Scientific Research

(単位:千円) Unit: Thousand Yen

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
法文学部	32	64,710	42	74,590	52	99,327	57	118,160	36	71,390
法務研究科	2	4,500	1	400	2	1,500	0	0	0	0
観光産業科学部									6	7,540
教育学部	24	43,300	26	45,350	30	37,850	32	53,000	29	70,300
理学部	28	55,620	30	71,580	34	82,590	32	75,890	29	81,620
医学部(附属病院を含む)	66	169,360	60	114,740	47	101,300	49	111,170	51	88,380
工学部	18	39,210	17	26,700	17	26,200	19	33,900	19	45,300
農学部	13	24,000	11	17,300	14	40,740	19	46,670	18	45,680
熱帯生物圏研究センター	6	15,200	6	26,940	7	18,610	5	19,100	5	30,680
分子生命科学センター(旧遺伝子実験センター)	6	10,100	8	18,600	6	11,000	6	13,400	8	17,130
生涯学習教育研究センター	1	1,900	1	800	1	500	0	0	2	5,720
総合情報処理センター	1	1,000	0	0	0	0	0	0	1	1,300
留学生センター	1	1,300	1	1,700	1	1,200	2	1,680	1	650
保健管理センター					1	2,900	1	650	0	0
大学評価センター									1	2,990
亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構									3	6,240
<b>合計</b>	<b>198</b>	<b>430,200</b>	<b>203</b>	<b>398,700</b>	<b>212</b>	<b>423,717</b>	<b>222</b>	<b>473,620</b>	<b>209</b>	<b>474,920</b>

### ● 科学研究費補助金種目別内訳 Grant-in-Aid for Scientific Research

(単位:千円) Unit: Thousand Yen

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
特定領域研究	8	49,400	7	40,600	8	37,900	7	36,000	2	10,900
新学術領域研究(H20年度新設)									1	21,190
基盤研究(S)					1	21,190	1	21,970	1	21,970
基盤研究(A)	3	69,030	5	63,050	4	39,390	4	38,220	3	41,080
基盤研究(B)	31	112,600	27	85,800	27	134,750	25	128,310	24	127,010
基盤研究(C)	94	111,200	97	119,900	107	114,627	123	176,800	121	178,490
特別研究促進費									2	2,700
萌芽研究	9	13,300	13	16,400	14	13,600	16	16,900	15	14,900
若手研究(A)	2	11,570	1	9,750	1	3,250	1	4,030	0	0
若手研究(B)	51	63,100	53	63,200	46	54,000	41	46,700	40	56,680
若手研究(スタートアップ)					4	5,010	4	4,690	0	0
<b>合計</b>	<b>198</b>	<b>430,200</b>	<b>203</b>	<b>398,700</b>	<b>212</b>	<b>423,717</b>	<b>222</b>	<b>473,620</b>	<b>209</b>	<b>474,920</b>

\*H20科研費(交付一覧)よりデータ抽出(間接経費を含む) \*特別研究員奨励費、奨励研究費は除く

### ● その他の補助金事業採択状況 Other Scientific Research

(単位:千円) Unit: Thousand Yen

事業種名	2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
厚生労働科学研究費補助金	2	56,000	2	50,200	1	39,000	2	50,869
建設技術研究開発費補助金	1	10,530	1	17,700	0	0	1	5,940



# 建物等の竣工状況

## Chronology of University Building Construction

竣工年月 Year of Completion	建物名 Building Name
昭和48年 3月	与那演習林研究宿泊施設
50年 5月	熱帯海洋科学センター宿泊棟
51年 5月	農学部附属熱帯農学研究施設
52年 2月	農学部附属農場管理棟
53年 11月	農学部棟
54年 3月	北食堂
8月	工2号棟
55年 2月	理学部棟
3月	計算センター(昭和62.4情報処理センターに名称変更)、中央食堂
9月	教養部棟
56年 2月	法文学部棟
5月	体育館
6月	附属図書館棟
11月	事務局・学生部棟、教育学部棟
57年 2月	課外活動共用施設
3月	教育学部附属小学校舎、RI共同利用施設、廃棄物処理センター(昭和63.4環境安全センターに名称変更)
8月	学生寄宿舍(女子寮)
10月	医学部基礎実習講義棟・解剖法医棟
58年 2月	医学部基礎研究棟・保健学科棟
3月	医学部臨床講義棟・工学部電子情報工学科棟、保健管理センター、がじゅまる会館
8月	大学会館
10月	医学部RI・動物実験施設(Ⅰ期)
59年 1月	学生寄宿舍(男子寮)、医学部臨床研究棟、医学部附属病院
3月	医学部高エネルギー・高気圧治療施設、看護婦宿舎、医学部管理棟、附属図書館医学部分館
60年 2月	農学部ハイブリット稲実験施設
3月	教育学部附属中学校舎、医学部体育館、課外活動合宿研修施設、球陽橋
61年 2月	理学部大学院棟
3月	教養部4号館
62年 3月	国際交流会館(共用棟、单身棟、世帯棟1・2)、附属病院RI診療施設
6月	医学部基礎・臨床研究棟増築
9月	医学部附属動物実験施設(Ⅱ期)
63年 3月	教育学部附属教育実践研究指導センター、農学部附属熱帯農学研究施設棟
平成元年 3月	附属病院リニアク診療施設
12月	工学部大学院棟及びエネルギー・機械工学科棟
2年 3月	医学部地域医療研究センター
3年 3月	医学部附属病院MRI-CT装置棟、極低温センター
5年 3月	医学部附属動物実験施設(Ⅲ期)、医学部車庫
6月	熱帯海洋科学センター研究棟、熱帯海洋科学センター研究員宿舎
7月	第2体育館
6年 2月	附属図書館(増築)
3月	遺伝子実験施設、与那演習林研究棟、奥の山荘(増築・改修)
8月	中央食堂(増築・改修)
9月	国際交流会館(世帯棟3)
12月	農学部附属農場農用機械格納庫
8年 3月	学生寄宿舍千原寮混住型棟、地域共同研究センター、農学部与那演習林職員宿舎、熱帯生物圏研究センター宿泊棟(西表実験所)
6月	医学部附属病院MRI-CT装置棟(増築)
9年 9月	工1号棟
11月	法文学部講義棟
10年 10月	医学部附属病院救急部(増築・改修)
11月	地域国際学習センター
11年 3月	コラボレーションセンター
12年 3月	環境安全センター研修棟
13年 9月	瀬底実験水槽棟
14年 11月	人文社会総合研究棟
15年 3月	第2遺伝子実験施設、研究者交流施設・50周年記念館、瀬底共同研究棟、瀬底実験水槽棟(増築)
16年 1月	医学部附属病院感染症診察室(増築・改修)
3月	医学部附属病院産褥母子センター及び小児病棟無菌室(増築・改修)
10月	共通教育棟1号館(増築・改修)
17年 3月	課外活動共用施設(プレハブ1次棟)(改築)、課外活動屋外トイレ(改築)、附属中学校堆肥小屋
18年 2月	医学部附属病院作業療法棟(増築・改修)、野球場器具庫、課外活動共用施設(プレハブ2次棟・3次棟)(改築)
3月	附属学校守衛室
9月	北食堂(増築・改修)
19年 2月	附属中学校器具庫2
7月	外来化学診療室(増築・改修)
10月	相撲場屋上
11月	ボンベ庫
12月	人文社会総合研究棟(増築・改修)
20年 3月	中央食堂(増築・改修)、看護部(増築・改修)
12月	圧送ポンプ場非常用発電機室

# 職員数

## Number of Staff Members

	役員等 Executive Officers	教授 Professors	准教授 Associate Prof.	講師 Assistant Prof.	助教 Instructors	助手 Research Assistant	教諭 Teachers	研究員 Researcher	計 Sub Total	事務技術系 Adm.Staff	合計 Total
学長 President	1								1		1
役員(理事・監事) Trustee・Auditor	7								7		7
内部監査室 Internal Audit Office									0	1	1
評価室 Evaluation Office									0	2	2
大学本部 Administration Bureau									0	172	172
法文学部 Faculty of Law and Letters		52	48	6					106		
観光産業科学部 Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management		13	6	4					23	14	158
大学院法務研究科 Graduate School of Law		11	4						15		
教育学部 Faculty of Education		51	39	7					97		
附属小学校 Elementary School							27		27		
附属中学校 Junior High School							23		23	14	167 [1]
附属教育実践総合センター Center for Educational Research and Development		2	3					[1]	5 [1]		
附属発達支援教育実践センター Development Support Educational Practice Center			1						1		
理学部 Faculty of Science		41	29	4	8				82	14	96
医学部 Faculty of Medicine		40	26	6	71				143		
大学院医学研究科 Graduate School of Medicine		6	5		10 [3]	1			22 [3]		
附属病院 University Hospital		2	6	25	59 [2]				92 [2]	532 (154)	792 (154) [5]
附属実験実習機器センター Research Laboratory Center			1		1				2		
附属動物実験施設 The Institute for Animal Experiments			1						1		
工学部 Faculty of Engineering		36	33	3	24				96	33	129
農学部 Faculty of Agriculture		28	20		8				56	19	81
附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター Subtropical Field Science Center		2	2		2				6		
附属図書館 University Library									0	20	20
熱帯生物圏研究センター Tropical Biosphere Research Center		8	9		4				21	3	24
産学官連携推進機構 Integrated Innovation Center for Community		1	1						2		2
機器分析支援センター Instrumental Research Center			1						1	3	4
生涯学習教育研究センター Education and Research Center for Lifelong Learning		1		1					2		2
総合情報処理センター Computing and Networking Center				2					2	3	5
留学生センター International Student Center		1	3	3					7		7
保健管理センター Health Administration Center		1	1						2	2	4
極低温センター Low Temperature Center									0	1	1
大学教育センター University Education Center			2						2		2
大学評価センター University Evaluation Center									0		0
外国語センター Foreign Language Center		1		2					3	1	4
就職センター Placement Center			1						1		1
アドミッションオフィス Admission Office		1							1		1
亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構 Transdisciplinary Research Organization for Subtropics and Island Studies			[4]		[6]				[10]		[10]
計 Total	8	298	242 [4]	63	187 [11]	1	50	[1]	849 [16]	834 (154)	1,683 (154) [16]

※非常勤監事(1名)含む ※休職者及び育児休業者は含まない  
 ※( )は特定有期雇用の看護職員等で外数 ※【 】は特任教職員等で外数

平成21年5月1日現在 (As of May 1, 2009)

# 学生数 Number of Students

## ● 学部学生 Undergraduate Students

平成21年5月1日現在(As of May 1, 2009)

学部 Faculties	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	3年次 編入定員	1年次 First Year			2年次 Second Year			3年次 Third Year			4年次 Fourth Year			5年次 Fifth Year			6年次 Sixth Year			合計 Total
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
法文学部 Law and Letters	405	1,672	26	207	226	433	231	243	474	267	294	561	280	324	604	—	—	0	—	—	0	2,072
観光産業科学部 Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management	140	568	4	56	88	144	65	84	149	26	66	92	12	34	46	—	—	0	—	—	0	431
教育学部 Education	190	760	0	84	117	201	83	122	205	74	127	201	98	130	228	—	—	0	—	—	0	835
理学部 Science	200	800	0	146	60	206	145	69	214	148	54	202	163	62	225	—	—	0	—	—	0	847
医学部 Medicine	162	877	5 (5:2年次)	80	85	165	85	80	165	80	88	168	91	79	170	64	35	99	72	26	98	865
工学部 Engineering	350	1,440	20	342	29	371	333	35	368	348	32	380	425	44	469	—	—	0	—	—	0	1,588
農学部 Agriculture	130	530	5	89	52	141	74	66	140	96	56	152	97	63	160	—	—	0	—	—	0	593
計 Total	1,577	6,647	65 (5:52年次)	1,004	657	1,661	1,016	699	1,715	1,039	717	1,756	1,166	736	1,902	64	35	99	72	26	98	7,231

## ● 大学院生(修士) Graduate Students (Master's Program)

平成21年5月1日現在(As of May 1, 2009)

研究科 Graduate Schools	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1年次 First Year			2年次 Second Year			合計 Total		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文社会科学研究科(修士) Humanities and Social Sciences	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	2
人文社会科学研究科(博士前期課程) Humanities and Social Sciences	45	90	18	24	42	23	36	59	41	60	101
観光科学研究科 Tourism Sciences	6	12	1	5	6	0	0	0	1	5	6
教育学研究科 Education	35	70	15	17	32	30	27	57	45	44	89
医学研究科 Medicine	15	30	7	8	15	8	7	15	15	15	30
保健学研究科(博士前期課程) Health Sciences	10	20	5	8	13	5	10	15	10	18	28
理工学研究科(博士前期課程) Engineering and Science	128	256	121	22	143	132	25	157	253	47	300
農学研究科 Agriculture	40	80	21	10	31	19	14	33	40	24	64
計 Total	279	558	188	94	282	217	121	338	405	215	620

## ● 大学院生(博士) Graduate Students (Doctoral Program)

研究科 Graduate Schools	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1年次 First Year			2年次 Second Year			3年次 Third Year			4年次 Fourth Year			合計 Total		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文社会科学研究科(博士後期課程) Humanities and Social Sciences	4	12	2	4	6	3	1	4	4	3	7	0	0	0	9	8	17
医学研究科 Medicine	38	152	20	12	32	18	3	21	13	3	16	35	13	48	86	31	117
保健学研究科(博士後期後期) Health Sciences	3	9	2	3	5	0	2	2	1	3	4	0	0	0	3	8	11
理工学研究科(博士後期課程) Engineering and Science	12	36	29	7	36	20	6	26	24	15	39	0	0	0	73	28	101
計 Total	57	209	53	26	79	41	12	53	42	24	66	35	13	48	171	75	246

## ● 大学院生(法務博士(専門職)) Graduate Students (Juris Doctoral Program)

研究科 Graduate Schools	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1年次 First Year			2年次 Second Year			3年次 Third Year			合計 Total		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
法務研究科 Law	30	90	21	11	32	11	20	31	25	8	33	57	39	96

## ● 鹿児島大学大学院連合農学研究科 The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University

研究科 Graduate Schools	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1年次 First Year			2年次 Second Year			3年次 Third Year			合計 Total		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農学研究科 Agriculture	23	69	28	9	37	24	14	38	36	10	46	88	33	121
			10	1	11	5	4	9	13	1	14	28	6	34

## ● 専攻科 Special Programs

\*下段は本学の教員が指導する学生数で内数

特別支援教育特別専攻科(知的障害教育専攻) Special Support Education Programs	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1年次 First Year		合計 Total
			男	女	
	10	10	1	3	4

## ● 教育学部 附属小学校 Elementary School

学級数 Classes	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1学年 First Year		2学年 Second Year		3学年 Third Year		4学年 Fourth Year		5学年 Fifth Year		6学年 Sixth Year		合計 Total		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
18	120	720	60	60	60	60	57	60	59	59	59	56	56	52	351	347	698

## ● 教育学部 附属中学校 Junior High School

学級数 Classes	入学定員 Admission Capacity	収容定員 Total Number	1学年 First Year		2学年 Second Year		3学年 Third Year		合計 Total		
			男	女	男	女	男	女	男	女	計
12	160	480	80	80	80	78	74	84	234	242	476

# 入学状況・卒業後の状況

## Enrollments, Graduates

### ● 学部入学者状況 Enrollments

学部	Faculties	入学定員 Admission Capacity	志願者数	倍率	合格者			入学者		
					県内	県外	その他	県内	県外	その他
法文学部	Law and Letters	405	1,857	4.6	362	101	5	340	82	3(1)
観光産業科学部	Faculty of Tourism Sciences and Industrial Management	140	430	3.1	124	20	3	121	19	0(3)
教育学部	Education	190	757	4.0	150	54	1	143	50	1(0)
理学部	Science	200	723	3.6	150	100	2	118	80	2(0)
医学部	Medicine	162	964	6.0	121	48	1	115	46	1(0)
工学部	Engineering	350	1,165	3.3	213	206	10	206	152	0(2)
農学部	Agriculture	130	734	5.6	89	73	2	79	58	1(1)
合計	Total	1,577	6,630	4.2	1,209	602	24	1,122	487	8(7)

※( )は、外国人留学生で外数

### ● 大学院等入学者状況 Postgraduate Enrollment

研究科	Graduate Schools	入学定員 Admission Capacity	志願者	受験者	合格者	入学者	留学生 私費 国費	
人文社会科学研究科(博士前期課程)	Humanities and Social Sciences (Master's Program)	45	58	53	46	41	11	3
観光科学研究科(修士課程)	Tourism Sciences(Master's Program)	6	10	9	6	6	0	0
教育学研究科(修士課程)	Education (Master's Program)	35	48	48	37	31	0	0
医学研究科(修士課程)	Medicine (Master's Program)	15	17	16	16	15	1	0
保健学研究科(博士前期課程)	Health Sciences (Master's Program)	10	20	20	11	11	1	0
理工学研究科(博士前期課程)	Engineering and Science (Master's Program)	128	162	156	144	127	0	0
農学研究科(修士課程)	Agriculture (Master's Program)	40	46	41	38	31	0	2
人文社会科学研究科(博士後期課程)	Humanities and Social Sciences (Doctoral Program)	4	10	10	7	6	1	1
医学研究科(博士課程)	Medicine (Doctoral Program)	38	36	35	35	32	5	2
保健学研究科(博士後期課程)	Health Sciences (Doctoral Program)	3	4	4	4	4	0	0
理工学研究科(博士後期課程)	Engineering and Science (Doctoral Program)	12	18	18	18	18	1	0
法務研究科(専門職学位課程)	Law (Juris Doctoral Program)	30	98	84	38	29	0	0
合計	Total	366	527	494	400	351	20	8

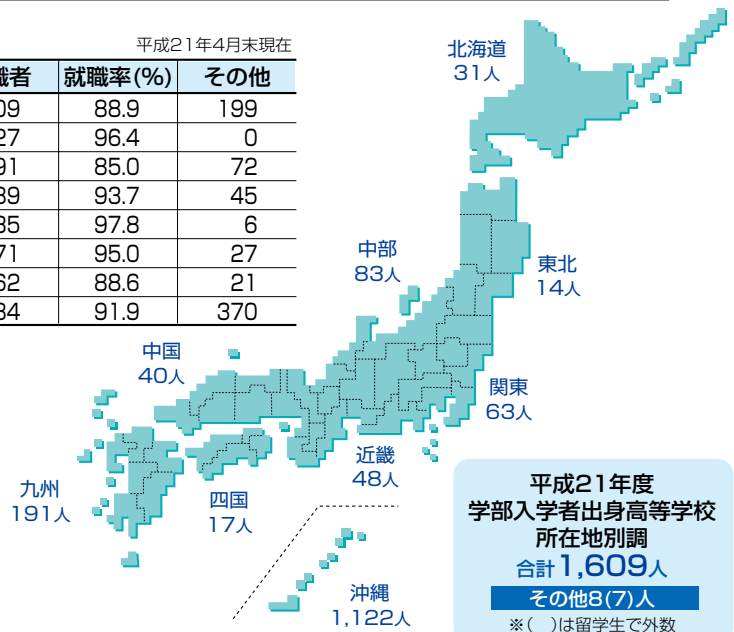
### ● 専攻科入学者状況 Special Programs Enrollment

特別支援教育特別専攻科 Special Support Education Programs	入学定員 Admission Capacity	志願者	受験者	合格者	入学者
	10	5	5	5	4

### ● 卒業後の状況 Graduates

平成21年4月末現在

学部	卒業者	進学者	求職者	就職者	就職率(%)	その他
法文学部	467	33	235	209	88.9	199
観光産業科学部	31	3	28	27	96.4	0
教育学部	197	18	107	91	85.0	72
理学部	193	53	95	89	93.7	45
医学部	150	6	138	135	97.8	6
工学部	298	91	180	171	95.0	27
農学部	128	37	70	62	88.6	21
合計	1464	241	853	784	91.9	370



# 年度別卒業生(修了者)数

# Number of Graduates by Year

## ● 学部 Faculties

卒業年度	人 数	
	正規課程	短期課程
昭和26年度		19
27	26	74
28	122	162
29	96	130
30	162	62
31	253	30
32	409	14
33	446	13
34	471	11
35	451	
36		
}	4,052	
42		
43	707	
44	827	
45	784	
46	753	
47	786	
48	810	
49	770	
50	768	
51	778	
52	844	
53	866	
54	886	
小 計	16,067	515

## ● 大学院(修士課程) Graduate Schools (Master's Programs)

修了年度	人 数
昭和53年度	8
54	11
55	11
56	18
57	29
58	32
59	26
60	28
61	39
62	70
63	73
平成元年度	80
2	102
3	130
4	150
5	162
6	177
7	185
8	231
9	255
10	269
11	252
12	262
13	263
14	245
15	283
16	285
17	260
18	281
19	259
20	245
合 計	4,721

卒業年度	人 数	
	正規課程	短期課程
昭和55年度	908	
56	942	
57	941	
58	1,005	
59	1,025	
60	943	
61	1,116	
62	1,151	
63	1,072	
平成元年度	1,208	
2	1,225	
3	1,312	
4	1,304	
5	1,318	
6	1,360	
7	1,479	
8	1,436	
9	1,674	
10	1,673	
11	1,693	
12	1,626	
13	1,568	
14	1,516	
15	1,510	
16	1,481	
17	1,509	
18	1,469	
19	1,516	
20	1,508	
小 計	38,488	0
合 計	54,555	515

## ● 大学院(博士課程) Graduate Schools (Doctoral Programs)

修了年度	人 数
平成2年度	14
3	24 (17)
4	15 (10)
5	19 (14)
6	12 (11)
7	18 (18)
8	17 (9)
9	10 (6)
10	23 (11)
11	14 (16)
12	20 (6)
13	31 (15)
14	43 (11)
15	34 (6)
16	40 (12) [1]
17	37 (14)
18	35 (12) [2]
19	54 (10) [9]
20	45 (11) [10]
合 計	500 (209) [22]

※( )は、論文審査による学位授与者数で外数  
 ※[ ]は、単位取得後退学した課程博士で外数

## ● 大学院(専門職学位課程) Graduate Schools (Juris Doctoral Programs)

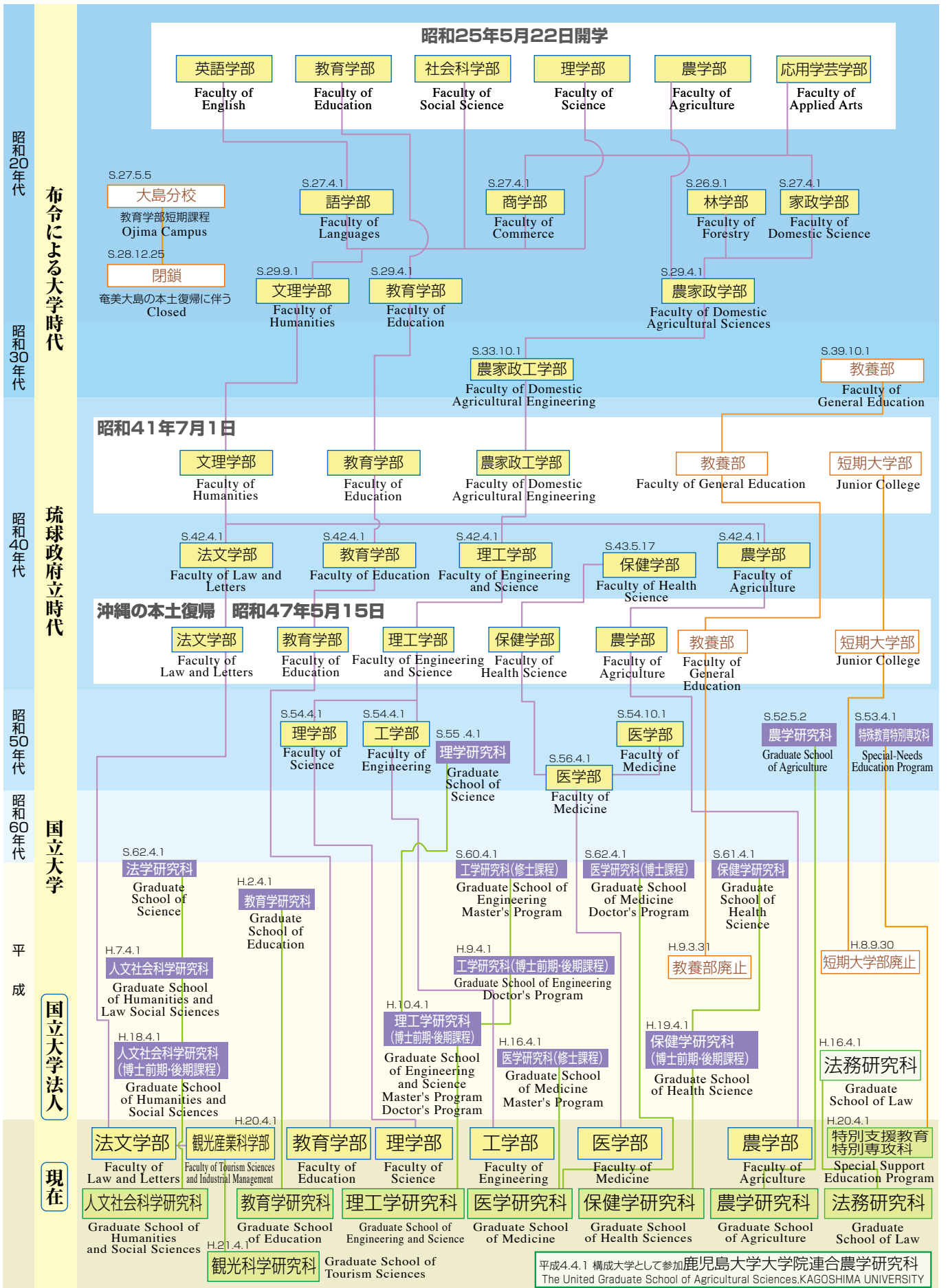
修了年度	人 数
平成18年度	19
19	28
20	25
合 計	72

## ● 短期大学部 Junior College

卒業年度	人 数
昭和44年度	127
45	110
46	94
47	132
48	105
49	
}	1361
57	
58	184
59	181
60	184
61	179
62	196
63	176
平成元年度	217
2	210
3	214
4	214
5	216
6	203
7	256
8	1
合 計	4,560

## ● 専攻科 Special Programs

修了年度	人 数
昭和53年度	22
54	13
55	15
56	15
57	17
58	13
59	8
60	10
61	7
62	7
63	4
平成元年度	5
2	2
3	3
4	2
5	1
6	2
7	3
8	4
9	3
10	3
11	3
12	4
13	4
14	3
15	3
16	6
17	4
18	7
19	12
20	8
合 計	213



1948	昭和23年12月	連合軍最高司令部の琉球局長ジョン・H・ウェッカリング准将は米国琉球軍政本部教育部長アーサー・E・ミード博士、沖縄民政府文教部長山城篤男氏と共に首里城趾等を視察し、前教育部長スチュアート中佐の計画に基づき、ここに大学を設立することになった。	11月4日	・農家政工學部に農家工學科を設置。	
1949	昭和24年6月8日	・本館及び普通教室(木造)8棟並びに図書館の建設が着工され、昭和25年4月25日落成。	1965	昭和40年7月23日	・琉球政府立法院において、琉球大學設置法(昭和40年立法第102号)及び琉球大學管理法(昭和40年立法第103号)を制定。
1950	昭和25年5月22日	・ <b>本学が、英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部、1・2年次あわせて562人の学生、44人の職員で開学し、同日、第1回入学式を挙</b> 行。	1966	昭和41年4月1日	・教育学部に心理学科を設置。
	10月30日	・琉球情報教育委員会(軍政府指令第13号)を設置。同委員会は琉球大学理事会としての機能も果たした。	7月1日	・琉球大學設置法及び琉球大學管理法により、本学は琉球政府立大学となり、管理機関として琉球大學委員会を設置。	
1951	昭和26年1月10日	・琉球大學に関する基本法(琉球列島米国民政府令第30号)を制定。同基本法により琉球情報教育委員会は琉球大學理事会となった。		・ <b>短期大學部(英語科、法政科、経済科、商科、機械科、電気科、夜間・3年課程)を併設(昭和42年4月1日短期大學部学生受入れ)。</b>	
	2月12日	・ <b>開学記念式典を挙</b> 行。	1967	昭和42年3月22日	・故金城キク女史寄贈の風樹館(自然科学標本館)の落成式が行われた。
	4月1日	・工業試験場が民政府から琉球大學に移管され、琉球大學那覇工業指導所(エクステーションセンター)と改称し、工業技術員養成課程(2年)を設置。	4月1日	・琉球大學設置法の一部改正(昭和41年立法第55号)により、4学部(法文学部、教育学部、理工学部、農学部)28学科(国語国文学科、英語英文学科、史学科、地理学科、法政学科、社会学科、経済学科、商学科、美術工芸科、教育学科、心理学科、初等教育科、音楽科、体育科、技術教育科、数学科、物理学科、化学科、生物学科、機械工学科、土木工学科、電子工学科、農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科、家政学科)に改編。	
	5月1日	・副会長制がしかれた(昭和33年10月1日廃止)。	1968	昭和43年5月17日	・琉球大學設置法の一部改正により、保健學部を設置。
	9月1日	・林學部を設置。	6月30日	・昭和37年7月6日に締結されたミシガン州立大學との教育交流協約が結了したので、アメリカ合衆国政府保健厚生省と米国民政府の斡旋により米國諸大學との交流プログラムが設定された。	
	25日	・米軍教育審議会及び陸軍省の教育計画により、本学にミシガン州立大學教授団が派遣され、教育行政及び研究活動等に協力することになった。	1970	昭和45年6月20日	・琉球大學設置法の一部改正により新那覇病院は、琉球大學附属病院となった。
1952	昭和27年2月28日	・琉球教育法(布令第66号)が制定され、布令第30号は廃止された。布令第30号によって設立された琉球大學の法人組織は琉球教育法中「第14章琉球大學」の規定によって存続されることになった。	11月20日	・本学の国立移管について閣議で「琉球大學(琉球大學短期大學部を含む。 )はその教育組織等について必要な整備を図り復帰の際、国に移管し、国立大學とする。なお、新那覇病院については当該大學に附置するものとする」ことを決定。	
	4月1日	・新学則により、英語学部は語学部、応用学芸学部は商学部と家政学部に分離改組し、8学部、14学科(農学畜産学科、林学科、家政学科、国語学科、英語学科、教育学科、数学科、物理学科、化学科、生物学科、政治学及法学科、社会学及経済学科、史学及地理学科、商学科)、2課程(初等学校教員養成、中等学校教員養成)に編成。	12月4日	・ <b>開学20周年記念式典を挙</b> 行。	
	5月5日	・琉球大學大島分校を設置(昭和28年12月25日奄美大島の本土復帰により廃校)。	1971	昭和46年4月1日	・理工学部附属工作工場を設置。
1953	昭和28年3月20日	・琉球大學第1回卒業式並びに修了式を挙行(卒業生26人、修了生74人)。	12月3日	・理工学部附属臨海実験所及び農学部附属熱帯農学研究施設を設置。	
	4月1日	・工業技術員養成課程が実用工業科に改称。	1972	昭和47年3月3日	・計算センターを設置。
	24日	・文部省の援助により本土諸大學からの講師招聘を開始。	4月1日	・学則の改正により、5学部(法文学部、教育学部、理工学部、保健學部、農學部)18学科(法政学科、経済学科、文学科、史学科、社会学科、数学科、物理学科、化学科、生物学科、機械工学科、土木工学科、電気工学科、保健學科、農學科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科)3課程(小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程)に改編。短期大學部を4学科(英語学科、法経学科、機械工学科、電気工学科)に統合。	
1954	昭和29年4月1日	・新学則により、3学部(文理学部、教育学部、農家政学部)19学科(国文学科、英文学科、史学及地理学科、政治学及法学科、社会学及経済学科、数学科、物理学科、化学科、生物学科、美術工芸科、商学科、初等教育科、中等教育科、教育学科、農学科、畜産学科、林学科、家政学科、実用工学科)に統合編成。	5月15日	・ <b>沖縄の本土復帰により、琉球大學及び同短期大學部は、国に移管され国立大學となり、琉球大學附属病院は、琉球大學保健學部附属病院となった。</b>	
	5月	・米国民政府財産管理官が国頭村と那官有林74・79林班の無期限無償の使用権を認可したので、農家政学部の演習林として利用することになった。	1974	昭和49年3月30日	・放射性同位元素取扱施設を設置。
	12月	・教育学部中等教育科、農家政学部実用工業科を廃止し、教育学部に音楽科、体育科、農家政学部機械工学科、総合農学科を設置。	4月1日	・教育学部に臨時養護学校教員養成課程を設置。	
1957	昭和32年4月1日	・農家政学部を農家政工學部に移管し、農家政工學部に土木工學科及び電気工學科を設置。	1975	昭和50年4月1日	・理工学部海洋學科を設置。
1958	昭和33年1月10日	・教育基本法、学校教育法、教育委員会法及び社会教育法の4教育関係法が民法として制定された。ただし、琉球大學は布令第66号第14章により存続。	12月18日	・農学部附属農場造成工事の着工をもって移転整備工事を開始。	
	4月1日	・文理学部政治学及法学科を法政学科に改称、社会学及経済学科、史学及地理学科をそれぞれ社会学科、経済学科、史学科、地理学科に分離。	1977	昭和52年4月18日	・医学部創設準備室を設置。
	10月	・農家政学部を農家政工學部に改称。 ・文理学部国文学科、英文学科をそれぞれ国語国文学科、英語英文学科に改称。 ・与那演習林が農家政工學部附属林業試験場となった。 ・農家政工學部附属農業試験場を設置。	5月2日	・大学院農学研究科(修士課程)(農学専攻、農芸化学専攻、畜産学専攻)を設置。	
1960	昭和35年12月2日	・ <b>開学10周年記念式典を挙</b> 行。	5月11日	・農学部附属農場の千原団地への移転により移転開始。	
1961	昭和36年4月1日	・教育学部に職業技術科を設置。	1978	昭和53年3月31日	・教育学部の臨時養護学校教員養成課程を廃止。
1962	昭和38年4月1日	・農家政工學部総合農学科を廃止、農芸化学科を設置。	4月1日	・大学院農学研究科(修士課程)に林学専攻を設置。 ・教育学部に特殊教育特別専攻科(精神薄弱教育専攻)を設置。 ・理工学部建設工學科を設置。	
1963	昭和39年2月1日	・教育学部職業技術科を技術教育科に改称。	1979	昭和54年4月1日	・国立学校設置法の一部改正により理工学部を理學部及び工學部に分離改組。 ・保健管理センターを設置。 ・語学実験室を設置。
	10月1日	・教養部を設置(昭和41年4月1日発定)。	10月1日	・国立学校設置法の一部改正により医学部を設置(昭和56年4月1日医学科学生受入れ)。	

1980	昭和55年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院理学研究科(修士課程)(数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物学専攻、海洋学専攻)を設置。</li> <li>工学部に電子・情報工学科を設置。</li> </ul>	1996	平成8年 3月14日 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>人文社会科学研究科(修士課程)応用法学、社会科学専攻、地域文化専攻を設置。</li> <li>大学院農学研究の5専攻(農学専攻、農芸化学専攻、農業工学専攻、畜産学専攻、林学専攻)を3専攻(生物生産学専攻、生産環境学専攻、生物資源科学専攻)に名称変更。</li> <li>地域共同研究センターを設置。</li> <li>医学部附属病院に血液浄化治療部を設置。</li> </ul>
	5月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>開学30周年記念式典を挙げる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学部閉学式典を挙げる。</li> <li>理学部5学科(数学科、物理学科、化学科、生物学科、海洋学科)を改組し、3学科(数理科学科、物質地球科学科、海洋自然科学科)を設置。</li> <li>大学院教育学研究科(修士課程)の教科教育専攻に社会科教育専修、理科教育専修を増設。</li> <li>大学教育センターを設置。</li> <li>国際交流・留学生交流推進室を設置。</li> </ul>
1981	昭和56年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健学部が医学部保健学科に改組、保健学部附属病院は医学部附属病院となった。</li> <li>教育学部附属小学校を設置(昭和57年4月1日小学生受入れ)。</li> <li>熱帯海洋科学センターを設置(理学部附属臨海実験所の転換)。</li> </ul>	1997	平成9年 3月31日 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器分析センターを設置。</li> <li>短期大学部を廃止。</li> <li>教養部を廃止。</li> <li>庶務部の企画調査室を廃止。</li> </ul>
1982	昭和57年 5月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物処理センターを設置。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>法文学部3学科(法政学科、経済学科、人文学科)を改組し3学科(総合社会システム学科、人間科学科、国際言語文化学科)を設置。</li> <li>教育学部の小学校教員養成課程、中学校教員養成課程を改組し、学校教育教員養成課程を設置。</li> <li>大学院工学研究科の修士課程の機械工学専攻、建設工学専攻、電気・情報工学専攻を博士前期課程の機械システム工学専攻、環境建設工学専攻、電気電子工学専攻、情報工学専攻に改組し、博士後期課程に生産エネルギー工学専攻、総合知能工学専攻を設置。</li> <li>生涯学習教育研究センターを設置。</li> <li>語学実験室を語学センターに名称変更。</li> <li>庶務部に企画室を設置。</li> <li>経理部に調達室を設置。</li> <li>学生部の入学主幹を廃止し、入試課を設置。</li> <li>医学部附属病院に医療情報部を設置。</li> </ul>
1983	昭和58年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院農学研究科(修士課程)に農業工学専攻を設置。</li> </ul>	1998	平成10年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更し、理学研究科の修士課程の数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物学専攻、海洋学専攻を理工学研究科の博士前期課程の数理科学専攻、物質地球科学専攻、海洋自然科学専攻に再編成するとともに、理工学研究科の博士後期課程に、海洋環境学専攻を設置。</li> <li>総合情報処理センターを設置。</li> <li>留学生センターを設置。</li> <li>教育学部に附属障害児教育実践センターを設置。</li> <li>医学部附属の地域医療研究センターを廃止・転換し、沖縄・アジア医学研究センターを設置。</li> <li>学生部の厚生課を廃止し、教務課を設置。</li> <li>学生部に留学生課、学生サービス室を設置。</li> </ul>
1984	昭和59年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>附属図書館医学部分館を設置。</li> <li>医学部及び医学部附属病院の事務部を一元化。</li> <li>教育学部附属中学校を設置(昭和60年4月1日中学生受入れ)。</li> <li>8月 2日</li> <li>医学部附属病院の上原団地への移転を持って移転事業を完了。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院工学研究科(修士課程)(機械工学専攻、建設工学専攻、電気・情報工学専攻)を設置。</li> <li>農学部附属熱帯農学研究施設に環境・資源研究部門を設置。</li> <li>資料館(風樹館)を設置。</li> <li>農学部及び農学附属農場・演習林の事務部を一元化。</li> <li>11月 2日</li> <li>移転完了記念祝賀会が行われた。</li> </ul>
1985	昭和60年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院工学研究科(修士課程)(機械工学専攻、建設工学専攻、電気・情報工学専攻)を設置。</li> <li>農学部附属熱帯農学研究施設に環境・資源研究部門を設置。</li> <li>資料館(風樹館)を設置。</li> <li>農学部及び農学附属農場・演習林の事務部を一元化。</li> <li>11月 2日</li> <li>移転完了記念祝賀会が行われた。</li> </ul>	1999	平成11年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部の学校教育養成課程と養護教員養成課程を学校教育養成課程に統合し、総合科学課程を生涯教育課程に名称変更。</li> <li>医学部附属病院に周産母子センターを設置。</li> <li>庶務部に研究協力課を設置。</li> </ul>
1986	昭和61年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院保健学研究科(修士課程)(保健学専攻)を設置。</li> <li>医学部附属病院に高気圧治療部を設置。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実践研究指導センターを廃止し、転換し、教育実践総合センターを設置。</li> <li>副学長の設置。</li> <li>学生部・事務局事務一元化に伴い学生部の設置。</li> <li>庶務部の名称変更(庶務部が総務部)。</li> <li>G8教育大臣フォーラムが沖縄で開催され、森田学長出席。</li> <li>産官学連携・協力推進サミット会議を開催。</li> </ul>
1987	昭和62年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算センターを情報処理センターに名称変更。</li> <li>大学院法学研究科(修士課程)(法学専攻)を設置。</li> <li>大学院医学研究科(博士課程)(形態機能系専攻、生体制御系専攻、環境生態系専攻)を設置。</li> <li>工学部にエネルギー機械工学科を設置。</li> <li>5月21日</li> <li>庶務部に国際主幹を設置。</li> <li>教育学部に附属教育実践研究指導センターを設置。</li> </ul>	2000	平成12年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>経理部に調達室を設置。</li> <li>学生部の入学主幹を廃止し、入試課を設置。</li> <li>医学部附属病院に医療情報部を設置。</li> </ul>
1988	昭和63年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物処理センターを環境安全センターに名称変更。</li> <li>8日</li> <li>医学部に附属地域医療研究センターを設置。</li> <li>附属図書館事務部の整理課を情報管理課に、閲覧課を情報サービス課にそれぞれ名称変更。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>5月19日</li> <li>産官学連携・協力推進サミット会議を開催。</li> <li>開学50周年記念式典を挙げる。</li> <li>ハワイ大学・福建師範大学との学生間交流協定を締結。</li> <li>ミシガン州立大学に感謝状を贈呈。</li> </ul>
1989	平成元年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学部に総合科学課程を設置。</li> <li>5月29日</li> <li>医学部附属病院に輸血部を設置。</li> </ul>	2001	平成13年 2月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学評価センターを設置。</li> <li>第1回運営諮問会議を開催。</li> <li>第1回太平洋学長サミット会議を開催。</li> <li>琉球大学後援財団理事長 呉屋秀信氏に琉球大学名誉博士号を授与。</li> <li>第2回運営諮問会議を開催。</li> </ul>
1990	平成2年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院教育学研究科(修士課程)(学校教育専攻:学校教育専修、(教科教育専攻:数学教育専修、美術教育専修、技術教育専修、家政教育専修、英語教育専修)を設置。</li> <li>5月22日</li> <li>開学40周年記念式典を挙げる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>6月 1日</li> <li>6月 22日</li> <li>7月 7日</li> <li>11月28日</li> </ul>
1991	平成3年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>農学部5学科(農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科)を改組し3学科(生物生産学科、生産環境学学科、生物資源科学科)を設置。</li> <li>12日</li> <li>遺伝子実験施設を設置。</li> <li>医学部に附属実験実習機器センターを設置。</li> <li>10月22日</li> <li>極低温センターを設置。</li> </ul>			
1992	平成4年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島大学大学院連合農学研究科へ構成大学として参加。</li> </ul>			
1993	平成5年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>庶務部の国際主幹を廃止し、国際交流課を設置。</li> <li>医学部に附属動物実験施設を設置。</li> <li>10月 1日</li> <li>短期大学部の転換。</li> <li>法文学部5学科(法政学科、経済学科、文学科、史学科、社会学科)を改組し、3学科(法政学科、経済学科、人文学科)設置。</li> <li>工学部6学科(機械工学科、エネルギー機械工学科、土木工学科、建設工学科、電気工学科、電子・情報工学科)および1講座(共通講座)を改組し、4学科(機械システム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科、情報工学科)を設置。</li> </ul>			
1994	平成6年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院教育学研究科(修士課程)の教科教育専攻に国語教育専修、音楽教育専修、保健体育専修を増設。</li> <li>6月24日</li> <li>熱帯海洋科学センターと農学部附属熱帯農学研究施設を統合・転換し、全国共同利用施設として熱帯生物圏研究センターを設置。</li> </ul>			
1995	平成7年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院法学研究科(修士課程)(法学専攻)を廃止し、</li> </ul>			



2001	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院人文社会科学研究所科学2専攻(応用法学・社会科学専攻、地域文化専攻)を改組し、3専攻(総合社会システム専攻、人間科学専攻、国際言語文化専攻)を設置。</li> <li>遺伝子実験施設を改組・転換し、遺伝子実験センターを設置。</li> <li>医学部に臨床薬理学講座を設置。</li> <li>病院に光学医療診療部を設置。</li> </ul>
	7月13日	第2回太平洋・学長サミット会議を開催。
	11月 5日	琉球大学・ハワイ大学合同シンポジウムを開催。
	30日	第3回運営諮問会議を開催。
2002	平成14年 1月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア太平洋島嶼研究センターを設置。</li> <li>医学部に救急医学講座を設置。</li> <li>農学部附属農場・演習林を転換し亜熱帯フィールド科学教育研究センターを設置。</li> <li>総務部の国際交流課を廃止し、国際企画課を設置。</li> </ul>
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職センターを設置。</li> <li>アメリカ研究センターを設置。</li> </ul>
	7月23日	研究推進戦略室を設置。
	10月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学研究科に独立専攻として感染制御医科学専攻を設置し、既設の3専攻系を医科学専攻に改組した。</li> <li>医学部附属病院にリハビリテーション部を設置。</li> <li>移民研究センターを設置。</li> </ul>
2003	平成15年 2月 4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進戦略室を設置。</li> <li>医学研究科に独立専攻として感染制御医科学専攻を設置し、既設の3専攻系を医科学専攻に改組した。</li> <li>医学部附属病院にリハビリテーション部を設置。</li> </ul>
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>移民研究センターを設置。</li> </ul>
2004	平成16年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>国立大学から国立大学法人へと変わった</b></li> <li>大学院医学研究科修士課程医科学専攻を設置。</li> <li>大学院法務研究科法務専攻を設置。</li> <li>学術国際部の設置。</li> <li>知的財産本部を設置。</li> <li>経理部を財務部に名称変更。</li> <li>施設部を施設運営部に名称変更。</li> <li>その他国立大学法人化に伴い、事務組織の再編及び名称変更等を行う。</li> </ul>
2005	平成17年 2月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構を設置。</li> <li>法文学部に観光科学科を設置。</li> </ul>
	4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院人文社会科学研究所(修士課程)を大学院人文社会科学研究所(博士前期・後期課程)として、既設の修士課程(総合社会システム専攻、人間科学専攻、国際言語文化専攻)を博士前期課程とし、博士後期課程に比較地域文化専攻を設置。</li> <li>大学院教育学研究科に障害児教育専攻、臨床心理学専攻を増設。</li> <li>語学センターを外国語センターに名称変更。</li> </ul>
2006	平成18年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院人文社会科学研究所(修士課程)を大学院人文社会科学研究所(博士前期・後期課程)として、既設の修士課程(総合社会システム専攻、人間科学専攻、国際言語文化専攻)を博士前期課程とし、博士後期課程に比較地域文化専攻を設置。</li> <li>大学院教育学研究科に障害児教育専攻、臨床心理学専攻を増設。</li> <li>語学センターを外国語センターに名称変更。</li> </ul>
2007	平成19年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>法文学部総合社会システム学科経営学専攻を改組し、法文学部産業経営学科を設置。</li> <li>大学院保健学研究科(修士課程)を大学院保健学研究科(博士前期・後期課程)とした。</li> <li>機器分析センター、放射性同位元素等取扱施設、環境安全センターを統合し、機器分析支援センターを設置。</li> </ul>
2008	平成20年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光産業科学部(観光科学科、産業経営学科)を設置。(法文学部観光科学科、産業経営学科は募集停止)</li> <li>特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科へ名称変更。</li> <li>島嶼防災研究センターの設置。</li> <li>遺伝子実験センターを分子生命科学研究センターへ名称変更。</li> <li>地域共同研究センターと知的財産本部を統合し、産学官連携推進機構へ名称変更。</li> </ul>
2009	平成21年 4月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>農学部3学科(生物生産学科、生産環境学科、生物資源科学科)を改組し、4学科(亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科、亜熱帯生物資源科学科)を設置。</li> <li>教育学部附属障害児教育実践センターを教育学部附属発達支援教育実践センターへ名称変更。</li> <li>大学院観光科学研究科(修士課程)(観光科学専攻)設置。</li> <li>アジア太平洋島嶼研究センター、アメリカ研究センター、移民研究センター、法文学部附属アジア研究施設を統合し、国際沖縄研究所を設置。</li> <li>分子生命科学研究センターを熱帯生物圏研究センターへ統合。</li> <li>学術国際部の国際企画課と留学生課を統合し、国際課を設置、地域連携推進室を地域連携推進課に格上げ。</li> </ul>



1950年代本館南より背後に首里市街地を臨む



1956年(昭和31)頃の琉球大学全景



開学50周年を記念して開館した研究者交流施設・50周年記念館

## 熱中するものに出会える琉大キャンパス

### ● 学年暦 Academic Calender ※1

前 学 期	
(平成21年)	
4月1日(水)	学年及び前学期開始
4月1日(水)～4月2日(木)	春季休業
4月3日(金)	成績通知書交付・時間割表配布
4月6日(月)～4月9日(木)	前学期仮登録(6日は午後から)
4月6日(月)	入学式
4月6日(月)～4月8日(水)	新入生オリエンテーション
4月8日(水)～4月22日(水)	定期健康診断
4月13日(月)	前学期履修登録確認表配布
4月14日(火)	前学期授業開始
4月14日(火)～4月27日(月)	登録調整期間
5月1日(金)～10月30日(金)	教育実習
5月21日(木)	体育祭(休講)
5月22日(金)	開学記念日(休講)
6月23日(火)	慰霊の日(休講)
7月18日(土)	琉球大学説明会(オープンキャンパス)
7月30日(木)～7月31日(金)	補講等期間(※2)
8月4日(火)～8月10日(月)	前学期期末試験
8月11日(火)	英語全学統一テスト(1年次対象※6)
8月12日(水)	予備日(※3)
8月13日(木)～9月30日(水)	夏季休業
9月30日(水)	前学期終了

- 1: 医学部医学科第3年次以降の学年暦はこの学年暦に準じ、医学部において定める。
- 2: 補講等期間は、授業科目の曜日に関係なく補講に利用できるものとし、期末試験を行わない。
- 3: 8月12日(水)は前学期期末試験の予備日とし、他の試験・補講・実習等を行わない。
- 4: 2月12日(金)は後学期期末試験の予備日とし、他の試験・補講・実習等を行わない。
- 5: 10月16日(金)、12月24日(木)は月曜日の振替日とし、他の曜日の講義・試験・補講・実習等を行わない。
- 6: 平成21年度入学者が対象。

後 学 期	
(平成21年)	
10月1日(木)	後学期開始
10月1日(木)	成績通知書交付・時間割表配布
10月1日(木)～10月6日(火)	後学期仮登録(1日は午後から)
10月3日(土)～10月4日(日)	琉大祭
10月8日(木)	後学期履修登録確認表配布
10月9日(金)	後学期授業開始
10月9日(金)～10月23日(金)	登録調整期間
10月16日(金)	月曜日授業振り替え(※5)
12月24日(木)	月曜日授業振り替え(※5)
12月26日(土)～1月4日(月)	冬季休業

(平成22年)	
1月5日(火)	後学期後半授業開始
1月15日(金)	補講等期間(15日は午前だけ)(※2)
1月16日(土)～1月17日(日)	大学入試センター試験(15日午後は準備休講)
2月2日(火)～2月3日(水)	補講等期間(※2)
2月4日(木)～2月10日(水)	後学期期末試験
2月12日(金)	予備日(※4)
2月13日(土)～3月31日(水)	春季休業
2月25日(木)～2月26日(金)	入学者選抜第2次試験「前期日程」
3月12日(金)～3月13日(土)	入学者選抜第2次試験「後期日程」
3月23日(火)	卒業式
3月31日(水)	学年及び後学期終了

### ● サークル活動 Clubs

琉球大学には体育系、文化系の様々なサークルがあります。同じ目的や共通の趣味を持つ学生が集まり課外活動を行うことにより、専門的な知識や技術の習得等、より充実したキャンパスライフを送ることができます。

また、課外活動を通じた学部・学科、学年の枠を超えた先輩・後輩や友人との出会いは、在学中はもちろん、これから先の人生においても貴重なものとなるでしょう。

琉球大学は、活気に満ち溢れた学生たちの課外活動をサポートしています。

#### 体育系

ウィンドサーフィン部、アイスホッケー部、体操部、トライアスロン部、テコンドー部、ソフトボール部、バスケットボール部、硬式庭球部、合気道部、硬式野球部など約60団体

#### 文化系

法政エイサー、フィルハーモニー管弦楽団、八重山芸能研究会、ボランティアサークル、劇団テトラ、落語研究会、ロック同好会、漫画研究会など約40団体

#### 医学部 体育系

弓道部、硬式テニス部、準硬式野球部、卓球部、水泳部、バドミントン部、陸上競技部など約20団体

#### 医学部 文化系

熱帯医学研究会、華道部、中国医学研究会、棋道部、軽音楽部など約10団体



体操部(ラート)



琉球芸能研究クラブ



フィルハーモニー管弦楽団



ヨット部

## ● 学術刊行物 Academic Publications

法文学部紀要(琉大法学) Ryudai Law Review	年 2 回発行
法文学部紀要(政策科学・国際関係論集) Review of Policy Science and International Relations	年 1 回発行
観光産業科学部紀要(観光科学) Journal of Tourism Sciences	年 1 回発行
観光産業科学部紀要(経済研究) Ryukyu University Economic Review	年 2 回発行
法文学部紀要(言語文化研究) Scripsimus	年 1 回発行
法文学部紀要(人間科学) Human Sciences Bulletin of The Faculty of Law and Letters	年 2 回発行
法文学部紀要(日本東洋文化論集) Bulletin of The Faculty of Law and Letters	年 1 回発行
法文学部紀要(欧米文化論集) Ryudai Review of Euro-American Studies	年 1 回発行
琉大アジア研究 Ryudai Asian Studies	年 1 回発行
教育学部紀要 Bulletin of the Faculty of Education	年 2 回発行
附属教育実践総合センター紀要 Bulletin of the Faculty of Education Center for Educational Research and Development	年 1 回発行
附属発達支援教育実践センター紀要 Bulletin of Development Support Educational Practice Center	年 1 回発行
附属小学校紀要	年 1 回発行
附属中学校紀要	年 1 回発行

理学部紀要 Ryudai Faculty of Science Journal of Mathematics	年 2 回発行
理学部紀要数学篇分冊 Ryukyu Mathematical Journal	年 1 回発行
沖縄島嶼研究 Island Studies In Okinawa	年 1 回発行
医学部研究概要 Annual Report on Research Activities by The Faculty of Medicine	年 1 回発行
工学部紀要 Bulletin of the Faculty of Engineering	年 1 回発行
研究最前線	2 年 1 回発行
農学部学術報告 The Science Bulletin of The Faculty of Agriculture	年 1 回発行
附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター年報 Annual Report of the Subtropical field Science Center Faculty of Agriculture	年 1 回発行
熱帯生物圏研究センター年報 Annual Report Tropical Biosphere Research Center	年 1 回発行
生涯学習教育研究センター研究紀要 Journal of Education and Research for Lifelong Learning	年 1 回発行
留学生センター紀要 Bulletin of International Student Center	年 1 回発行
大学評価センタージャーナル「大学探究」 The Journal of University Studies	年 1 回発行

## ● 研究者交流施設・50周年記念館

### Researcher Exchange Facility・ 50th Anniversary Memorial Hall

開学 50 周年記念事業において、50 年の歴史と開学の精神・理念を象徴するモニュメントとして、研究者交流施設との合築により建設され、同窓会等との連携協力を推進するためラウンジ、展示室を有する。

This Researcher Exchange Facility was constructed as part of our 50th anniversary celebrations. It stands as a symbol of our university's 50-year history, spirit, and educational philosophy. It contains a lounge and exhibition room to promote collaboration between our university and the alumni association.



## ● 高額寄附者顕彰モニュメント

### Memorial Rainbow Wall

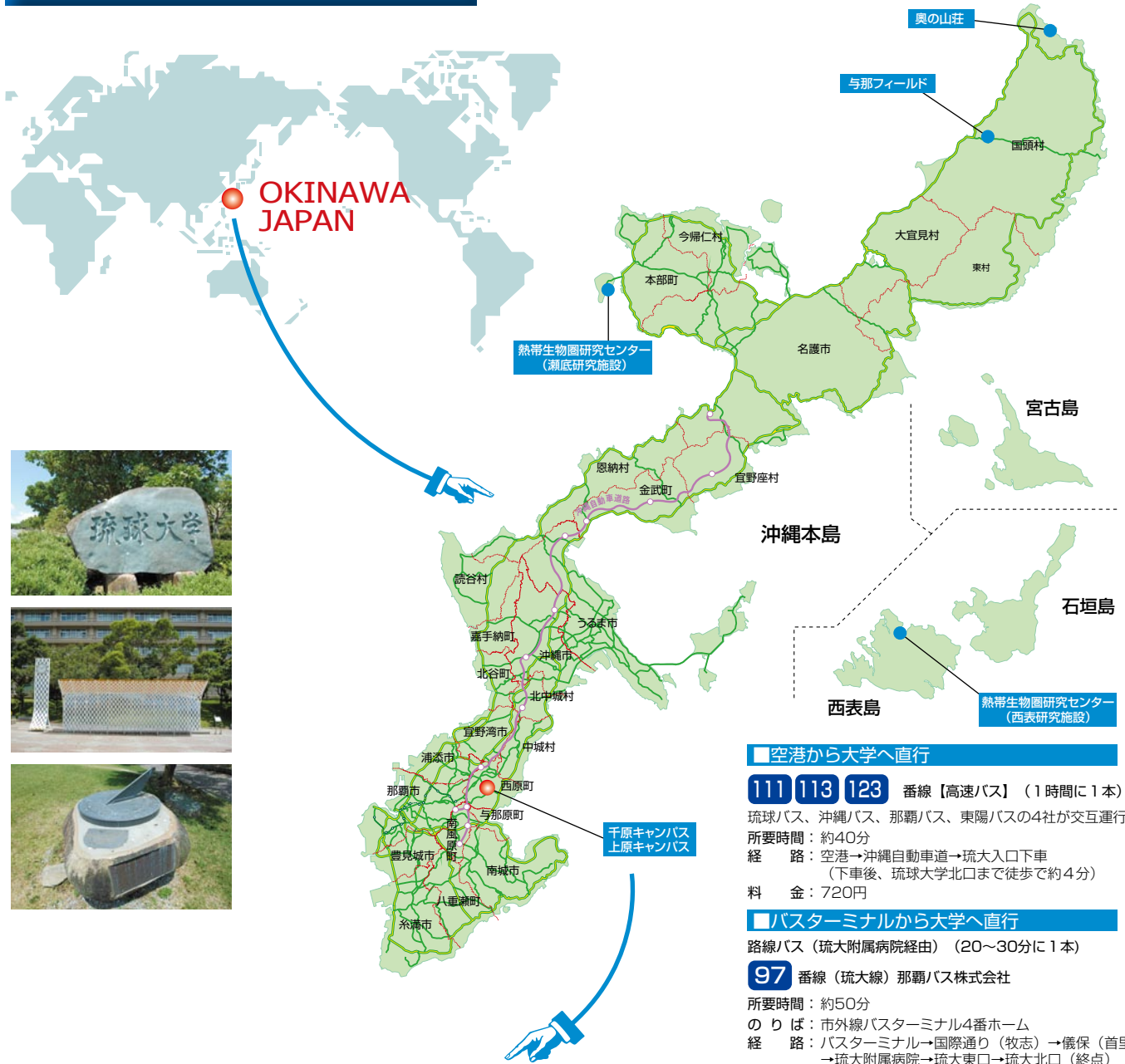
本学に高額な寄附を頂いた方への感謝の意を込め、寄附された方々の氏名及び団体名を表示しています。

沖縄の自然の光がモニュメント内にとりこまれ、まるで光の壁がそこにあるような「光と色」のハーモニーをくりひろげることから、「Memorial Rainbow Wall」と称しています。

As a way of showing our appreciation to those who have made generous contributions to our university, we have erected a monument that displays the contributor's name and affiliation. The "Memorial Rainbow Wall" captures the natural light of Okinawa. Light and color unfold harmoniously in front of your eyes, like a wall of light.



# 琉球大学へのアクセス Access



## ■空港から大学へ直行

**111 113 123** 番線【高速バス】(1時間に1本)  
 琉球バス、沖縄バス、那覇バス、東陽バスの4社が交互運行  
 所要時間: 約40分  
 経路: 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車  
 (下車後、琉球大学北口まで徒歩で約4分)  
 料金: 720円

## ■バスターミナルから大学へ直行

路線バス (琉大附属病院経由) (20~30分に1本)  
**97** 番線 (琉大線) 那覇バス株式会社  
 所要時間: 約50分  
 のりば: 市外線バスターミナル4番ホーム  
 経路: バスターミナル→国際通り(牧志)→儀保(首里)  
 →琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)  
 料金: 590円

## ■南城市から大学へ

路線バス (パイバス経由) (20~30分に1本)  
**98** 番線 (琉大線) 琉球バス株式会社  
 所要時間: 約40分  
 のりば: 旭橋バス停  
 経路: 我那覇→バスターミナル→国際通り(牧志)→  
 パイバス→真栄原→沖国大前→琉大北口(終点)  
 料金: 590円

## ■南城市から大学へ

**58** 番線 (馬天琉大泡瀬線) 東陽バス  
 のりば: 馬天営業所  
 経路: 馬天(営)→知念高校前→与那原→琉大東口→  
 琉大北口→中部商業高校前→長田→普天間→  
 渡口→泡瀬(営)  
 料金: 550円(琉大北口)

## ■モノレールで琉球大学へ

空	モノレール	●所要時間: 約25分 ●料金: 290円	儀保駅	路線バス <b>97</b> (那覇バス)	●料金: 370円	琉球大学
	港	モノレール	●所要時間: 約27分 ●料金: 290円	首里駅	タクシー	



# Telephone Numbers and Addresses 施設等電話番号・所在地

施設等	代表番号	Eメールアドレス	所在地
大学本部	(098-895-ダイヤルイン)		
総務部総務課	8012	sosoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
人事課	8023	jinninyo1@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
企画課	8105	kkkaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
財務部財務企画課	8044	zksoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
資金管理課	8085	sksikin@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
契約課	8059	kytyoutatu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
学生部学生課	8127	gkgkari@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
教務課	8848	kykyd1k@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
入試課	8141	nsnsd1@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
就職課	8118	sysykari@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
アドミッション・オフィス	8149	aopost@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
学術国際部研究協力課	8016	knknkyu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
地域連携推進課	8019	kntikis@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
国際課	8139	kosoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
施設運営部施設企画課	8067	sukksomu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
計画整備課	8072	sukkei1@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
環境整備課	8076	sukksd1@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
評価室	8109	hyohka@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
保健管理センター	8144		
附属図書館	8153	tksoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
医学部分館	1052	tsigaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
法文学部	8182	hbsoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
法務研究科	8091	bhhdak@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
観光産業科学部	8980	kkkanko@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
教育学部	8315	kisoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
附属教育実践総合センター	8847		
附属発達支援教育実践センター	8421		
附属小学校	8454	kigakkos@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
附属中学校	8462	kigakko@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
理学部	8586	rgsoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
医学部	(098)895-3331		
事務部	1009	igzsoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
附属病院総務課	1010	byssoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
経営企画課	1018	ikesm@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
経営管理課	1026	ikkkeiri@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
医療支援課	1040	iisig@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
工学部	8589	kgsoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
農学部	8733	ngsoumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
亜熱帯フィールド科学教育 研究センター(千原フィールド)	8740	ngsisetu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒905-1427 沖縄県国頭郡国頭村字与那685番地
亜熱帯フィールド科学教育 研究センター(与那フィールド)	(0980)41-2242		
大学教育センター	8848	kykyd1k@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
熱帯生物圏研究センター			
西原本部	8965		〒905-0227 沖縄県国頭郡本部町字瀬底3422番地 〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原870番地
分子生命科学施設	8943	comb@comb.u-ryukyu.ac.jp	
瀬底研究施設	(0980)47-2888		
西表研究施設	(0980)85-6560		
産官学連携推進機構	8597		
機器分析支援センター	8967	irc@lab.u-ryukyu.ac.jp	
機器分析施設	8967		
環境安全施設	8068		
RI施設	8951		
生涯学習教育研究センター	8019		
総合情報処理センター	8948	admin@cc.u-ryukyu.ac.jp	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
留学生センター	8139	ryryc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
外国語センター	(3号館) 8842 (4号館) 8843	lab@jim.u-ryukyu.ac.jp	
資料館(風樹館)	8841	fujukan@agr.u-ryukyu.ac.jp	
極低温センター	8954	lrc@w3.u-ryukyu.ac.jp	
大学評価センター	8109	hyohka@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
就職センター	8118	sysykari@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
島嶼防災研究センター	8036	knkuodor@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
国際沖縄研究所	8475・8295	knkuodor@to.jim.u-ryukyu.ac.jp h093251@ll.u-ryukyu.ac.jp	
研究推進戦略室	8932	knknkyu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	
亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構	8932	knknkyu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp	



## 琉球大学概要 University of the Ryukyus 2009

平成21年6月発行

編集発行

琉球大学総務部総務課広報・情報室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話(098)895-8175

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

デザイン・印刷

株式会社 平山印刷

〒901-0225 沖縄県豊見城市字字崎3-59

電話(098)995-6233(代) FAX(098)850-8855

<http://www.hirayama.info>



私達は大切な資源と  
環境を守ります。  
この冊子は再生紙を  
使用しています。

琉球大学



真理の探究

地域・国際社会への貢献

平和・共生の追求



平成21年度

# 琉球大学概要

University of the Ryukyus  
2009

[編集発行]

琉球大学総務部総務課広報・情報室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話(098)895-8175

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>